

京 都 市 内 遺 跡
試 掘 ・ 立 会 調 査 報 告

国庫補助による試掘・立会調査報告

昭和 54 年度

京都市文化観光局文化財保護課

序

京都市内の埋蔵文化財包蔵地内で行われる土木工事等に伴って提出される届出と通知の件数は、昭和50年度に297件であったが、昭和54年度には973件へと、およそ3倍にも増加し、全国でも最も多い数字となっております。

この数字は、文化財保護の観点からは、むしろ埋蔵文化財を堆積保有している土地が掘り返され、遺構などの考古学上の貴重な資料が次々と破壊され、永遠に失われていることを示しており、決して喜ばしい数字とは言えないものであります。

埋蔵文化財は、現代文明に至るまでの私達の祖先の生活、文化の変遷を知るうえで欠くことのできない重要な資料であります。京都市ではこれら破壊されてゆく埋蔵文化財に学術的なメスを入れ、その記録を後世に残してゆくために国庫補助を得て調査を実施しています。

この冊子は、昭和54年度において本市が財団法人京都市埋蔵文化財研究所の協力を得て調査を実施した京都市内遺跡の試掘及び立会調査の結果を報告書としてまとめたものであります。なお土木工事等の施主を始め建設業者その他調査のためにご協力をいただいた皆様に心より感謝の意を表します。

昭和55年3月31日

京都市文化観光局

例 言

1. 本報告書は、京都市が昭和54年度文化庁国庫補助を得て実施した。京都市内遺跡の試掘・立会調査の報告書である。調査にあつては、財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査員ならびに京都市文化観光局文化財保護課の担当技師がこれにあつた。
2. 本報告書に使用した地図は、京都市長の承認を得て調整したものである。
3. 本報告書中の32ページより103ページまでの地形図はすべて $\frac{1}{5000}$ に統一した。
4. 実測図中のLHは水準高でありLH=35mの場合、標高35mをさす。
5. 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所の方法に基き使用した。
6. 本報告書の各遺跡概要の執筆は、京都市埋蔵文化財研究所より出向し調査にあつた調査員が行い、担当者名を文末に記した。
7. 本文中の平安宮跡復元図は、平安博物館・津田菊太郎氏等の復元案を基に、京都市が発掘調査を実施した成果から推定復元したものである。
8. 本文中の平安京条坊復元図は、杉山信三氏の復元案を基に作成した。
9. 調査一覧表の番号は、実施した調査の順に1～596とし、番号に○印のあるものは、本文中に調査概要を記載してある。また番号は調査位置を示す地図の番号と一致する。遺跡名で京は平安京を、宮は平安宮を表わす。
10. 概要報告の順序は、平安京跡・平安宮跡・鳥羽離宮跡・伏見城跡・京都市北東部地区・山科地区・桂川右岸以西地区・深草地区等となっており、番号順通りとはしていない。
11. Fig 73からFig 90までの図で△印は試掘調査、○印は立会調査を示す。
12. 本報告書全般の調整、校正は梶川敏夫、北田栄造（京都市文化観光局文化財保護課）鈴木広司（京都市埋蔵文化財研究所）が行った。また、本書の作成にあたり以下の諸氏の協力を得た。

尾藤徳行・竜子正彦・山下俊弘・西家淳朗・北野 均・近藤孝夫

調査件数	試掘調査(77件)立会調査(519件) 計596件
調査期間	昭和54年4月1日～昭和55年3月31日
調査費	10,000,000円(国庫補助5,000,000円 京都市負担5,000,000円)
調査委員	木村捷三郎・杉山信三・田中 琢・田辺昭三 角田文衛・林屋辰三郎・福山敏男

目 次

試掘・立会調査一覧表	1
平安京跡	19
平安宮跡	20
鳥羽離宮跡	21
長岡京跡	22
六勝寺跡	23
伏見城跡	24
京都市北東部地区	25
京都市北西部地区	26
山科地区	27
桂川右岸以西地区	28
深草地区	29
平安京跡	
左京一条三坊跡試掘調査	(№ 233) 30
左京三条三坊 〃	(№ 171) 32
左京二条三坊 〃	(№ 232) 34
左京五条三坊 〃	(№ 506) 36
左京五条四坊 〃	(№ 178) 38
左京六条二坊 〃	(№ 375) 40
左京七条一坊 〃	(№ 447) 42
左京一条三坊跡立会調査	(№ 267) 44
左京二条四坊 〃	(№ 251) 45
左京三条四坊 〃	(№ 186) 46
左京四条三坊 〃	(№ 311) 47
左京四条三坊 〃	(№ 381) 49
左京五条二坊 〃	(№ 353) 50
左京五条二坊 〃	(№ 27) 51
左京五条三坊 〃	(№ 317) 52
左京五条四坊 〃	(№ 268) 53

左京五条四坊跡立会調査	(№ 55)	54
左京七条三坊 〃	(№ 65)	55
左京七条三坊 〃	(№ 301)	56
左京七条四坊 〃	(№ 284)	57
左京八条三坊 〃	(№ 282)	58
左京八条四坊 〃	(№ 258)	59
左京三条三坊跡試掘調査	(№ 89)	60
左京四条三坊 〃	(№ 225)	60
左京五条三坊 〃	(№ 151)	61
左京七条三坊 〃	(№ 408)	61
右京北辺三坊跡試掘調査	(№ 403)	62
右京一条二坊 〃	(№ 559)	64
右京一条三坊 〃	(№ 524)	67
右京五条二坊 〃	(№ 304)	69
右京一条二坊跡立会調査	(№ 384)	72
右京二条二坊 〃	(№ 440)	73
右京六条四坊 〃	(№ 350)	74
右京八条二坊 〃	(№ 164)	75
右京八条二坊 〃	(№ 472)	76
平安宮跡		
平安宮内裏跡立会調査	(№ 31)	77
平安宮右馬寮跡立会調査	(№ 107)	78
平安宮兵部省跡 〃	(№ 149)	79
鳥羽離宮跡		
鳥羽離宮跡試掘調査	(№ 133)	80
上鳥羽遺跡 〃	(№ 121)	82
伏見城跡		
伏見城跡試掘調査	(№ 154)	83
伏見城跡立会調査	(№ 134)	84

京都市北東部地区

植物園北遺跡試掘調査	(№ 329)	85
植物園北遺跡立会調査	(№ 369)	88
植物園北遺跡 //	(№ 383)	89
紫野斎院跡隣接地立会調査	(№ 192)	90
出雲寺跡立会調査	(№ 221)	91

山科地区

醍醐寺旧境内試掘調査	(№ 269)	92
------------	-----------	----

桂川右岸以西地区

中久世遺跡試掘調査	(№ 333)	96
-----------	-----------	----

深草地区

西飯食町遺跡試掘調査	(№ 446)	98
西飯食町遺跡立会調査	(№ 114)	100
深草遺跡試掘調査	(№ 390)	101
法性寺跡立会調査	(№ 298)	102

北野廃寺試掘調査	(№ 98)	103
----------	----------	-----

北野廃寺立会調査	(№ 71)	103
----------	----------	-----

中臣遺跡試掘調査	(№ 441)	103
----------	-----------	-----

編集後記		104
------	--	-----

図 版 目 次

図版	一の1	平安京左京五条二坊跡	全 景 ・ 東から	(№ 506)
	一の2	〃 〃 六条二坊跡	全 景 ・ 北から	(№ 375)
	一の3	〃 〃 五条四坊跡	甕出土状況・西から	(№ 178)
	二の1	〃 〃 一条三坊跡	Dトレンチ全景・北から	(№ 233)
	二の2	〃 〃 三条三坊跡	溝・SD1 南壁東西断面・北から	(№ 171)
	三の1	〃 〃 二条四坊跡	遺物出土状況・東から	(№ 251)
	三の2	〃 〃 五条二坊跡	石組み遺構検出状況・西から	(№ 27)
	四の1	〃 〃 五条三坊跡	井戸状遺構検出状況・東から	(№ 317)
	四の2	〃 〃 七条三坊跡	土塚墓検出状況・南から	(№ 65)
	五の1	〃 〃 七条三坊跡	南壁東西断面・北から	(№ 301)
	五の2	〃 〃 五条三坊跡	池・汀部分検出状況・南から	(№ 151)
	六の1	〃 〃 七条三坊跡	烏丸坊門小路側溝検出状況・西から	(№ 408)
	六の2	〃 〃 七条三坊跡	〃 〃 ・東から	(№ 408)
	六の3	平安京右京北辺三坊跡	溝断面・北から	(№ 403)
	七の1	〃 右京一条二坊跡	遺物出土状況・西から	(№ 559)
	七の2	〃 右京 〃	全景(第一層)・北から	(№ 559)
	八の1	〃 右京 〃	溝断面(第三層)・南から	(№ 559)
	八の2	〃 右京 〃	全景(第三層)・北から	(№ 559)
	九の1	〃 右京一条三坊跡	全 景 ・ 南から	(№ 524)
	九の2	〃 右京一条二坊跡	柱穴検出状況・南から	(№ 384)
	十の1	〃 右京六条四坊跡	弥生土器出土状況・北から	(№ 350)
	十の2	〃 右京五条二坊跡	第2・第3トレンチ全景・南から	(№ 304)
	十の3	〃 右京八条二坊跡	井戸検出状況・南から	(№ 164)
	十一の1	鳥羽離宮跡	南壁東西断面・北から	(№ 133)
	十一の2	上鳥羽遺跡	南壁東西断面・北から	(№ 121)
	十二の1	伏見城跡	西壁南北断面・東から	(№ 154)
	十二の2	〃	全 景 ・ 南から	(№ 154)
	十三の1	〃	全 景 ・ 北から	(№ 134)
	十三の2	〃	石垣検出状況・南西から	(№ 134)
	十四の1	植物園北遺跡	全景(第一層)・南から	(№ 329)

十四の2	植物園北遺跡	全景(第二層)・南から	(No.329)
十五の1	醍醐寺旧境内	A1区遺物出土状況・南西から	(No.269)
十五の2	〃	C3区土竪状遺構検出状況・南から	(No.269)
十六の1	中久世遺跡	全景南半分・北から	(No.333)
十六の2	西飯食町遺跡	調査区断面・東から	(No.446)
十六の3	〃	全景・西から	(No.446)
十七の1	〃	井戸検出状況・南から	(No.114)
十七の2	〃	東壁南北断面・西から	(No.114)
十八の1	深草遺跡	瓦器椀出土状況・西から	(No.390)
十八の2	法性寺跡	北壁東西断面・南西から	(No.298)

遺物

十九の1	平安京右京六条四坊跡	弥生土器	水注	(No.350)
2	〃	弥生土器	壺	(No.350)
3	〃	弥生土器	線刻画のある甕	(No.350)
二十の1	平安京左京五条三坊跡	土師器	壺	(No.353)
2	〃	土師器	高杯脚部	(No.353)
3	〃	土師器	壺	(No.353)
4	平安京右京一条二坊跡	灰釉陶器皿	・墨書	(No.559)
二十一の1	平安京右京八条二坊跡	土師器杯		(No.472)
2	平安京右京二条二坊跡	須恵器椀		(No.440)
3	〃	灰釉陶器		(No.440)
4	〃	灰釉陶器		(No.440)
5	平安京左京六条二坊跡	土師器鉢		(No.375)
6	平安京左京六条二坊跡	土師器鉢		(No.375)
7	深草遺跡	瓦器椀		(No.390)
8	平安京左京八条三坊跡	瓦器釜		(No.328)

插图目次

	頁
Fig. 1 調查位置図	31
2 東壁断面図	31
3 調查位置図	32
4 南壁断面図	33
5 調查位置図	35
6 南壁断面図	35
7 調查位置図	37
8 北壁断面図	37
9 調査地平面図	38
10 調査位置図	39
11 北壁断面図	39
12 調査位置図	41
13 西壁断面図	41
14 調査位置図	43
15 北壁断面図	43
16 調査位置・南壁断面図	44
17 調査位置・西壁断面図	45
18 調査位置・北壁断面図	46
19 調査位置・東壁断面図	48
20 調査位置・南壁断面図	49
21 調査位置・南壁断面図	50
22 調査位置・北壁断面図	51
23 調査位置・西壁断面図	52
24 調査位置・南壁断面図	53
25 調査位置・北壁断面図	54
26 調査位置・北壁断面図	55
27 調査位置・南壁断面図	56
28 調査位置・西壁断面図	57
29 調査位置・南壁断面図	58
30 調査位置・西壁断面図	59

	頁
Fig 31 調査位置図	63
32 南壁断面図	63
33 調査位置図	65
34 南壁断面図	65
35 平面図	66
36 調査位置図	68
37 南壁断面図	68
38 調査位置図	71
39 東壁断面図	71
40 調査位置図	72
41 北壁断面図	72
42 調査位置・南壁断面図	73
43 調査位置図	74
44 東壁断面図	74
45 調査位置・北壁断面図	75
46 調査位置・南壁断面図	76
47 調査位置・北壁断面図	77
48 調査位置・東壁断面図	78
49 調査位置・北壁断面図	79
50 調査位置・南壁断面図	81
51 調査位置・東壁断面図	82
52 調査位置・西壁断面図	83
53 調査位置図	84
54 石垣立面図	84
55 調査位置図	86
56 南壁断面図	86
57 平面図	87
58 調査位置・北壁断面図	88
59 調査位置・西壁断面図	89
60 調査位置・北壁断面図	90

	頁
Fig 61 調査位置・南壁断面図	91
62 調査位置図	94
63 北壁断面図	94
64 平面図	95
65 調査位置図	97
66 東壁断面図	97
67 調査位置図	99
68 南壁断面図	99
69 調査位置・東壁断面図	100
70 調査位置・西壁断面図	101
71 調査位置図	102
72 北壁断面図	102
73 平安宮推定復元図及び調査位置図	105
74 平安京条坊復元図及び調査位置図	106
75 平安京条坊復元図及び調査位置図	107
76 平安京条坊復元図及び調査位置図	108
77 平安京条坊復元図及び調査位置図	109
78 平安京条坊復元図及び調査位置図	110
79 平安京条坊復元図及び調査位置図	111
80 平安京条坊復元図及び調査位置図	112
81 平安京条坊復元図及び調査位置図	113
82 平安京条坊復元図及び調査位置図	114
83 平安京条坊復元図及び調査位置図	115
84 平安京条坊復元図及び調査位置図	116
85 平安京条坊復元図及び調査位置図	117
86 京都市北部調査位置図	118
87 京都市東部調査位置図	119
88 京都市西部調査位置図	120
89 京都市東南部調査位置図	121
90 京都市西南部調査位置図	122

試掘・立会調査一覧表

(試掘は試掘試査・立会は立会調査の別を表わす, また遺跡名で, 跡・遺跡は割愛する)

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
1	立会	4/3	東・清水五丁目122	宝皇寺	なし	なし	掘削底面浅し
2	"	4/3	左・聖護院蓮華蔵町20	白河南殿	なし	なし	
3	"	4/3	下・岩上通木津屋橋下ル伊勢松町25	京・左京八条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
4	"	4/4	東・今熊野池田町35	法住寺殿	なし	なし	
5	"	4/4	上・仁和寺街道御前東入ル鳳端町222	宮・正親司・安女司	なし	なし	掘削底面浅し
6	"	4/5	伏・中島前山町3-5	鳥羽離宮	なし	なし	掘削底面浅し
7	"	4/5	中・油小路通夷川下ル藁屋町577-6	京・左京二条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
8	"	4/6	上・中立売通六軒町西入三軒町65-2	宮・大蔵省	なし	なし	掘削底面浅し
9	"	4/6	上・中立売通松屋町西入新白水丸町	宮・茶園	なし	なし	掘削底面浅し
10	"	4/6	下・高倉通仏光寺下ル新開町397-5	京・左京三条四坊	土塚	土師器	
11	"	4/6	下・七条西塩小路西入御所内北町64	京・右京八条二坊	なし	なし	
12	試掘	4/7	中・西ノ京春日町8	京・右京三条三坊	なし	なし	
13	立会	4/7	上・土屋町通下立売上ル田中町447	宮・内裏	なし	なし	
14	"	4/7	中・壬生森町50-45	京・右京四条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
15	"	4/7	下・西魚屋町246-1	京・左京七条三坊	なし	土師器 須恵器	
16	"	4/9	上・御前通下長者町東入三助町	宮・右近衛府	なし	なし	
17	"	4/10	上・上御霊前通鳥丸東入上御霊前町399-1	相国寺	なし	土師器	
18	"	4/10	左・聖護院川原町37	白河北殿	なし	なし	掘削底面浅し
19	"	4/11	南・西九条唐橋町17	京・右京九条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
20	"	4/11	伏・桃山町立売42	伏見城	なし	土師器	
21	"	4/11	上・智恵光院通丸太町下ル東入ル主税町1115-3	宮・宮内省	なし	なし	
22	"	4/12	中・壬生東大竹町27	京・右京四条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
23	試掘	4/13	上・下立売通新町東入東立売町95-3	京・左京一条三坊	なし	なし	
24	立会	4/13	伏・毛利町13	下鳥羽	なし	なし	
25	試掘	4/14	上・上立売通室町東入上立売東町37-1	相国寺	土塚・井戸	土師器・棧瓦	
26	立会	4/14	上・上長者町通浄福寺東入ル高台院町545	宮・縫殿寮	なし	なし	掘削底面浅し
27	"	4/16 17	下・油小路高辻東入ル永養寺町222	京・左京五条二坊	井戸	土師器 瓦器	P.51
28	"	4/16	下・朱雀分木町72	京・右京四条一坊	なし	なし	
29	"	4/16	中・西ノ京船塚町18	京・右京三条一坊	なし	なし	
30	"	4/16	左・聖護院蓮華蔵町54-5	六勝寺	なし	土師器	
31	"	4/17 18	上・出水通土屋町西入西神阴町	宮・内裏	柱穴、土塚	土師片、礎石、灰釉片	P.77
32	"	4/17	下・堺町通高辻下ル夕顔町487-2	京・左京五条四坊	なし	なし	掘削底面浅し
33	試掘	4/18	下・四条通新町東入ル月鉦町52	京・左京四条三坊	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
34	立会	4/18	中・聚楽廻り松下町14-3	宮・造酒司	なし	なし	
35	"	4/18	中・聚楽廻り松下町	宮・造酒司	なし	なし	
36	"	4/19	左・聖護院蓮華蔵町4-12	六勝寺	なし	なし	
37	"	4/19	下・綾小路通富小路西入塩屋町	京・左京五条四坊	なし	土師器	
38	"	4/19	下・上ノ町15	京・左京八条四坊	なし	なし	
39	"	4/21	上・榎木町通浄福寺西入中務町	宮・内裏	なし	なし	掘削底面浅し
40	"	4/21	上・出水通猪熊西入荒神町423	聚楽第	なし	なし	掘削底面浅し
41	"	4/22	下・大宮通高辻下ル高辻大宮町110-8	京・左京五条二坊	なし	なし	
42	試掘	4/24	右・太秦西蜂岡町27	広隆寺	なし	なし	
43	立会	4/24	上・上長者町通新町西入土御門町327	京・左京一条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
44	"	4/25	上・上御豊馬場町	相国寺	なし	なし	
45	"	4/25	中・新京極通錦小路上ル東側町531	京・左京四條四坊	なし	なし	
46	"	4/25	伏・新町4丁目465	伏見城	なし	なし	
47	"	4/25	伏・桃山泰長老93-7	伏見城	なし	なし	掘削底面浅し
48	"	4/25	南・久世中久世町3丁目	中久世	なし	なし	掘削底面浅し
49	"	4/25	下・間の町通高辻通下ル稻荷町536	京・左京五条四坊	なし	土師器	掘削底面浅し
50	試掘	4/26	右・常盤東ノ町	仁和寺南院	なし	土師器	
51	立会	4/25	中・錦小路大宮西入ル錦大宮町153	京・左京四條一坊	なし	須恵器	
52	"	4/26	下・河原町通松原上ル西入幸竹町380	京・左京五条四坊	なし	なし	
53	試掘	5/1	中・富小路三条下ル朝倉町	京・左京四條四坊	落ち込み	なし	
54	立会	5/2	下・堺町通高辻下ル夕顔町487-1	京・左京五条四坊	なし	なし	
55	"	5/2	下・寺町通四條下ル貞安前之町	京・左京五条四坊	土塚状落込	土師皿 カメ?	P54
56	"	5/2	中・堺町下通り竹屋町上ル橋町79	京・左京二條四坊	なし	土師器	掘削底面浅し
57	試掘	5/2	中・聚楽廻東町16	宮・朝堂院			調査済
58	立会	5/2	下・高辻通油小路東入永養寺町246-2	京・左京五条二坊	なし	なし	
59	"	5/7	右・西京極北庄境町	京・右京七條三坊	なし	なし	
60	"	5/7	上・相国寺北門前町	相国寺	なし	なし	
61	"	5/10	右・常盤一ノ井町13-4・9-4	一ノ井町	なし	なし	
62	"	5/9	南・久世上久世町161-13	上久世	なし	なし	掘削底面浅し
63	"	5/9	下・梅小路石橋町47	京・右京八條二坊	なし	なし	
64	"	5/9	下・西七条北東野町52	京・右京七條一坊(西市)	なし	なし	掘削底面浅し
65	"	5/9	下・不明門通花屋町上ル仏具町154-1・2	京・左京七條三坊	土塚	土師皿	P55
66	"	5/9	下・大宮通綾小路下ル綾大宮町50	京・左京五条二坊	土塚	なし	
67	"	5/9	下・松原通烏丸東入俊成町441	京・左京六條三坊	おち込み	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
68	立会	5/9	下・富小路五条上ル本神明町406	京・左京六条四坊	なし	なし	
69	"	5/16	右・西院日照町1819	京・右京五条四坊	なし	なし	
70	"	5/10	上・中立売通上堀川西入役人町251-25	京・左京北辺二坊	なし	なし	
(71)	"	5/12	北・下白梅町60	北野廃寺			発掘調査に切りかえ P.103
72	"	5/15	下・西新屋敷上之町128	京・左京七条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
73	"	5/11	伏・中島前山町3番地の4	鳥羽離宮	なし	なし	掘削底面浅し
74	"	5/11	西・大原野石見町	芝古墳群	なし	なし	
75	"	5/13	伏・桃山井伊掃部東町58	伏見城	なし	瓦・陶器	
76	"	5/15	伏・中島御所ノ内町27-10	鳥羽離宮	なし	なし	
77	試掘	5/15	中・壬生天ヶ池町27	京・右京四条一坊	なし	土師器・瓦	木器
78	立会	5/15	上・裏門通上長者町下ル亀木町	宮・梨本	なし	なし	掘削底面浅し
79	"	5/15	中・西ノ京南壺井町28-3	京・右京二条三坊	なし	なし	
80	"	5/15	下・西大路花屋町32番地	京・右京七条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
81	"	5/15	東・今熊野字阿弥陀峯町	鳥部野	なし	なし	掘削底面浅し
82	"	5/16	中・西ノ京藤ノ木町1-27	京・右京二条三坊	なし	なし	
83	"	5/16	上・七本松通り下長者町下ル東入3-271	宮・大歌所	なし	なし	
84	"	5/17	上・浄福寺通中立売下ル菱丸町169-3	宮・率分蔵	なし	なし	掘削底面浅し
85	"	5/17	中・聚楽廻り東町19	宮・朝堂院	なし	なし	掘削底面浅し
86	試掘	5/18	南・東九条西山本町10番ノ2	京・左京九条三坊	なし	なし	
87	立会	5/18	下・油小路通北小路上ル	京・左京七条二坊	なし	なし	
88	"	5/18	中・西ノ京北円町84番地先	京・右京一条二坊	なし	土師器・瓦	緑釉
(89)	試掘	5/22	中・三条通室町西入衣棚町55	京・左京三条三坊			発掘に切りかえ P.60
90	立会	5/22	上・一条通小川東入西之口町227	京・左京北辺二坊	なし	なし	
91	"	5/22	上・上立売通り新町西入西大路町75	新町校地	なし	なし	
92	"	5/22	上・一条通御前通西入下ル西町	京・右京北辺二坊	なし	なし	掘削底面浅し
93	"	5/22	上・千本丸太町東入北側129-3	宮・朝堂院			発掘済
94	"	5/22	北・西賀茂今原町5	船山窯	なし	なし	
95	"	5/24	伏・醍醐東大路町	醍醐寺	なし	なし	掘削底面浅し
96	"	5/24	中・聚楽廻り西町165-50	宮・裏の松原	なし	なし	
97	"	5/24	左・古川町仁王門上ル北門前町486	六勝寺	なし	なし	掘削底面浅し
(98)	試掘	5/25	北・北野東紅梅町6	北野廃寺			発掘調査に切りかえ P.103
99	"	5/28	伏・醍醐赤間西裏町16番地	醍醐寺			発掘調査に切りかえ
100	立会	5/28	左・北白川西町77-5	京都大学構内	なし	なし	掘削底面浅し
101	"	5/28	伏・桃山四丁目153	伏見城	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
102	立会	5/30	下・東洞院通正面上ル筒金町	京・左京七条四坊	なし	なし	
103	〃	5/30	中・西ノ京内畑町16	宮・刑部省	なし	なし	掘削底面浅し
104	〃	5/30	南・唐橋西寺町35番地の6	京・右京九条一坊(西寺)	なし	なし	掘削底面浅し
105	試掘	5/1	下・大宮通り丹波口下ル大宮三丁目	京・左京七条一坊	なし	土師器 瓦器	
106	立会	5/1	上・出水通り暮西入金馬場町	宮・職御曹司	なし	なし	
(107)	〃	6/1	中・西ノ京右馬寮町16番地1	宮・右馬寮	なし	土師器 須恵器	P.78
108	〃	6/1	南・吉祥院西ノ庄西中町13	京・右京九条三坊	なし	なし	
109	〃	6/4	伏・深草南明町 ¹³⁻³¹ ₂₂₋₈	法性寺	なし	なし	
110	〃	6/4	下・綾堀川町312	京・左京五条二坊	なし	なし	
111	〃	6/2	南・上久世町150-28	上久世	なし	なし	
112	〃	6/4	伏・中島外山町 ⁴⁻³ ₄₋₇	鳥羽離宮	なし	なし	
113	〃	6/4	下・西洞院通高辻上ル本柳水町789	京・左京五条二坊	落ち込み 溝	なし	
(114)	〃	6/4	伏・深草池ノ内町12	西飯食	溝・土城	土師器 陶器	P.100
115	〃	6/5	北・西賀茂船山町9-21	船山窯	なし	なし	
116	〃	6/5	下・東洞院綾小路下ル扇酒屋町284	京・左京五条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
117	〃	6/5	東・泉涌寺東林町 ³⁹⁻⁴⁸ ₃₉₋₇₇	法性寺	なし	なし	掘削底面浅し
118	試掘	6/6	上・下立売通り堀川西入西橋詰町290-3	京・左京一条二坊	溝・土城	土師器 須恵器	白磁
119	立会	6/6	下・西七条西八反田町11	京・右京七条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
120	〃	6/7	下・塩小路通り猪熊東入ル志水町136	京・左京八条二坊	なし	なし	
(121)	試掘	6/8	南・上鳥羽南花名町7	上鳥羽	なし	土師片	P.82
122	〃	6/9	中・夷川通富小路西入俵屋町296	京・左京二条四坊	なし	なし	
123	立会	6/9	下・室町松原西入ル中野之町189	京・左京六条三坊	整地層	なし	掘削底面浅し
124	試掘	6/11	下・四条通柳馬場西入立売中之町106	京・左京四条四坊	なし	なし	掘削底面浅し
125	立会	6/11	上・猪熊通一条上ル小寺町141-13	京・左京北辺二坊	なし	なし	掘削底面浅し
126	〃	6/11	下・仏光寺通高倉西入西前町358	京・左京五条四坊	なし	なし	掘削底面浅し
127	〃	6/12	中・河原町夷川指物町337	法興院	なし	なし	
128	〃	6/12	中・壬生花井町3	京・右京四条一坊			調査済地点
129	〃	6/12	下・寺町通り五条上ル西橋詰町743	京・左京六条四坊	なし	なし	
130	〃	6/12	下・高辻通油小路東入永養寺町225	京・左京五条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
131	〃	6/12	上・一条通浄福寺西入草堂ノ内町293	聚楽第	なし	なし	
132	〃	6/13	南・四ッ塚町35	京・左京九条一坊	なし	なし	
(133)	試掘	6/14	伏・中島堀端町27-1・中島中道町14	鳥羽離宮	なし	なし	P.80
(134)	立会	6/22	伏・桃山毛利長門西町6	伏見城跡	石垣	金箔瓦	P.84
135	〃	6/15	中・六角通室町西入王蔵137	京・左京四条三坊	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
136	試掘	6/26	東・本町5丁目	六波羅政庁	なし	土師器・瓦	
137	立会	6/19	中・壬生森前町7	京・右京五条一坊	なし	なし	
138	〃	6/19	下・東洞院通塩小路下ル東塩小路町681	京・左京八条四坊	落ち込みピット	土師器	
139	〃	6/19	中・蛸薬師室町西入ル姥柳町194	京・左京四条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
140	〃	6/20	上・河原町通荒神口上ル宮垣町83	法成寺	なし	なし	
141	〃	6/20	中・姉小路通富小路東入福長町123-1	京・左京三条四坊	なし	なし	
142	〃	6/20	中・壬生神明町1-8	京・右京四条一坊	なし	なし	
143	〃	6/20	下・七条通七本松東入朱雀北ノ口町28	京・右京七条一坊	なし	なし	
144	〃	6/20	中・御池通大官東入三十斤大官154	京・左京三条二坊	なし	なし	
145	〃	6/21	伏・竹田中殿町53-2	鳥羽離宮	なし	なし	掘削底面浅し
146	〃	6/22	下・西中筋通花屋町下ル堺町101	京・左京七条二坊	なし	なし	
147	〃	6/22	中・寺町通御池上ル上本能寺前町	京・左京三条四坊	なし	なし	
148	〃	6/23	中・三条通東堀川東入橋東詰町	京・左京四条二坊	井戸	陶器・木器	
149	〃	6/25	中・西ノ京星池町8	宮・兵部省	なし	土師器・瓦	P.79
150	〃	6/25	下・西七条市部町115	京・右京七条二坊	なし	瓦	
151	試掘	6/26	下・仏光寺通室町上ル白楽天町516	京・左京五条三坊	溝落ち込み	須恵器・緑釉・土師器・陶器・瓦・瓦器・青磁・白磁Excl	
152	立会	6/ 8	中・錦小路通御幸町西入鍛屋町215	京・左京四条四坊	なし	なし	
153	〃	6/28	左・岡崎徳成町28	六勝寺	なし	土師器・瓦	
154	試掘	7/ 2	伏・桃山町和泉 ³⁴⁻¹ ₃₄₋₄	伏見城	石積	土師器・木器 木片・古銭	P.83
155	立会	7/ 2	伏・下鳥羽芹川町9	下鳥羽	なし	なし	掘削底面浅し
156	〃	7/ 2	下・七条御所ノ内西町23-8	京・右京八条三坊	なし	なし	
157	〃	7/ 2	下・油小路七条上ル米屋町171	京・左京七条二坊	なし	埴重 須恵器	掘削底面浅し
158	〃	7/ 2	下・岩上通高辻上ル徳屋町	京・左京五条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
159	〃	6/26	山・勸修寺西金崎	中臣			調査済地点
160	〃	7/ 3	中・聚楽廻西町101	宮・豊楽院	なし	緑釉瓦	掘削底面浅し
161	〃	7/ 5	下・西中筋正面上ル堺町100-1	京・左京七条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
162	〃	7/ 5	中・西ノ京原町41	京・右京三条二坊	なし	なし	
163	試掘	7/ 6	中・三条通鞍屋町西入弁慶石町35	京・左京三条四坊	石垣	土師器・瓦 陶器	
164	立会	7/ 7	下・西七条南衣田町42-3	京・右京八条二坊	井戸・溝	須恵器・緑釉・陶磁器・瓦・瓦器・木器・土師器・弥生式土器・磁器・P.75	
165	〃	7/ 7	下・三ノ宮町通正面下ル三宮町	京・左京七条四坊	なし	なし	
166	〃	7/ 7	中・室町六角下ル	京・左京四条三坊	なし	なし	
167	〃	7/ 7	上・土屋町竹屋町上ル南主税町1203	宮・朝堂院	なし	なし	掘削底面浅し
168	〃	7/ 7	上・千本出世稲荷東入主税町	宮・朝堂院	なし	なし	
169	〃	7/ 8	下・高倉仏光寺新開町	京・左京五条四坊	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
170	試掘	7/9	伏・中島中道町15-10	鳥羽離宮	なし	なし	掘削底面浅し
(171)	"	7/10	中・円福寺町846	京・左京三条三坊	溝・井戸	土師器・陶器 瓦器・磁器	P32
172	立会	7/10	上・智恵光院通中立売下ル山 里町	宮・大宿直	なし	なし	掘削底面浅し
173	"	7/10	中・間之町二条上ル夷町583	京・左京二条四坊	なし	なし	掘削底面浅し
174	"	7/10	下・五条鳥丸交差点内北西	京・左京六条三坊	なし	なし	
175	試掘	7/11	下・西七条八幡町18	京・右京七条三坊	なし	なし	
176	立会	7/11	下・仏具屋町221~植松町1	京・左京七条二坊	なし	なし	
177	"	7/11	上・日暮通丸太町下ル南伊勢 屋町768	宮・大炊寮	なし	なし	掘削底面浅し
(178)	試掘	7/12	下・高倉通四条下ル高材木町	京・左京五条四坊	柱穴	須恵器・土師器 陶器・瓦	P38
179	立会	7/12	下・御幸町仏光寺上ル	京・左京五条四坊	なし	なし	
180	"	7/12	中・鞍屋町通二条下ル尾張町 210-4	京・左京三条四坊	なし	なし	
181	"	7/12	伏・淀本町167	淀城	なし	なし	
182	"	7/13	中・西ノ京町6	京・右京二条二坊	なし	須恵器・土師器 緑釉片・木器	
183	"	7/14	中・西ノ京式部町50-3	京・左京三条一坊	なし	なし	
184	"	7/16	下・烏丸通り五条下ル大阪町 392	京・左京六条三坊	なし	なし	
185	"	7/16	下・櫛笥通丹波口下ル裏片町 188	京・左京七条一坊	なし	なし	
(186)	"	7/18	中・姉小路通り東洞院東入笹 岡町446	京・左京三条四坊	柱穴	土師器	P46
187	"	7/17	下・中堂寺坊城町 ²⁸⁻⁵ 28-6	京・左京六条一坊	なし	須恵器・磁器 土師器	
188	"	7/17	伏・下板橋町579	板橋廃寺	なし	なし	掘削底面浅し
189	"	7/17	伏・桃山町泰長老128	伏見城	なし	瓦	
190	"	7/18	伏・丹後町704	伏見城	なし	なし	
191	"	7/18	下・河原町通万寿寺上ル植松 町131	京・左京六条四坊	なし	なし	
(192)	"	7/18	上・大宮通西裏盧山寺上ル堅 社南半町218	紫野斎院	なし	土師器 磁器	P90
193	"	7/18	下・西木屋町通松原通下ル難 波町413-2	京・左京六条四坊	なし	なし	
194	"	7/19	中・壬生東高田町8-2	京・右京六条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
195	"	7/23	伏・深草大亀谷大山町85番 地先	伏見城	なし	なし	
196	"	7/18	上・荒神口河原東入ル亀屋町126	法性寺	なし	なし	
197	"	7/20	伏・桃山町三河	伏見城	なし	なし	
198	"	7/20	伏・下鳥羽中島前山町	鳥羽離宮	なし	なし	
199	"	7/19	山・勤修寺東金ヶ崎町59-3	中臣	なし	なし	
200	"	8/20	伏・竹田小屋ノ内町	鳥羽離宮	なし	なし	
201	"	7/21	左・岡崎円勝寺町・東山区堀池 町	六勝寺	なし	瓦・土師器	
202	"	7/21	下・新町通五条上ル材木町 131・134-3	京・左京六条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
203	"	8/3	左・一乗寺青城町地先町	一乗寺向畑町	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
204	立会	7/22	中・壬生森前町23	京・右京五条一坊	なし	なし	
205	〃	7/22	下・七条千本東入ル上ル朱雀北ノ口町30	京・右京七条一坊	溝	土師器・陶器・瓦	
206	〃	7/23	伏・桃山町伊庭21-7	伏見城	なし	なし	掘削底面浅し
207	〃	7/23	上・丸太町御前西入下ノ町420	京・右京一条二坊	なし	なし	
208	〃	7/24	下・油小路通四条下ル石井筒町54	京・左京五条二坊	なし	土師器瓦器	掘削底面浅し
209	〃	7/24	下・六条通東中筋西入学林町279-2	京・左京七条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
210	〃	7/26	伏・深草田谷町地先 深草僧坊町地先	深草廃寺	なし	土師器・瓦器	
211	〃	7/25	伏・中島前山町3-14・15	鳥羽離宮	なし	なし	掘削底面浅し
212	〃	7/25	中・聚楽廻南町17-1	宮・豊楽院	なし	なし	
213	〃	7/25	上・智恵光院通中立売東入新白木町462-4	宮・主殿寮	土城	瓦	
214	〃	7/26	伏・桃山町泰長老13-2	伏見城	なし	なし	
215	〃	7/27	伏・下鳥羽中島中道町	鳥羽離宮	なし	なし	
216	〃	7/30	南・久世中久世町3丁目44-2	中久世	なし	なし	掘削底面浅し
217	〃	7/31	伏・桃山町金森出雲及び松平武蔵	伏見城	なし	なし	
218	〃	8/2	下・不明門通中珠数屋町上ル亀町6	京・左京七条三坊	なし	なし	
219	〃	8/2	中・室町新町ノ間錦小路下ル観音堂町	京・左京四条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
220	〃	8/2	南・八条源町20-1	京・左京九条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
221	〃	8/3	上・上御霊鳥居前通鞍馬口下ル御霊堅町447-12	出雲寺	なし	瓦	P91
222	〃	8/4	上・上立売通室町東入ル上立売東町	相国寺	石列	なし	掘削底面浅し
223	試掘	8/6	中・夷川通車屋町西入真如堂町295	京・左京二条三坊	なし	土師器・瓦器	
224	立会	8/6	中・西ノ京銅駝町48	京・右京三条二坊	なし	なし	
225	試掘	8/8	中・娑婆師通烏丸東入一蓮社町293	京・左京四条三坊	須恵器・陶磁器・土師器 陶器・瓦・瓦器・磁器	発掘調査に切りかえ	P60
226	立会	8/7	下・西新屋敷中之町121-45	京・左京七条一坊	なし	須恵器・土師器 緑釉・瓦	
227	〃	8/7	下・西七条西石ヶ坪町31-2	京・右京七条三坊	なし	なし	
228	〃	8/7	中・三条坊町14-5	京・右京三条二坊	なし	なし	
229	〃	8/7	中・壬生森町38	京・右京四条一坊	柱穴	なし	
230	試掘	8/8	西・椋原里野垣外町14ノ1及び2	椋原廃寺	なし	埴輪片	
231	立会	8/4	上・猪熊通一条下ル小寺町141-28	京・左京北辺二坊	なし	なし	掘削底面浅し
232	試掘	8/9	上・室町通丸太町上ル大門町267	京・左京二条三坊	溝	緑釉・瓦 土師器	P34
233	〃	8/10・11 12・13	上・衣棚通出水下ル常楽院町133-3	京・左京一条三坊	柱穴・土城 溝・井戸	須恵器・陶器・瓦・磁器 緑釉・土師器・瓦質土器	P30
234	立会	8/10	上・堀川通丸太町上ル上堀川町118	京・左京二条二坊	なし	なし	
235	〃	8/10	中・西ノ京小堀町2-59	宮・式部省	なし	なし	掘削底面浅し
236	〃	8/18	伏・竹田内畑町43-1・4・5	鳥羽離宮	なし	なし	
237	〃	8/18	上・中立売道堂町西入三丁目461-2	京・内膳町	なし	なし	掘削底面浅し

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
238	立会	8/18	上・猪熊通丸太町上ル木屋之町482	京・左京二条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
239	〃	8/18	上・七本松中立売下ル三軒町74	宮・大蔵省	なし	なし	
240	〃	8/18	下・綾小路西洞院西入芦刈山町129	京・左京五条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
241	〃	8/18	下・西新屋敷太夫町98-3	京・左京七条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
242	〃	8/20	中・西ノ京北壠井町147	京・右京二条三坊	なし	土師器 緑釉	
243	〃	8/20	中・室町通押小路下ル	京・左京三条三坊	なし	なし	
244	〃	8/20	上・室町通武者小路下ル福長町522	一条室町殿	なし	なし	掘削底面浅し
245	〃	8/20	下・梅小路石橋町90	京・右京八条二坊	なし	須恵器・土師器 土師器	
246	〃	8/20	南・八条内田町82	京・左京九条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
247	〃	8/21	下・和気町21-12	京・左京八条一坊	なし	須恵器・土師器 瓦器・青磁・瓦	
248	〃	8/21	下・室町新町ノ間五条上ル田原町231	京・左京六条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
249	〃	8/22	自) 南・久世殿城町地先 至) 南・久世大蔵町地先	大蔵	なし	なし	
250	〃	8/22	中・三条通室町東入御倉町70-1	京・左京三条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
(251)	〃	8/23	中・堺町通竹屋町上ル橋町90	京・左京二条四坊	土城 土器留め	土師器	P45
252	〃	8/25	下・西七条八幡町18	京・右京七条三坊	なし	なし	
253	〃	8/27	上・黒門通り中立売上ルヒダ下ノ町173	京・左京北辺二坊	なし	なし	掘削底面浅し
254	試掘	8/27 28	左・一乗寺向畑町36-1・2 37-3	一乗寺向畑町	なし	須恵器 土師器	
255	立会	8/28	下・万寿寺通御幸町西入堅田町605 下・御幸町通五条上ル安土町646-2	京・左京六条四坊	なし	なし	掘削底面浅し
256	〃	8/28	伏・竹田内畑町10	鳥羽離宮	なし	なし	
257	〃	8/29	上・一条通淨福寺西入華堂之内町299	宮・隣接地	なし	なし	
(258)	〃	8/30	下・和気町14	京・左京八条一坊	土城	須恵器・土師器 瓦・瓦器	P59
259	〃	8/30	中・壬生東高田町	京・右京六条二坊	なし	なし	
260	〃	8/30	上・七本松通仁和寺街道上ル東入ル1番町91	宮・大蔵	なし	なし	掘削底面浅し
261	〃	8/30	上・千本通丸太町下ル北主税町1140	宮・朝堂院	なし	なし	掘削底面浅し
262	〃	8/31	下・油小路綾小路下ル風早町569-2	京・左京五条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
263	〃	9/1	中・西ノ京池ノ内町23-28	京・左京三条一坊	落ち込み	なし	掘削底面浅し
264	〃	9/1	上・御前通り下立売上ル天満屋町334	宮・右兵衛府	落ち込み	土師器・陶器 瓦・白磁	
265	〃	9/1	中・押小路通柳馬場東入橋町648	京・左京三条四坊	なし	土師器 緑釉・瓦	掘削底面浅し
266	〃	9/3	上・樺木町通智恵光院西入中務町151-4	宮・西院	なし	なし	掘削底面浅し
(267)	〃	9/3	上・下立売通室町上ル勘解由小路町151-4	京・左京一条三坊	井戸・落ち込み 土城	緑釉・土師器 陶器	P44
(268)	〃	9/3	下・寺町通り弘光寺下ル恵美須之町	京・左京五条四坊	なし	須恵器・白磁 土師器	P53
(269)	試掘	9/10 11	伏・醍醐赤間南裏町	醍醐寺	溝・墓跡	土師器 白磁	P92
270	立会	9/4	下・大宮通弘光寺町下ル五坊大宮町94-6	京・左京五条一坊	なし	木器	
271	〃	9/5	中・聚楽廻松下町12	宮・造酒司	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
272	立会	9/5	中・壬生森町50-52	京・右京四条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
273	"	9/5	伏・納所町星柳	長岡京	なし	なし	
274	"	9/5	伏・深草西浦町19・20	深草	なし	なし	調査済地点
275	"	9/6	上・御前下立売下ル三丁目東入三助町281	宮・右近衛府	なし	なし	掘削底面浅し
276	"	9/6	東・本町新6丁目209番地	六波羅政庁	なし	なし	
277	"	9/7	右・太秦西蜂ヶ岡町 ^{13番2} _{13番1}	上ノ段町	なし	須恵器 土師器	
278	試掘	10/4	中・壬生森前町2番地	京・右京五条一坊	溝	土師器 陶磁器	瓦
279	立会	9/8	上・相国寺北門前下ノ町699	相国寺	土塚	土師器 瓦	
280	"	9/9	右・太秦安井柳通町9-2	京・右京二条四坊	なし	なし	
281	"	10/12	中・聚楽廻南町24-13	宮・朝堂院	なし	なし	
282	"	9/10 11	下・油小路通り塩小路下ル南不動堂町3番地	京・左京八条二坊	土塚 ピット	陶磁器・土師器 瓦・瓦器・木器	P.58
283	"	9/11	伏・下鳥羽芹川町 ⁴²⁻² ₄₂₋₄	下鳥羽	なし	なし	掘削底面浅し
284	"	9/12	下・間之町通り下珠数屋町上ル榎木町308	京・左京七条四坊	土塚 落ち込み	陶磁器・土師器 瓦器・磁器・陶器	P.57
285	"	9/12	下・七条通間之町西入材木町454-3	京・左京七条四坊	なし	なし	
286	"	9/13 14	中・西ノ京椋原内垣外町	椋原廃寺	溝(?)	瓦	
287	"	9/13	北・北野上白梅町68	北野廃寺	なし	なし	
288	"	9/13	上・一条通六軒町西入ル二丁目西今出川町401	宮・隣接地	なし	土師器 陶器	
289	"	9/13	南・久世大藪町233	大藪	なし	なし	掘削底面浅し
290	"	9/14	山・勸修寺東金ヶ崎町 ²³⁻² ₂₃₋₄	中臣	なし	なし	
291	"	9/15	下・間ノ町通り塗師屋町172	京・左京六条四坊	土塚	土師器・瓦器 陶磁器・瓦	
292	"	9/15	下・寺町通仏光寺上ル中之町580,581	京・左京五条四坊	なし	須恵器・土師器 陶磁器・瓦器	
293	"	9/17	右・太秦青木元町6-4	上ノ段町	なし	なし	
294	"	9/18	中・聚楽廻南町30	宮・式部省	なし	なし	掘削底面浅し
295	"	9/18	中・西洞院通り二条上ル薬師町658	京・左京二条三坊	なし	なし	
296	"	9/18	山・勸修寺東金ヶ崎町 ²³⁻² ₂₃₋₄	中臣	なし	なし	
297	"	9/18	東・本町12丁目8	法性寺	土塚 柱穴	陶磁器・瓦 土師器	P.102
298	"	9/18 19	東・本町11丁目	法性寺	ピット 土塚	土師器・瓦・瓦器 青磁・白磁	
299	"	9/19	上・上長者町通り裏門東入ル須浜町565-3	宮・梨本	なし	なし	
300	"	9/20	右・嵯峨広沢西裏町20-20	稲荷古墳	なし	なし	掘削底面浅し
301	"	9/20	下・新町通り花屋町上ル良町863	京・左京七条三坊	土塚 溝	須恵器・土師器 緑釉・瓦器	P.56
302	"	9/20 21	中・聚楽廻西町184-14	宮・豊楽院	なし	なし	
303	"	9/20	上・丸太町七本松北西	宮・造酒司			発掘済地点
304	"	9/21	中・壬生仙念町10	京・右京五条二坊	土塚・溝 落ち込み	須恵器・土師器・緑釉 陶磁器・木器	P.69
305	"	9/21	伏・竹田内畑町43-6	鳥羽離宮	なし	土師器 木器	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
306	立会	9/21	下・西木屋町通五条下ル平居町67	京・左京六条四坊	なし	なし	
307	〃	9/21	下・中堂寺鍵田町14-3	京・左京六条一坊	なし	土師器	
308	〃	9/22	下・大宮通り木津屋橋通り上ル上之町439-1	京・左京八条一坊	なし	土師器 灰釉・瓦	
309	〃	9/25	上・上長者町通猪熊西入ル杉本町457	聚楽第	なし	なし	
310	〃	9/25	上・旧大宮中立売下ル常陸町44-1	京・左京北辺二坊	土城	土師器	
(311)	〃	9/25	中・鎗薬師通新町東入姥柳町189	京・左京四条三坊	土城 ピット	土師器・須恵器 陶磁器・瓦	P.47
312	〃	9/22	左・南禅寺福地町	南禅寺	なし	なし	
313	〃	9/22	山・西野広見町31-5	山科本願寺	なし	なし	掘削底面浅し
314	試掘	9/26	中・土手町竹屋町下ル鉾田町293	法興院	なし	土師器 陶磁器	
315	立会	9/26	上・下長者町通裏門西入坤高町85	聚楽第	なし	土師器	掘削底面浅し
316	〃	9/26	上・西日暮通丸太町下ル	宮・大炊寮	なし	なし	掘削底面浅し
(317)	〃	9/26	下・烏丸通松原上ル因幡堂町711	京・左京五条三坊	井戸 土城	須恵器・土師器 磁器・瓦器	P.52
318	試掘	9/27	北・上賀茂桜井町65	散布地	なし	須恵器・土師器・緑釉 磁器・弥生土器	
319	立会	9/28	右・花園寺ノ内町2-3	法金剛院	なし	なし	掘削底面浅し
320	〃	9/28	下・西七条南月続町45	京・右京八条三坊	なし	土師器	
321	〃	9/28	上・千本通上長者町東入ル	宮・内蔵寮	落ち込み		
322	〃	10/ 1	上・下長者町通七本松西入ル鳳瑞町	宮・図書寮	なし	なし	掘削底面浅し
323	〃	10/ 2	下・堀川通花屋町下ル本願寺内	京・左京七条二坊 (東市)	なし	土師器 陶磁器	掘削底面浅し
324	〃	10/ 3	上・衣棚通丸太町上ル今薬屋町312-4	京・左京二条三坊	土城	なし	
325	〃	10/ 3	伏・両替町9丁目254	伏見城	石垣	土師器・瓦 るつぼ	
326	試掘	10/ 3	中・西ノ京島ノ内町19番地	京・右京三条三坊	なし	なし	
327	立会	10/ 4	中・聚楽廻西町93	宮・豊楽院	なし	なし	掘削底面浅し
328	〃	10/4・6・8 12・15 11/15	下・東塩小路町～上中之町	京・左京八条二坊	なし	須恵器・土師器 緑釉・瓦器	
(329)	試掘	10/ 5	北・上賀茂桜井町57-1 57-2	散布地	ピット 溝	須恵器・土師器・瓦器 白磁・青磁・弥生土器	P.85
330	立会	10/ 5	伏・桃山町下野26-2	伏見城	なし	なし	
331	〃	10/ 5	伏・深草坊町51番地4	深草	なし	なし	掘削底面浅し
332	〃	10/ 4	下・西七条御領町99-2 97	京・右京七条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
(333)	試掘	10/ 9 10	南・久世殿城町109-2	中久世	柱穴	須恵器・土師器・瓦 灰釉・白磁・青磁	P.96
334	立会	10/ 6	下・朱雀正会町24	京・左京七条一坊	なし	土師器	
335	〃	10/ 6	中・坊城鎗薬師西入	京・左京四条一坊	なし	なし	
336	〃	10/ 6	上・室町通一条上ル小島町538	一条室町殿	なし	なし	掘削底面浅し
337	〃	10/8・9	伏・羽束師古川町地先	長岡京	なし	なし	
338	〃	10/ 8	下・御幸町通仏光寺上ル丸屋町24	京・左京五条四坊	なし	土師器・瓦 陶磁器	掘削底面浅し
339	〃	10/ 8	伏・大手町324地先村上町371	伏見城	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
340	立会	10/9	下・朱雀正会町35	京・左京七条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
341	〃	10/9	伏・両替町4丁目	伏見城	なし	なし	掘削底面浅し
342	試掘	10/11	左・聖護院蓮華蔵町8	白河南殿	なし	陶磁器 土師器	
343	立会	10/11	中・神泉苑通六角下ル因幡町100	京・左京四条一坊	なし	土師器 磁器	
344	〃	10/11	右・西京極南庄境町51	京・右京七条三坊	なし	なし	
345	〃	10/11	伏・桃山最上町35	伏見城	なし	なし	
346	〃	10/11	伏・瀬戸物町706	伏見城	なし	なし	
347	〃	10/12	中・黒門通り蛸薬師上ル黒門町396	京・左京四条二坊	なし	なし	
348	〃	10/12	下・西洞院通松原下ル永倉町554-4	京・左京六条三坊	土城	須恵器・陶磁器・土師器 瓦器・青磁器・骨・陶器	
349	〃	10/12	上・下長者町大宮下ル清元町718	京・左京一条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
(350)	〃	10/12	右・西院六反田町1	京・右京六条四坊	溝	土師器	P74
351	〃	10/12	上・中立売堀川西入役人町 ²⁵⁹ 福大明神町 ²⁶⁰ 530	聚楽第	なし	なし	
352	〃	10/13	東・今熊野日吉町 ³²⁻³ ³²⁻⁴	鳥部野	なし	なし	
(353)	〃	10/13	下・東洞院仏光寺上ル扇酒屋町	京・左京五条二坊	落ち込み	須恵器・土師器・瓦 弥生式土器・瓦器・磁器	P50
354	〃	10/13	上・仁和寺街道七本松西二番町201	宮・大蔵	なし	なし	
355	〃	10/15	南・久世殿城町550	大蔵	なし	なし	
356	〃	10/16	下・西新屋敷下之町3-3	七条朱雀大路	なし	土師器 陶器・瓦	
357	〃	10/16	伏・深草西浦町2丁目122	深草	なし	なし	
358	〃	10/16	上・七本松通り仁和寺街道下 ル2番町211-5	宮・大蔵	なし	土師器 陶磁器	
359	〃	10/17	上・千本通中立売上ル東側東 石橋町21-2	宮・大蔵	なし	なし	
360	〃	10/17	下・黒門通高辻上ル大黒町215	京・左京五条二坊	なし	なし	
361	〃	10/17	左・岩倉幡枝町	窯跡	なし	なし	
362	〃	10/18	下・西七条市部町3・西大路比 輪田町3	京・右京七条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
363	〃	7/21	右・花園木辻南町7-4	京・右京一条四坊	土城	土師器 灰釉	
364	試掘	10/20	上・小川通中立売下ル下小川 町19	京・左京北辺二坊	ピット	土師器・陶磁器 瓦器・瓦	
365	立会	10/20	北・北野下白梅町82-7	京・右京北辺二坊	なし	なし	掘削底面浅し
366	〃	10/20	下・寺町通仏光寺下ル恵美須 之町535	京・左京五条四坊	ピット	須恵器・土師器 陶磁器・瓦	
367	〃	10/22	下・油小路通塩小路下ル西油 小路町15	京・左京八条二坊	土城	土師器	
368	〃	10/22	中・姉小路通衣棚西入長浜町 143	京・左京三条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
(369)	〃	10/22	北・上賀茂岩ヶ垣内町12-1	植物園北	土城 ピット	須恵器・緑釉・ 土師器・黒色土器	P88
370	試掘	10/23	伏・中島宮ノ前町 ^{1-3・49} ^{1-1・32}	鳥羽離宮	なし	なし	
371	立会	9/24	上・葎屋町通樺木町通下ル直 家町215-1	京・左京二条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
372	〃	10/24	西・大枝沓掛町	古墳・関所	なし	なし	
373	試掘	10/25	上・上ノ下立売通御前通西入 大宮町481	京・右京一条二坊	落ち込み	土師器・須恵器 陶磁器・瓦	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
374	立会	10/25	伏・中島中道町	鳥羽離宮	なし	なし	
(375)	試掘	10/29	下・猪熊通五条下ル柿本町 669	京・左京六条二坊	土塚	須恵器・緑釉・土師器・陶器 瓦・瓦器・白磁・青磁 P.40	
376	立会	10/29 12/14	上・室町通上立売下ル裏築地 町93-4	一条室町殿	なし	なし	
377	〃	10/30	下・西洞院通七条上ル福本町409	京・左京七条三坊	なし	土師器 陶磁器	
378	〃	10/30	上・一条通大宮西入ル下石橋 通南半町50	宮・北辺	なし	瓦	
379	試掘	10/30 12/4・5	上・東堀川通下長者町通下ル 3-7	京・左京一条二坊	ピット	土師器・須恵器・緑釉 陶磁器・鉄製品	
380	〃	10/30	中・西ノ京壺ノ内町11	京・右京二条三坊	落ち込み	土師器・須恵器・灰釉 陶磁器・緑釉	
(381)	立会	10/31	中・新町通錦小路上ル百足屋 町390-1	京・左京四条三坊	なし	土師器・瓦 瓦器・白磁・青磁 P.49	
382	〃	11/13	上・下立売通り堀川西入ル西 橋詰町290-5	京・左京一条二坊	溝	土師器・須恵器 陶磁器	
(383)	〃	10/31	北・上賀茂岩ヶ垣内町98-4	植物園北	土塚	弥生土器	P.89
(384)	〃	10/31 11/1 12/5・6	中・西ノ京樋ノ口町122	京・右京三条二坊	ピット	須恵器・木片 土師器	P.72
385	〃	10/31	東・今熊野北日吉町50-27	鳥部野	なし	なし	
386	試掘	10/31	上・一条通大宮下ル	宮・北限	なし	なし	
387	立会	11/1	左・川端二条上ル東入吉永町 274	白河南殿	なし	なし	掘削底面浅し
388	〃	11/1	伏・西大手町309	伏見城	なし	なし	
389	〃	11/2	下・朱雀宝蔵町20	京・右京七条一坊	なし	なし	
(390)	試掘	11/5	伏・深草西浦町3番地61	深草	なし	弥生土器 石包丁	P.101
391	立会	11/5	伏・御駕籠町124-1	伏見城	なし	なし	
392	〃	11/8	左・二条通東大路西入北門前 町487	六勝寺	なし	なし	
393	〃	11/6	下・猪熊通堀小路上ル金換町 112	京・左京八条二坊	なし	土師器 瓦器・瓦	掘削底面浅し
394	〃	11/6	下・西七条石井町	京・右京八条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
395	〃	11/6	上・一条通り御前通り西3丁 目西町90	京・右京北辺二坊	なし	なし	掘削底面浅し
396	〃	11/6	南・久世上久世 ¹³⁷⁻⁴ 137-5	上久世	なし	なし	掘削底面浅し
397	〃	11/8	中・衣棚通押小路下ル下妙覚 寺町187	京・左京三条三坊	なし	なし	
398	〃	11/9・10 12/13	下・梅小路高畑町4-2	京・右京九条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
399	試掘	11/9 10	右・西京極畔勝町67	京・右京七条四坊	なし	土師器・瓦 須恵器	
400	立会	11/12 17	自) 西・山田菰輪町地先 至) 西・山田上ノ町13番地先	穀塚古墳	なし	なし	
401	〃	11/12	下・西七条掛越町27-1	京・右京七条二坊	なし	なし	
402	〃	11/12	上・一条通千本東入伊勢殿構 町273-6	宮・北限	なし	なし	掘削底面浅し
(403)	試掘	11/12 13	北・大将軍坂田町8-1	京・右京北辺三坊	溝	須恵器・瓦 土師器	P.62
404	立会	11/13	中・西ノ京原町96-3	京・右京三条二坊	なし	なし	
405	〃	11/13	中・壬生洲田町3-9	京・右京四条二坊	なし	なし	
406	〃	11/13	南・久世中久世町3-39	中久世	なし	なし	
407	〃	11/14	上・丸太町通黒門東入粟屋町 525	京・左京二条二坊	なし	なし	掘削底面浅し

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
(408)	試掘	11/15 16	下・不明門通正面上ル亀町9	京・左京七条三坊			発掘調査に切りかえ P.61
409	立会	11/15	東・今熊野池田町4-13	新熊野神社	なし	なし	
410	〃	11/15	伏・桃山町三河40	伏見城	なし	なし	
411	〃	11/15	下・大宮通木津屋橋上ル上之町429-1	京・左京八条一坊	なし	須恵器・土師器 磁器・瓦	
412	〃	11/16	伏・羽東師菱川町242	長岡京	なし	須恵器・土師器	
413	〃	11/16	右・西京極大間町9-1	京・右京七条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
414	〃	11/16	左・聖護院蓮華蔵町41	六勝寺	なし	なし	
415	試掘	11/17	中・烏丸通竹屋町上ル大倉町215	京・左京二条三坊	なし	なし	
416	〃	11/19	中・東洞院竹屋町下ル三本木5丁目470・473	京・左京二条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
417	立会	11/19	上・智恵光院丸太町下ル東主税町942-1	宮・西院	なし	なし	掘削底面浅し
418	〃	11/19	中・西ノ京鍋蛇町37-1	京・右京三条二坊	なし	須恵器・土師器 緑釉・瓦	掘削底面浅し
419	〃	11/19	下・中堂寺庄ノ内町56-1	京・右京六条一坊	なし	なし	
420	〃	11/20	下・四条堺町東入ル立売中之町96・96-1	京・左京五条四坊	なし	土師器 陶器	
421	〃	11/20	下・和氣町14	京・左京八条一坊	なし	須恵器 土師器	
422	〃	11/20	下・西七条西久保町63	京・右京七条一坊	なし	土師器	
423	〃	11/21	上・下長者町通七本松西入ル下ル鳳瑞町245-5	宮・大歌所	なし	なし	掘削底面浅し
424	試掘	11/22	下・四条室町東入函谷鉾町83	京・左京四条三坊	なし	なし	
425	立会	11/24	上・一条通猪熊東入如木町74	聚楽第	なし	土師器 磁器	掘削底面浅し
426	〃	11/24	上・河原町通荒神口東入ル荒神町115-4	法成寺	なし	なし	
427	〃	11/26 27	上・千本通二条下ル聚楽町856	宮・朝堂院	なし	なし	掘削底面浅し
428	〃	11/28	西・大枝南福西町2丁目	寺戸大塚			古墳実態調査
429	〃	11/28	下・下之町	京・左京八条四坊	なし	なし	
430	〃	11/28	下・御幸町通綾小路下ル丸屋町415	京・左京五条四坊	なし	なし	
431	〃	11/29	伏・塚本町1	深草	なし	なし	
432	〃	11/29	下・西洞院通綾小路下ル綾西洞院町758-2	京・左京五条三坊	なし	なし	
433	〃	12/4	中・西ノ京冷泉町1	京・右京二条二坊	ピット	須恵器・土師器 緑釉	
434	〃	12/4	伏・深草ヲカヤ町6	深草	なし	なし	掘削底面浅し
435	〃	12/6	下・松原通鉄屋町西入中之町500	京・左京六条四坊	なし	なし	
436	〃	12/6	伏・桃山町立売14-2	伏見城	なし	なし	掘削底面浅し
437	〃	12/6	伏・深草西浦町2-114	深草	なし	なし	掘削底面浅し
438	〃	12/7 8 10	左・岩倉忠在地町369・323 375・350	岩倉忠在地	なし	瓦	
439	〃	12/7	中・聚楽廻中町27-2	宮・朝堂院	なし	瓦	掘削底面浅し
(440)	〃	12/7 8	中・西ノ京南両町22	京・右京二条二坊	ピット	須恵器・緑釉・土師器 瓦・黒色土器・灰釉	P.73
(441)	試掘	12/7	山・柳ノ辻番所ケ口町27	中臣			発掘調査に切りかえ P.103

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
442	立会	12/8	上・日暮通上長者町上ル須浜町571	宮・大宿直	なし	なし	
443	"	12/8 10	右・常盤窪町地先	常盤馬塚古墳	なし	なし	掘削底面浅し
444	"	12/8・10 13・14	中・神泉苑通御池通～三条通間の道	京・左京三条一坊	なし	なし	
445	"	12/8 15	東・渋谷通東大路東入ル3丁目瓦役町515	鳥部野	なし	なし	
446	試掘	12/10 11	伏・深草池ノ内町6	深草遺接隣接地	なし	土師器 瓦・瓦器	P.98
447	"	12/11	下・西新屋敷上ノ町(A)133-2-5 (B)126	京・左京七条一坊	溝	須恵器・緑釉 土師器・瓦・弥生	P.42
448	立会	12/11	下・塩小路烏丸上ル東塩小路町地先	京・左京八条三坊	なし	なし	
449	"	12/12	上・元大宮通上長者町上ル常陸町430	京・左京北辺二坊	なし	なし	
450	"	12/13	下・仏光寺通柳馬場西入東前町	京・左京五条四坊	なし	なし	
451	"	12/15	伏・桃山町紅雪	伏見城	なし	なし	
452	"	12/15	上・裏門通中立売上ル西入今新在家町205	宮・主殿寮	なし	なし	
453	試掘	12/17	南・久世高田町230-1	上久世遺跡隣接地	なし	土師器	
454	立会	12/17	中・御幸町通三条上ル丸屋町332	京・左京三条四坊	なし	なし	
455	"	12/18	上・七本松通一条通下ル三軒町69-22	宮・大蔵	なし	なし	
456	"	12/18	右・太秦東峰ヶ岡町10	常盤仲ノ町	なし	なし	
457	試掘	12/19	左・岡崎最勝寺町	最勝寺	なし	なし	
458	立会	12/19	中・寺町通二条下ル妙満寺前町461	京・左京三条四坊	なし	なし	
459	"	12/19	中・御池通油小路西入ル森下町209-2他	京・左京三条二坊	なし	土師器 緑釉・瓦	
460	"	12/19	東・塩小路通大和通路東入三丁目本瓦町	法住寺跡	なし	なし	
461	"	12/19	伏・深草願成町34-15	法性寺	なし	なし	
462	"	12/20 21 22	下・堀川通花屋町下ル本願寺内	京・左京七条二坊	なし	なし	
463	"	12/20	上・河原町通荒神口通西入上生州町地先	京・隣接地 法成寺	なし	なし	
464	"	12/20	南・久世殿城町112-1	中久世	なし	なし	掘削底面浅し
465	"	12/21	北・西賀茂北川上町75 76-2	窯跡	なし	なし	掘削底面浅し
466	"	12/21	伏・深草西浦町3丁目22-2	深草	なし	なし	
467	"	12/23	左・岡崎南御所町19-3	法勝寺	なし	なし	掘削底面浅し
468	"	1/8	中・堺町通二条下ル杉屋町629-2	京・左京三条四坊	なし	なし	
469	"	1/8	右・太秦東峰ヶ岡町10	広隆寺旧境内	なし	土師器	
470	試掘	1/10	中・室町通三条下ル烏帽子屋町490-1	京・左京四条三坊	溝	須恵器・土師器・陶磁器 瓦器・瓦・銅・鉄製品	
471	立会	1/12	下・松原通東洞院西入因幡町674	京・左京五条三坊	なし	なし	
472	"	1/12	下・七条御所ノ内北町42	京・右京八条二坊	なし	土師器	P.76
473	"	1/14	南・久世大藪町286	大藪	なし	なし	掘削底面浅し
474	試掘	1/16	伏・桃山福島太夫北町40	伏見城	なし	なし	
475	立会	1/16	右・花園妙心寺町地先 御室大内地先	円乗寺	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
476	立会	1/17	中・西ノ京壺井町122	京・右京二条三坊	なし	なし	
477	〃	1/17	下・和気町12-5	京・右京八条一坊	なし	なし	
478	〃	1/19	伏・醍醐上端山町50	醍醐寺境内	なし	なし	掘削底面浅し
479	〃	1/22	山・観修寺瀬川原町26-B,26-C 東金ヶ崎町16-1	観修寺旧境内	なし	なし	
480	〃	1/22	下・西洞院万寿寺上ル永倉町 545	京・左京六条二坊	なし	なし	
481	〃	1/23	下・油小路五条下ル中金仏町212	京・左京六条二坊	溝	なし	
482	〃	1/23	左・岡崎円勝寺町	六勝寺	なし	なし	掘削底面浅し
483	〃	1/23	中・姉小路通富小路西入菊屋 町562	京・左京三条四坊	なし	なし	
484	〃	1/23	伏・桃山町遠山28-46	伏見城	なし	なし	
485	〃	1/24	中・三条通新町東入三条町 324-1・324-2	京・左京四条三坊	なし	なし	
486	〃	1/24	中・釜座通二条下ル松屋町 689-1	京・左京三条三坊	なし	なし	
487	〃	1/24	中・聚楽廻南町30-4	官・式部省	なし	なし	掘削底面浅し
488	〃	1/24	伏・竹田真幡木町48-1	鳥羽離宮	なし	なし	
489	〃	1/24	上・大宮通丸太町上ル一丁目848	官・大膳職	なし	なし	掘削底面浅し
490	〃	1/29	伏・柿ノ木浜町423	伏見城	なし	なし	
491	試掘	1/28	下・東洞院通高辻 下ル燈呂町	560-1,561-1 563,564-2 564-1	京・左京五条四坊	土城	須恵器・瓦 土師器
492	立会	1/28	東・泉涌寺山内町29	鳥部野	なし	なし	
493	〃	1/28	西・嵐山上海道町63地先	史跡名勝嵐山	なし	なし	
494	〃	1/29	右・西京極東大丸町21	京・右京六条四坊	なし	なし	掘削底面浅し
495	〃	1/29	中・西ノ京塚本町地先	京・右京二条三坊	なし	なし	
496	〃	1/29	北・上賀茂今井河原町59	植物園北	なし	なし	
497	〃	1/31	右・太秦安井辰ノ己町10	京・右京三条四坊	なし	なし	掘削底面浅し
498	〃	2/1	上・一条通御前通西入大東町 194	京・右京北辺二坊	なし	なし	
499	〃	2/1	中・聚楽廻中町27	官・豊楽院	なし	なし	
500	〃	2/1	上・智恵光院通出水上ル天秤 丸町181-6	官・職御曹司	なし	なし	
501	〃	2/1	中・御池通新町西入ル橋之町	京・左京三条三坊	なし	なし	
502	〃	2/2	上・下長者町通烏丸西入鷹司 町21-14	京・左京一条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
503	〃	2/2	北・上賀茂高繩手町105	植物園北	なし	なし	
504	〃	2/2	中・壬生森町29	京・右京四条一坊	ピット	なし	掘削底面浅し
505	〃	2/4	下・高倉通四条下ル 高機材木町	221-5 225-1・2	京・左京五条四坊	なし	なし
506	試掘	2/5・6	下・室町通松原上ル高辻町607	京・左京五条三坊	土城	須恵器・陶磁器・土師器 瓦・瓦器・青磁・白磁 P.36	
507	立会	2/5・6	下・壬生川通五条下ル中堂寺 前田町22-8	京・左京六条一坊	なし	なし	
508	〃	2/6・7	伏・羽束師古川町110-1	長岡京	なし	なし	
509	〃	2/7	中・高倉通二条下ル瓦町543-1	京・左京三条四坊	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
510	立会	2/7	下・柳馬場通松原上ル吉文字町438	京・左京五条四坊	なし	なし	
511	〃	2/7	下・西大路七条市部町3	京・右京七条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
512	〃	2/7	伏・下鳥羽渡瀬町1-7	下鳥羽	なし	なし	
513	〃	2/7	伏・深草大亀谷安信町	伏見城	なし	なし	
514	〃	2/8	東・問屋町通五条下ル四丁目鍵屋町495	六波羅政庁	なし	なし	
515	〃	2/9	左・岡崎(平安神宮前)	六勝寺	なし	なし	
516	〃	2/9	上・日暮通榎木町下ル北伊勢屋町732	宮・大膳職	なし	なし	
517	〃	2/12	下・御前通七条下ル南中野町55	京・右京八条二坊(西市)	なし	なし	掘削底面浅し
518	〃	2/13	下・中堂寺庄ノ内町1-140	京・右京六条一坊	なし	須恵器・緑釉土師・瓦器	
519	〃	2/13	下・西七条北西野町42-45	京・右京七条二坊(西市)	なし	なし	
520	〃	2/13	上・御前通仁和寺街道下ル下堅町188	宮・正親司	なし	なし	
521	〃	2/14	下・岩土通下魚棚下ル八百屋町340	京・左京八条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
522	〃	2/16	南・西九条藤こノ木町80	京・左京九条二坊	なし	なし	掘削底面浅し
523	〃	2/18	上・下長者町通新町通東入西鷹司町4	京・左京一条三坊	なし	土師器陶器	
524	試掘	2/19	北・大將軍鷹司町23-5	京・右京一条三坊	溝	なし	P.67
525	立会	2/20	左・田中東樋ノ口町57	京大構内	なし	なし	
526	〃	2/20	北・上賀茂桜井町99	植物園北	なし	なし	
527	〃	2/20	中・西ノ京式部町51-2	京・左京三条一坊	なし	なし	
528	〃	2/20	上・下長者町松屋町下ル南清水町129	宮・左近衛府	なし	なし	
529	〃	2/20	伏・下鳥羽中島中道町	下鳥羽	なし	なし	
530	〃	2/20	伏・醍醐大高町3-3	小野廃寺	なし	なし	
531	試掘	2/21	伏・桃山町伊賀63-2	伏見城	なし	なし	
532	〃	2/23	伏・竹田内畑町69	鳥羽離宮	なし	なし	
533	立会	2/23	上・出水通浄福寺東入田村備前町18	宮・内裏	なし	なし	
534	試掘	2/23	伏・竹田内畑町90	鳥羽離宮	なし	なし	
535	立会	2/25	東・三十三間堂廻	法住寺殿	なし	なし	
536	〃	2/25	東・馬町通妙法院北門前妙法院前側町429-1	六波羅政庁	なし	なし	
537	〃	2/25	下・中堂寺北町7-2	六条朱雀大路	なし	なし	
538	〃	2/25	南・久世大藪町263・264	大藪	なし	なし	
539	試掘	2/26	右・常盤東ノ町6-3	常盤東ノ町	ピット	なし	
540	立会	2/26	中・富小路通錦小路上ル高宮町390	京・左京四条四坊	なし	なし	
541	〃	2/26	下・柳馬場綾小路下ル塩屋町44	京・左京四条四坊	なし	なし	
542	〃	2/26	伏・深草西浦町1-66-2	深草	なし	なし	
543	〃	2/28	上・一条通黒門通東入如水町81	聚楽第	なし	なし	掘削底面浅し

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
544	立会	2/28	伏・両替町2-372-3	伏見城	なし	なし	
545	〃	2/28	伏・桃山町三河	伏見城	なし	なし	
546	〃	2/29	右・西院平町20-2	京・右京五条二坊	ピット	なし	掘削底面浅し
547	〃	2/29	下・西七条南月統町93-1	京・右京八条二坊	井戸	土師器 瓦	
548	試掘	3/3	中・綾小路室町西入善長寺町 144・146	京・左京 四 条三坊	なし	なし	掘削底面浅し
549	立会	3/3	中・綾小路室町西入善長寺町 150	京・左京 四 条三坊	なし	土師器	
550	〃	3/3	下・六条通若宮通東入若宮町 536	京・左京四条三坊	なし	なし	
551	〃	3/3	下・不明門通七条下ル東堀小 路町709	京・左京八条三坊	なし	なし	
552	〃	3/3	伏・竹田内畑町70	鳥羽離宮			調査済地点
553	〃	3/3	伏・深草大亀谷安信町	伏見城	なし	なし	
554	〃	3/3	中・押小路通柳馬場西入竹屋町	京・左京三条四坊	なし	土師器	
555	〃	3/4	右・常盤窪町2-4~1-52	常盤東ノ町	なし	なし	
556	〃	3/4	上・出水通智恵光院西入田村 備前237-1	宮・職御曹司	なし	なし	掘削底面浅し
557	〃	3/4	中・三条通東洞院東入菱屋町31	京・左京四条四坊	なし	なし	
558	〃	3/4	伏・桃山町大蔵45	伏見城	なし	なし	
559	試掘	3/5	中・西ノ京北内町2-6	京・右京一条二坊	なし	須恵器・緑釉・土師器 陶器・瓦・弥生式土器	P64
560	立会	3/6	下・西七条御領町84	京・右京七条一坊	なし	なし	
561	〃	3/8	中・両替町通竹屋町通上ル西 方寺町168-1	京・左京二条三坊	なし	なし	
562	試掘	3 ^{8・9} 10	中・娵薬師通室町通西入姥柳 町2-3	京・左京四条三坊	なし	なし	
563	立会	3/10	下・西七条南衣田町42-9	京・右京八条二坊	なし	なし	
564	〃	3/11	中・神泉苑御池通下ル神泉苑 町12-12	京・左京三条一坊	なし	なし	掘削底面浅し
565	試掘	3/11	下・富小路通仏光寺上ル塗師 屋町93	京・左京五条四坊	なし	石器・陶磁器・土師器 陶器・瓦・鉄・瓦器・白磁	
566	〃	3/12	右・西院淳和町8	京・右京四条二坊	なし	なし	
567	立会	3/12	中・二条通高倉西入松屋町 52-2	京・左京三条四坊	なし	なし	
568	〃	3/12	北・北野紅梅町地先	北野麿寺	なし	なし	
569	〃	3/13	下・東洞院通五条下ル3丁目 和泉町534-3	京・左京六条四坊	なし	なし	
570	〃	3/15	上・堀川通出水下ル4丁目199-1	京・左京一条二坊	なし	なし	
571	〃	3/15	下・烏丸通松原上ル因幡堂町 686-2	京・左京六条三坊	なし	なし	
572	〃	3/15	下・西七条南中野町46	京・右京八条二坊(西市)	なし	なし	
573	〃	3/17	上・猪熊通樺木町上ル大黒町 466	京・左京一条二坊	なし	なし	
574	〃	3/17	左・北白川西萬町28	京都大学構内	なし	なし	
575	〃	3/18	南・久世中久世町2丁目33-1	上久世	なし	土師器 磁器	
576	〃	3/19	下・西洞院松原下ル永倉町 536	京・左京六条三坊	なし	なし	
577	〃	3/19	中・錦小路通柳馬場東入東魚 屋町184	京・左京四条四坊	なし	なし	

番号	試・立	月/日	調査地住所	遺跡名	遺構	遺物	備考
578	立会	3/21	伏・桃山町紅雪8-8, 19-5	伏見城	なし	なし	
579	試掘	3/21	伏・竹田小屋ノ内畑2-1他 2筆	鳥羽離宮	なし	なし	
580	立会	3/21	下・不明門通花屋町下ル高槻 町350	京・左京七条三坊	なし	須恵器	
581	〃	3/21	下・西七条市部町67	京・右京七条二坊	なし	なし	
582	〃	3/21	中・壬生松原町28	京・右京五条一坊	なし	土師器	
583	〃	3/21	中・西ノ京東中合町68・69	京・右京三条二坊	なし	須恵器・緑釉 土師器	
584	〃	3/24	下・松原通富小路西入松原中 之町478	京・左京六条四坊	なし	なし	
585	〃	3/24	下・西木屋町七条上ル新日吉 町123-3,4	京・左京七条四坊	なし	なし	
586	〃	3/25	上・大宮西入浮田町615-1	宮・東雅院	なし	なし	
587	〃	3/25	上・七本松一条上ル三軒町65-1	宮・大蔵	なし	なし	
588	〃	3/25	中・西ノ京北壘井町44	京・右京二条二坊	なし	なし	
589	〃	3/26	下・烏丸七条下ル東塩小路町 720	京・左京八条三坊	なし	土師器 瓦	
590	試掘	3/27	下・東洞院通正面通上ル筒金 町46	京・左京七条四坊	落ち 込み	須恵器・緑釉・土師器・陶器・瓦器 白磁・青磁・木器・灰釉・どろ人形	
591	立会	3/27	中・油小路通押小路下ル押油 小路町252	京・左京三条二坊	なし	土師器	
592	〃	3/28	中・西ノ京冷泉町1	京・右京二条二坊	なし	なし	
593	〃	3/28	下・七条御所ノ内北町1	京・右京八条二坊	なし	須恵器 土師器	
594	〃	3/29	右・嵯峨天竜寺芒馬場町7	天竜寺	なし	なし	
595	〃	3/29	伏・羽束師菱川町地先	長岡京	なし	なし	
596	試掘	3/31	下・七条通猪熊通東入西八百 屋町138	京・左京八条二坊	土垣	須恵器・緑釉・陶磁器 土師器・瓦	

平 安 京 跡

平安京は桓武天皇の治世、延暦12(793)年に造営が開始され、翌年には長岡京から遷都している。遷都後も平安京の造営は継続されていたが、延暦24(805)年には未完成のまま造宮職が廃止されたと記録にみえる。

唐の都、長安を模して造営されたといわれる平安京の規模は、東西千五百八丈(約4.5 km)、南北千七百五十三丈(約5.2 km)あり、南北に長い。京の北部中央に大内裏を置き、京内は南北に走る二十八丈(約84 m)の幅をもつ朱雀大路を中心軸にして左京・右京にわけ、更に両京ともに東西南北に大路・小路を基盤目状に配し、整然とした地割りを実施した。平安京における地割の基本単位は、大路・小路によって区画された四十丈(約120 m)四方の1町であり、四町を保といい、四保を坊という。つまり、一坊・四保・二十六町という構成である。また、平安京の京城を東西南北に画する大路は、東京極大路・西京極大路・九条大路・一条大路である。これを現在の京都市域にあてはめると、東はほぼ寺町通、西は天神川付近、南は九条通、北は一条通りまでの区域にほぼ相当する。また左右両京をわける朱雀大路は千本通りにあたる。

京内には、東寺・西寺、東市・西市、東鴻臚館・西鴻臚館が、左京・右京に対照的に配置されたのをはじめに、朱雀院、神泉苑、河原院等多くの邸宅が建ち並んだ。その後、右京は平安時代中頃にはすたれはじめ、邸宅・寺院等は左京に集中して行くことになる。

平安京の調査が、本格的に実施されるようになったのは、ここ10数年前からである。大路・小路の側溝・路面等が数10ヶ所発見され、また大規模な邸宅跡も数多く発見されており、平安京の条坊の復元・平安時代の邸宅研究の基礎資料となる成果があがっている。また、平安京造営以前の遺跡も、現在ではほぼ京都市全域にわたって存在することが判明しており、平安京城においてもむしろ、造営以前の遺跡が認められないと思われる空白地を求める方が困難であると言う状況になりつつある。その時期も高速鉄道烏丸線内遺跡調査会の烏丸通仏光寺上ルの調査の縄文時代晩期の土器や、京都府が行った内膳町遺跡で弥生土器が出土した調査を始めとして、現在では大きな遺跡として山ノ内遺跡、内膳町遺跡など、ほとんど京城全体でみられるといえる。さらに、古墳時代・奈良時代の遺跡の存在も認められており、今後の京城における調査は単に平安京にのみとられず、広い視野で調査を展開して行かなくてはならない。

(平方幸雄・鈴木広司)

平 安 宮 跡

平安宮の造営は、遷都の前年延暦12(793)年の春頃より開始された。その規模は、東西三百八十四丈(約1174m)、南北四百六十丈(約1393m)であった。宮の周囲には堅固な築地がめぐり、南には朱雀大路に面した朱雀門をはじめ壬生・皇嘉門大路に面する3門、東・西には一条大路・二条大路の間の4条の大路に面し各々門が開かれ、北には3門と、14の門が開かれた。宮内南中央には、国家儀礼の行なわれる朝堂院が造られた。この朝堂院は、東西五十六丈(約168m)、南北百三十四丈(約402m)を計り、正殿の大極殿の他12堂が配された。朝堂院の西側に豊楽院が設けられた、正殿である豊楽殿は宮内最大の建物で、建築様式は唐風であったと推定される。豊楽殿の他2楼、6堂を配する内裏は、朝堂院の北東に位置していたと考えられ、東西百十三丈(約339m)、南北百丈(約300m)を占めていた。内裏の外郭は築垣がめぐり、各方向に門が開かれており、紫宸殿・清凉殿などの殿舎があった。その他、宮内には二宮(神祇・太政官)・八省(中務・兵部・刑部・大蔵・宮内・治部・式部・民部)がおかれ、それらの各官衙建物が軒を並べていた。しかし、この偉容を誇った平安宮も、貞観八(866)年の応天門の炎上や、同十八年の火災によって損傷はじめた。そして、安元三(1177)年の大火は大極殿・朝堂院を焼きつくした。これ以降、平安京の中枢部であった平安宮も荒廃していった。

現在、これらの遺構は、市街地と全く重なりあっている。このため、小規模開発が多く調査面積も狭くかぎられたものとなっている。また、中・近世の開発がさかんであったため宮関係の遺構の遺存状況も調査地ごとに異なったものとなっている。しかし、近年このような状況の中においても宮内の復原に欠く事のできない有力な資料が得られている。たとえば、豊楽院の正殿にあたる豊楽殿の基壇や根固め石・内裏内郭回廊跡が確認されている。この事は、たとえ小規模な開発であっても見過しにできない事を示している。今日、かぎられた調査で検出された遺構を面的なひろがりの中で分析検討する事が可能になってきた現在、破壊の大小を問わず更に一層の計画的な調査が望まれる。

(鈴木久男)

鳥 羽 離 宮 跡

平安京の南方水郷鳥羽一帯に白河天皇の後院として鳥羽離宮の造営が開始される。まず寛治元（1087）年鳥羽離宮南殿に最初の遷幸があり、南殿御所が完成したことがわかる。続いて寛治2（1088）年に北殿、さらに馬場殿・泉殿・東殿と造営され、仁平2（1152）年には田中殿御所が造られる。このうち泉殿はのちに東殿の範囲に含まれたようで鳥羽離宮は大きく5つの地区に分かれ営まれた。各々の造営地は離宮の南西部に南殿、北西部に北殿、東南部に東殿といったように、池を大きく囲むような配置をとっていた。

各御所には各々の御堂が造られていく。まず寛治2（1088）年北殿に勝光明院、康和3（1001）年南殿に証金剛院、東殿に含まれる泉殿には嘉承3（1108）年に成菩提院、東殿には保証3（1137）年安楽寿院、田中殿には久寿元（1154）年金剛心院が造られた。

鳥羽離宮跡の発掘調査は、昭和35（1960）年に始まり現在までに56次の調査が行われてきた。確認された遺構には、建物跡・庭園跡をはじめとして、中世の濠跡・住宅跡などがあり、主な建物跡としては、南殿御所跡・証金剛院跡・田中殿御所跡・金剛心院跡が確認された。庭園跡は各所で確認されているが、南殿秋の山から南に延び御所の南辺につくられたもの、東殿南方の汀線を礎敷で固め各所に庭石を配したものがあげられる。この東殿庭園跡は、大規模な造営で東西300m・南北200mの範囲をもち、西端には舟入り遺構と思われる突提状の大規模な遺構が確認されている。

離宮以前の状況は調査毎に資料が増し、田中殿推定地で実施された第39次調査では古墳時代後期の竪穴住居跡1棟が確認されたのをはじめ、各所で古墳時代の遺物、さらには弥生時代の土器片・石包丁も出土している。城南宮近辺で実施した第37・39次、白河天皇陵付近で実施した第54次調査では奈良時代・平安時代前期の遺物が出土し、文献からみられるように当地が貴族の山荘として開けていたことを明らかにできた。

離宮以後の状況は、主として現在の竹田内畑町に密集する住宅地に相当する東殿地区より遺構・遺物が多く確認されている。特に中世から近世にかけての濠が各所で掘られ、建物跡、井戸跡を無数確認している。さらに、近衛天皇陵の南方は墓地として長く使用された区域とみられ、離宮時代の平瓦等を転用した墓跡が多数の土師皿片とともに確認されている。

（長宗繁一）

長岡京跡

長岡京は東は桂川、西は旧丹波道、北は北山、南は巨椋池に囲まれた地に造営され、東西4.5km・南北5.2kmを測り、平安京と同様な規模を持っていたと推定されている。

現在の行政区画でいうと京都市・向日市・長岡京市・大山崎町にまたがっている。京のまつりごとの中心地である大内裏は向日市に属しており、この部分の発掘調査は早くから着手されていた。大極殿・小安殿・内裏正殿とそれを囲む築地回廊・会昌門などの遺構が近年の調査で明らかになり、大内裏はほぼ完成していたことが窺えるようになった。それに比して京城、とくに周辺部の発掘調査は比較的近年になってその緒についた。

長岡京自体10年間という短い期間の都であったために、大内裏以外の京城・条坊の整備そのものについて疑問視されていたが、1974年に実施された府立向陽高校建設に伴う発掘調査で条坊に関する遺構が最初に検出されたのである。この調査により三条大路の南北両側溝、東大宮大路の東側溝などが検出された。これによって長岡京城もかなり整備されていたことが確実視され、長岡京城の発掘調査も本格的に実施されるようになった。

京都市域での本格的な調査は1976年、伏見区羽束師の日本専売公社関西工場の建設に先立って実施された。条坊に関連する遺構は検出されなかったが、長岡京期の建物群とそれらに付随する井戸が検出されている。さらに同年この専売公社の東北方、向陽高校の東方への延長線上にあたる部分の発掘調査を実施した。その結果、向陽高校で検出した三条大路の延長部が検出され、三条大路が点から線として確認されることになった。さらに三条大路の北辺に9棟の長岡京期の建物が検出されている。また、1979年に長岡京左京北辺三坊二町に相当する地点を向日市教育委員会が調査して長岡京期の建物を1棟検出している。

以上述べた調査以外にも、向日市・長岡京市域での発掘調査の成果がある。これらの調査から長岡京跡は10年という短命な都であったが、京城の周辺まで居住の地とされ、ある程度条坊も整備されていた事が判明してきた。

近年長岡京跡地域の宅地化による開発はかなりの速度で進行しており、それだけ遺跡の破壊も進んでいる。長岡京の京城の周辺部に条坊が整備されていた事が一連の調査によって判明してきており、京都市域での長岡京跡の発掘調査の充実が今後の課題となる。

(木下保明)

六 勝 寺 跡

平安京の東側・鴨川を隔てた白河一帯は、11世紀頃藤原氏などの貴族によって別業や寺院などが造営されていた。11世紀後半(1075年)には白河天皇が関白藤原頼通の別業白河殿の献納を受け、法勝寺を建立した後、院政時代を通じて天皇・貴族によって数多くの御堂や寺院が建立され、在位中の天皇などを願主とする六大寺を総称して六勝寺と呼ばれた。白河天皇の法勝寺建立に続いて、堀川天皇の尊勝寺・鳥羽天皇の最勝寺・待賢門院の円勝寺・崇徳天皇の成勝寺・近衛天皇の延勝寺・善勝寺・白川堂・蓮華蔵院・証菩提院・得長寿院・宝莊蔵院・歎喜光院・金剛勝院・福勝院などが建立された。また、御堂としては白河南殿・白河北殿・白河北殿東御所・白河押小路殿などが造営された。その後鎌倉時代になっても、後鳥羽上皇の最勝四天王院などが造営されていたが、保元の乱(1156年)によって白河御所が焼失し、その後の戦火・地震・大風などによって数多くの寺院や御堂は次々と廃絶し、ついには承久の変(1221年)によってほぼ壊滅状態となったものと考えられる。

六勝寺の発掘調査がはじめて実施されたのは1959年京都会館建設に伴っての調査であり、石組の溝・建物跡・瓦溜などを検出し、尊勝寺跡に推定された。その後、現在に至るまで下水道工事や建物建設工事に伴い、立会調査や発掘調査が数多く行われており、多くの成果があがっている。現在までの調査の内、主要なものをあげると次の通りである。1971年に行われた京都市美術館内の調査では円勝寺建物跡・溝跡を検出し、その下層からは弥生時代から古墳時代にかけての溝を検出した。1972年には延勝寺池跡、京都市動物園内で法勝寺池跡を検出した。1973年には京都市立芸術大学構内で尊勝寺建物跡・溝跡を検出した。1975年には法勝寺金堂跡の発掘調査が行なわれ、六勝寺研究中に重要な資料を提供した調査であった。1976年には京都大学病院内で道路跡・建物跡を検出し、岡崎幼稚園・平安神宮内で築地跡とその側溝跡を検出し、白河の地割りを考える上で重要な発見となった。1977年・78年には京都会館西側で大規模な建物跡を検出している。

(上村和直)

伏見城跡

伏見城の立地は、東方が東山連峰の最南端に位置し大亀谷によって限られている。又ここは紅雪堀りがあって敵の侵入を防いでいる。南方は旧巨椋池が広がって水源である琵琶湖から食料や材木が運ばれ、下流には、淀城、大坂城と結ぶ淀川の水運、そのための舟入が作られ、大きな谷となり、その跡を忍ぶことが出来る。西方は、琵琶湖疎水に再利用された堀跡や城下町が当時の遺構であって、現代は、酒倉が並行し酒の町伏見を象徴している。北方は稲荷山を遠望すると共に、墨染通りまでの城域を見せ、近年まで土塁が存在したと言う。中心部は、御陵の森として現在は、明治天皇陵や柏原陵があり宮内庁の管理下に置れ一般人の立入は禁止されている。又この中には、本丸、二ノ丸、名護屋丸、松ノ丸、山里丸、四ノ丸がある。この他城域の内には、縄文時代～奈良時代の遺跡も発見されている。列挙すると長岡越中遺跡（弥生時代）、金森出雲遺跡（石斧発見）、泰長老遺跡（古墳時代）、福島太夫遺跡（6世紀後半）、御香宮廃寺跡（奈良時代前期～室町時代）、板橋廃寺跡（奈良時代）があって順次調査の手が加わりつつある。さて伏見城とその周辺の地質を考えてみると城の中心と大亀谷までは深い所で角礫の岩盤となっている。南方は急激に淀川（宇治川）に切れ落ちて角礫の部分と低地では粘土が多く存する。西方と東方の丘陵は、褐色砂泥層がベースとなって深い所で礫砂層となり水脈にあたる。西方城下町は湿潤泥土地帯となって外堀りを形成した。

目を転じて山城盆地で位置付けると、政治的には京都への出入口で一朝事ある時はただちに出勤でき、大阪へも水運を利用すれば多量の物資輸送が可能である。交通産業の面より見れば、京都で消費される食量を集積する港の役目を持ち、ここへは、北陸、近江、山城の米・塩・木材・石材が集められたと考えてよく、江戸時代にも伏見奉行が置かれるゆえんであった。もちろん太閤堤を築いて今日の宇治川の流れを伏見城南側に導いた結果、三十石舟の発着が可能となった。伏見城は、秀吉が建てたが近世城への基点に立つ意味で、中世城郭の集成と言え、中世と近世を結ぶ接点にあって、両方の築城史を解明できる数少ない遺構で重要な意味を持っている。

（吉村正親）

京都市北東部地区

京都盆地の埋蔵文化における北部の占める比重は決して軽くはない。左京区岩倉幡枝町のケシ山山頂で発見された国府型のナイフ形石器を始めとして、岩倉盆地周辺の山々ではいくつかの旧石器が発見されている。それらは、先土器時代の人々にとってこの地が格好の狩猟活動の場であったことを示している。

また、一乗寺川の扇状地には縄文時代早期に属する押型文土器が採集されている一乗寺向畑町遺跡があり、修学院東方には同種の土器の出土をみる修学院遺跡がある。一方、上賀茂神社の辺りには縄文時代後期の遺跡の存在が知られ、京都盆地における縄文時代の重要な遺跡が数多く分布していることがわかる。

現在、京都市埋蔵文化財研究所が実施している植物園北側の下水道工事に伴う立会調査では、弥生時代から古墳にかけての竪穴住居跡が23棟発見されており、今後、この面での調査が実施されれば、山科中臣遺跡に匹敵するものと考えられる。また古墳時代にこの地に定住したと考えられる鴨氏との関連を考慮するうえにおいても重視される遺跡である。一方岩倉盆地の南西部、深泥池周辺の山々にはまだ多くの古墳群が存在する。幡枝古墳を始めとして、ケシ山古墳、八幡古墳群、本山古墳群、西山古墳群などいずれも古墳時代中期から後期にかけてのものである。それと共に、この地域は瓦・陶窯業生産跡の存在が知られるが、岩倉盆地の細々と続いてきた窯業生産活動は平安京遷都を境にして、飛躍的な発展を遂げ、大極殿を始めとして、平安宮の建物群の屋根を飾った瓦の多くはこの地で焼かれたものである。延喜式木工寮には、小野・栗栖野両瓦屋の名が記されており、幡枝・西賀茂一帯の瓦窯跡を栗栖野瓦屋に、高野・オカイラの森付近を小野瓦屋の地にそれぞれ比定されている。京都市埋蔵文化財研究所が現在行っている西賀茂一帯の立会調査でも、河上の銘を持った瓦の出土が知られていた地点で始めて平窯1基が発見され、また角社瓦窯跡南方約200m付近で、平安時代後期の瓦を多量に含む灰層が見つかり、新たな瓦窯跡の存在が想定されるに至った。平安宮造営当初に果たしたこの地の瓦窯生産は、官窯としての重要な地位を占めるばかりでなく平安時代に様々な変化を繰り返しながらも瓦窯の生産は展開された。多くの窯跡は未だこの地に眠っているのである。

(家崎 孝治)

京都市北西部地区

ここに言う京都市北西部とは、平安京の西、双ヶ岡から桂川左岸・嵯峨野、また船岡山の西側の地域である。

この地域は京都盆地において最も早く拓けたことで知られている。即ち4世紀中頃に渡来したと伝えられる秦氏により開発が進められ古墳文化が栄える。太秦を中心として、首長級と言われる規模をもつ前方後円墳がいくつかみられる。現在では墳丘は失われてしまったものの、全国で4番目の大きさと言われる石室をもつ「蛇塚」や、「天塚」、「仲野親王陵墓」などである。

古墳時代以前においても、この地に遺跡は点々と存続していた。先土器時代の所産である、沢ノ池遺跡、菖蒲谷遺跡、広沢池遺跡などは、縄文時代におよんで存続している。梅ヶ畑では、銅鐸が出土しているが、この祭祀遺物を残した弥生時代の集落跡は、これまでの調査では確認されていない。弥生時代後期になり北野遺跡を中心に集落が分布するようになる。古墳時代に入り、北野遺跡、花園遺跡、常盤仲ノ町遺跡などの集落跡が展開し、嵯峨野から双ヶ岡の丘陵地にかけて、数多くの小円墳が造られるようになる。御堂ヶ池古墳群・山越古墳群・音戸山古墳などである。また前記した「秦氏」により、蜂岡寺あるいは野寺といわれる寺院の建立がなされた。そして、これら秦氏の繁栄を基盤として、平安京遷都が行われるのである。

平安京遷都以降、この地域には、数多くの寺院・子院が造られた。御室四円寺・仁和寺・仁和寺南院・広隆寺などで、これらの中には、現在もなお存続している寺院や消滅していった寺院がある。

これら京都市北西部の遺跡の大半は未調査である。秦氏に関連してこの京都市北西部地区は重要な位置をしめており、平安京を研究するうえで重要な問題となる。嵯峨野から双ヶ岡に広く分布する古墳群を残した人々の集落跡や蛇塚などの前方後円墳を造った人々の集落跡は、近年の調査によって、北野遺跡、花園遺跡、常盤仲ノ町遺跡など部分的ではあるが解明されつつある。また平安京遷都以降、平安京隣接地として数多くの寺院が建立されるが、その中でも同時期の集落が存在したはずであり、それら平安京周辺集落を解明してゆくことも重要な課題である。京都市の再開発の進捗中、小規模開発に伴って実施される「立会」調査のもつ意義は大きい。

(菅田 薫)

山 科 地 区

京都盆地の東、東山丘陵と、牛尾山、高塚山の間には、山科盆地がある。盆地の中央に山科川が流れるが、盆地中央部で如意が岳に流れを発する四宮川と、盆地南部で御陵に流れを発する旧安祥寺川の3河川が合流し、六地藏をへて宇治川に流れこむ。

この山科には、数多くの遺跡が散在する。先土器時代から平安時代まで連綿と古代の生活の跡を残す中臣遺跡、縄文時代、弥生時代、平安時代と断続的に続いていた芝町遺跡、奈良時代の製鉄工房集落である大塚遺跡、これらの集落跡は、山科盆地を取り巻く丘陵、山科川、旧安祥寺川などの造りだす低位段丘上に立地している。この集落とは別に、古墳群・窯跡などが盆地を取り巻くように立地している。古墳群は、東に醍醐古墳群、西に旭山古墳群をはじめとして、中臣十三塚、大岩古墳などがある。また、山科古窯跡群と呼ばれる窯跡が、盆地北西の丘陵裾に点在し、古墳時代後期に比定される。この他、盆地北部の丘陵裾には、製鉄遺跡が存在し、山背の中でこの山科の地は、古墳時代後期から奈良時代にかけて一大窯業生産地帯であった。

奈良時代のはじめ中臣鎌足が政治勢力の中で有力な力を持つと同時に、山科の地も歴史の中で有力な地帯となってくる。鎌足の居住した山階精舎は、山階寺となり、その後奈良の興福寺と変遷する。この時期の寺跡としては、大宅廃寺などがあり、平安時代になると、勸修寺、大日寺などの寺院が建立される。この他、鎌倉時代に作られたと考えられる「山科郷古図」にあらわされた条理遺構、室町時代に作られた山科本願寺などがある。

これら、先土器時代から連綿と続く山科の歴史の中で、その全容を明らかにされた遺跡はない。山科南部土地区画整理事業をはじめとして、山科盆地の宅地化の進み中、計画的に発掘調査が進められているのは、中臣遺跡だけであろう。他の遺跡のほとんどは、調査されることもなく宅地化されている。しかし、これとは別に、大塚遺跡のように、学校建設に先だって実施された試掘調査によって新たに発見された遺跡もある。古墳群、集落跡などの遺跡の立地を考えた場合、まだ新たな遺跡が発見される可能性が多分にあり、今後急速に進む山科地区の宅地化に対応して、埋蔵文化財行政も実施してゆかねばならない。

(菅田 薫)

桂川右岸以西地区

京都盆地の西南部、桂川西岸の平野部一帯及び向日丘陵には、数多くの遺跡が散在する。桂川流域は、淀川水系を遡上し、伝播された前期弥生文化が、初めて京都盆地に開花した地である。弥生時代前期の代表的な遺跡としては、長岡京市の雲の宮遺跡、向日市の鶏冠井遺跡が知られている。弥生文化は、中期にはさらに北へ東へと拡がっていった。京都盆地における桂川流域の弥生時代の遺跡としては、前掲遺跡の北方に、大藪遺跡、殿城遺跡中久世遺跡、上久世遺跡などが近接して点在する。各遺跡は、弥生時代中期より後期までみられ、さらには古墳時代から鎌倉時代へと連綿と継続されていく。

古墳時代に至り、京都盆地の中で古墳が出現したのは、向日丘陵、乙訓丘陵などである。この地域に古墳の出現を可能にしたものは、弥生時代以来の桂川流域における生産基盤であろう。

奈良時代に入ると、京都盆地には条里制が施行され、桂川西岸では今日でも明瞭に条里遺構をみることができる。

784年には平城京より長岡京に都が遷都され、以後長岡京の北方一帯の地がどのような状況であったか明らかではなかったが、1979年の京都市文化財保護課の中久世遺跡における試掘調査で、長岡京時代の掘立柱建物遺構を発見し、長岡京の北約500m程の地域は確実に同時代には利用されていたことを示した。また試掘調査を行った東側では、多数の弥生時代から古墳時代の遺構の上に、長岡京の時代から平安時代にかけての建物群が発掘調査によって発見され、長岡京北方の同時代における土地利用の状況が明らかにされた。

鎌倉時代になると、この一帯は北条家の直轄領になり、また久我通親の荘園、久我荘も近接する。

このように、この地一帯は弥生時代より鎌倉時代に至る多くの遺跡が眠っているが、発掘調査による具体的な遺跡の発見はほとんどなされておらず、しかも近年この一帯は、工業団地化、宅地化が急速に進み、遺跡の多くが破壊されてきた。こういった現状に歯止めをかけるべく、京都市文化財保護課の立会及び試掘調査をより充実し、厳しい目を向けなければならない。

(辻 裕 司)

深 草 地 区

深草周辺の遺跡と深草遺跡の立地は、七瀬川が東から西に流れ、ゆるやかな下りが続き、谷間を形成している。この谷から扇状地状の広がりとなって西で旧加茂川へと落ちている。弥生時代には、七瀬川、砂川、を主に小さな谷間から流れ出る小河川が多く集まって、西方の巨椋池北湖へと流れ込んでいたと考えられ、後にここは除々に旧加茂川によって埋められて行ったと思われる。遺跡はこの大岩への谷間に多く分布して、時代順には、縄文晩期（谷口町遺跡）より深草遺跡（弥生第Ⅱ様式～第Ⅴ様式）、平安時代のガンゼン堂廃寺、オウセン堂廃寺、深草中学裏の廃寺・極楽寺、鎌倉時代集落の西飯食遺跡と歴史学との関係も深いものもある。さらに浄土宗深草派の各寺、日像（法華宗）の宝塔寺に代表される宗派の寺院が薈を並べていたと考えられる。又、有名な深草十二帝陵に代表される葬送の地として平安時代以降、墳墓が営まれ、緑釉陶器の壺や常滑製の甕などが骨蔵器として発見される故である。

歴史的には、古く日本書紀に秦氏の一部族が住んでいたとあり、奈良時代から平安時代には、紀寺、嘉祥寺を始め数多くの寺々の名前があり行基との関係も深い。又付近には桓武天皇の柏原陵があったことになっている。さらに北へ向うと藤原氏と関係の深い法性寺の広大な寺域が広がっている。今日一部は東福寺となって禅宗様建築の現存する遺構となり三門の修理も完成した。その他文献上には載せられていても、その所在すら不明な物が実に多く、今後注意深くパトロールしなければなるまい。さらに現存する、日像墓、文殊寺、五百羅漢などの文化財もあり遺跡との関連を考える上で見のがすことはできない。最後に深草遺跡に触れてみると、初めは一個の石斧を採集した事によりその所在が明らかとなったが、旧軍隊の敷地で一般人の立入は禁止され、戦後も米軍の所管で、昭和30年を待たぬとその性格を現わさなかった。さらに現在、商業地、宅地として発展し遺跡は開発の波にもまれ続けているので保存対策が急がれるところである。

（吉村正親）

平安京跡 左京一条三坊跡試掘調査 (№233)

上京区衣棚通出下水ル 常楽院町 133 番地の3に京都第二赤十字看護専門学校が新築されることになり昭和54年8月10～13日の4日間、試掘調査を実施した。建築面積449 m²のうち約45 m²を調査の対象とした。建設予定地が東西に長いので、東西にA・B・Cの3本のトレンチを設定した。Aトレンチではほとんどが近世の堆積層でわずかに鎌倉時代の遺物を含む暗灰褐色泥砂がみられた。B・Cトレンチでは近世層の下に平安時代の遺物を包含する暗茶灰色泥土がみられ、ついで黄灰色泥土となるが、B・Cトレンチともに遺構は検出されなかった。しかし、平安時代の遺物包含層が良好に残っていたためB・Cトレンチ間に新しくDトレンチを設定した。Dトレンチは包含層、遺構面とも残存状態が良好であった。堆積状況は焼土・ガラを含む盛土が厚さ約0.8 mあり、その下に暗黄灰色泥砂が約0.4 m、暗茶灰色砂泥が約0.1 m、そして黄灰色泥土になる。暗黄灰色泥砂には近世の遺物が、暗茶灰色砂泥には平安時代の遺物が包含されている。(図版二)

検出した遺構は、土塼2、溝1、柱穴10、井戸1である。土塼は両方とも暗茶灰色砂泥を切って成立しており、塼内の堆積土は隙を含む暗褐色泥砂で、中世の遺物が出土している。溝はトレンチ南端で検出され、北肩だけを確認したのみで幅は不明、深さは0.9 mを測る、溝内の堆積土は上層より暗褐色泥砂、灰褐色泥砂、灰褐色砂、暗褐色泥土となる。出土した遺物は龍泉窯系青磁碗、中世陶片、瓦器鍋、土師皿などである。柱穴は10ヶ所、黄灰色泥土上面から検出しておりいずれも円形を呈し、径0.5 mから0.2 mと様々である。トレンチの面積が狭小なため柱穴の並びは確認できなかった。

今回の調査地は、遺構面、包含層とも残存状況は良好で、とくに建築予定地の西半の衣棚通りに面した地点は良好である。試掘調査という限られた期間と面積内での調査であったために十分な調査が行えなかったが、今後付近を調査するときの目安となろう。

(木下保明)

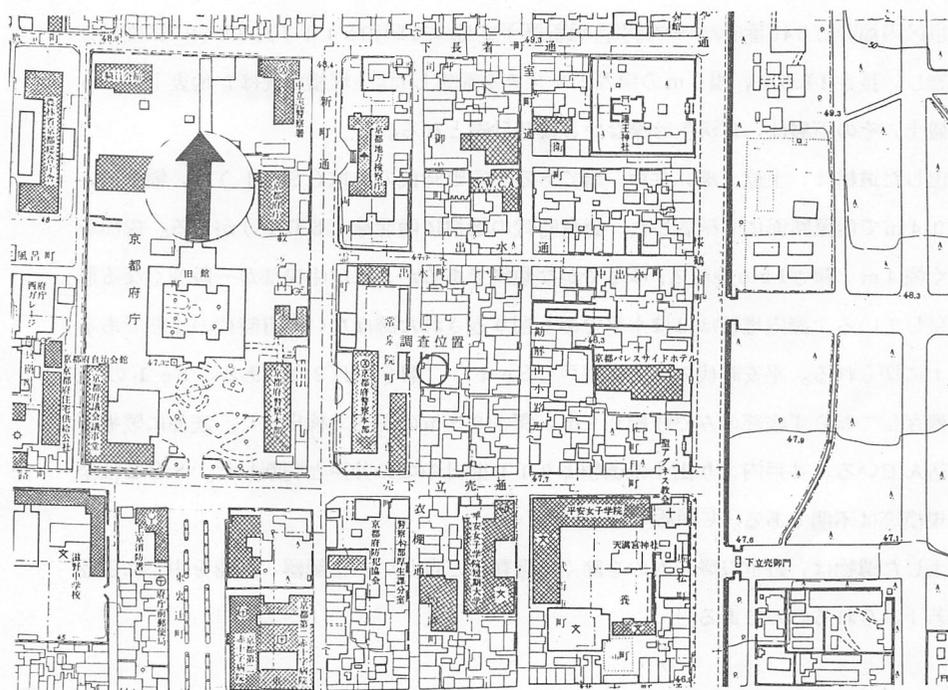


Fig 1 調査位置図

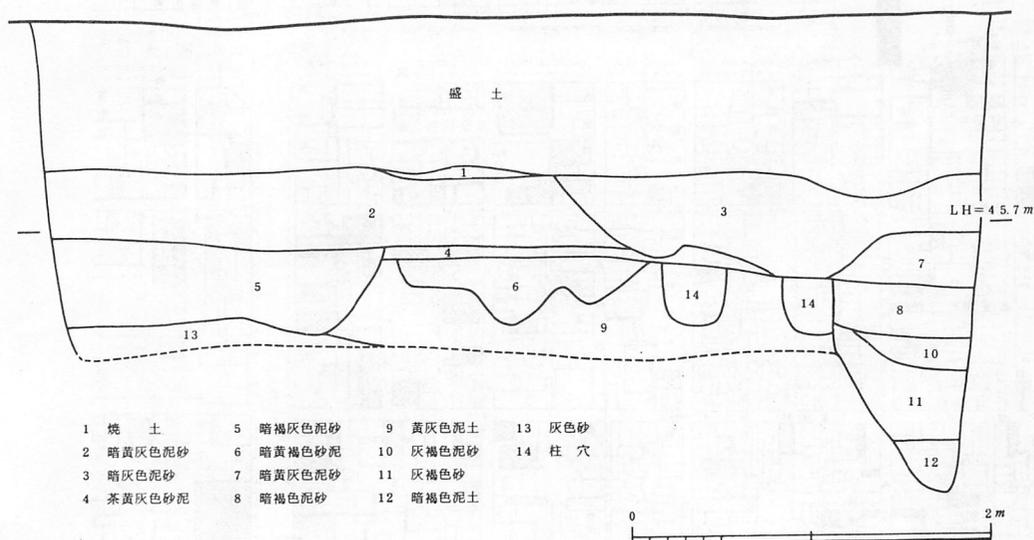


Fig 2 東壁断面図

左京三条三坊跡試掘調査 (№171)

中京区円福寺町846番地のトキワ商事店舗新築予定地にて昭和54年7月10日に試掘調査を実施し、長さ18.5m、幅2mの東西トレンチを設定した。堆積状況は、地表下約2mまで盛土、その下層は、青灰色砂礫ないし褐色砂礫となる。

検出した遺構は、土塚、濠、井戸、溝である。室町時代の土塚(SK1)は、幅1m、深さ0.4mで南壁断面にて確認した。鎌倉時代の遺構に南北濠(SD1)がある。規模が大きく幅4m、深さ1.5mを測る、ゆるやかな傾斜であるが、ほぼ中央部が一段深くなる形状を呈している。濠内堆積はほぼ水平であり掘り返された跡はない室町時代の土塚であるSK1に切られる。平安時代の遺構に井戸(Se1)、溝(SD2)がある。Se1の上部は残存しておらず底部のみで径約0.9m、深さ0.3mの円形で検出した。底部に竖板が倒れ込んでいる。井戸内より出土の遺物より11世紀中頃の井戸と判断した。SD2は全体の規模等は不明である。(図版二)

出土した遺物は、近世以降のものを除くと種類にとぼしい。土師器、瓦器を中心に磁器類が若干みられるのみである。

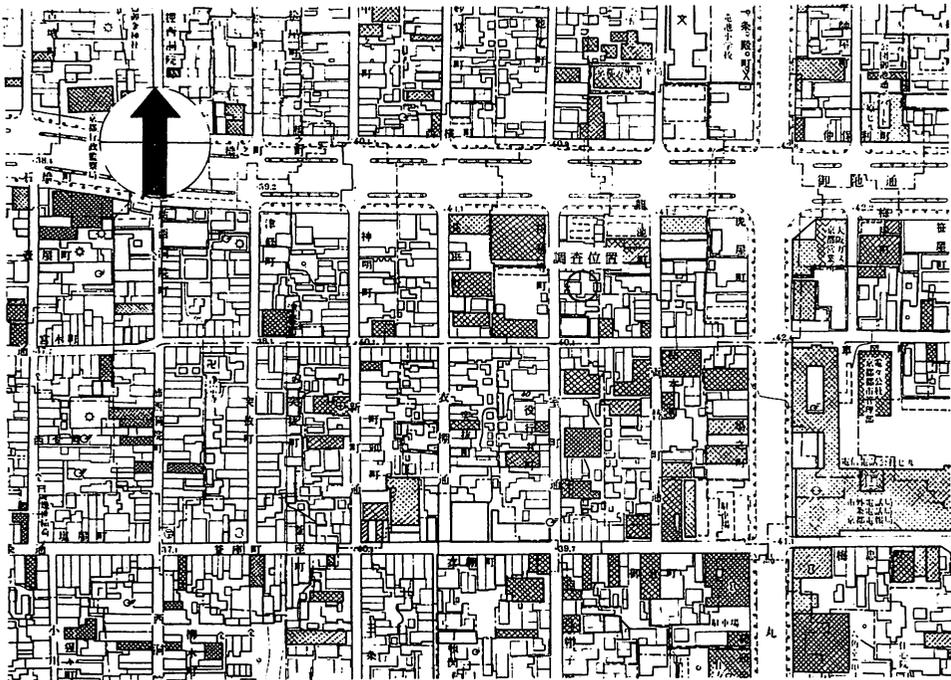


Fig 3 調査位置図

当該地では、鎌倉時代の濠跡を良好な状態で検出しており、さらに付近一帯の平安時代の遺構面が部分的ではあるが残存していることに注目しておきたい。

(長宗繁一)

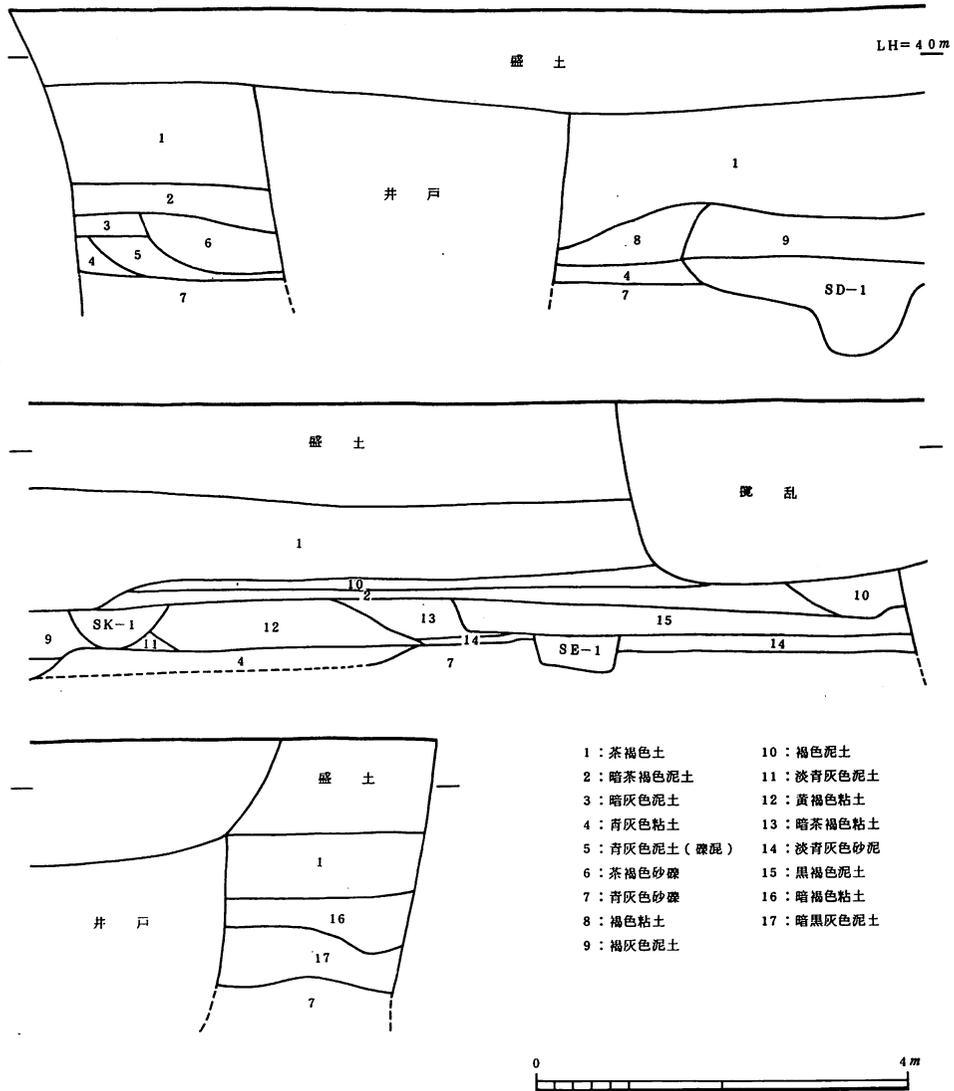


Fig 4 南壁断面図

左京二条三坊跡試掘調査 (№232)

上京区室町通丸太町上ル大門町267番地の今江仙太郎氏の社屋ビル新築に先立ち昭和54年8月9日に試掘調査を実施した。敷地面積約536㎡のうち建築面積は130.5㎡で、工事区内の西北隅に東西8.5m、南北2mのトレンチを設けた。堆積状況は、焼土、瓦礫を含む盛土が地表下1.8mまでつづいている。その下に緑釉椀片など平安時代の遺物を包含する暗灰褐色砂泥が厚さ約0.2m程堆積しており、ついで黄灰色泥土となる。

検出された遺構は溝状遺構2、土坑1でいずれも暗灰褐色砂泥を切って成立している。溝状遺構は、いずれも南北に流れの方向をもち、東肩はほぼ同一位置にあり切りあっている。新しい方の溝(SD1)は、幅1.6m、深さ0.6mで溝内には灰褐色砂泥が堆積する中世の溝である。古い方の溝(SD2)は、東肩を検出することはできたが、西肩は調査区外にのびると考えられ、検出することができなかった。幅、深さなど全体の規模、時期は不明である。溝内の堆積は2層に分かれ、上層は暗青灰色砂泥、下層は緑灰色粘土となる。土坑(SK1)は、トレンチの南壁断面より検出されたもので全体の規模、形状等は不明である。塩壺が出土しており、近世の遺構と思われる。

出土した遺物は少量であり、小片がほとんどであるが、瓦、土師器、緑釉陶等がみられる。土師器、緑釉陶は、平安時代のものと認められる。

当該地付近は、遺構の残存状態がよく、京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会が行った烏丸通りの調査では丸太町通りから中立売通りの間で旧二条城関係遺構(石垣、濠)等を検出した成果があがっている。今回は旧二条城に関連する遺構は検出できなかったが、中

- ・近世の遺構に加えて、平安時代の遺物包含層が検出できたことは大きな成果であった。

(木下保明)

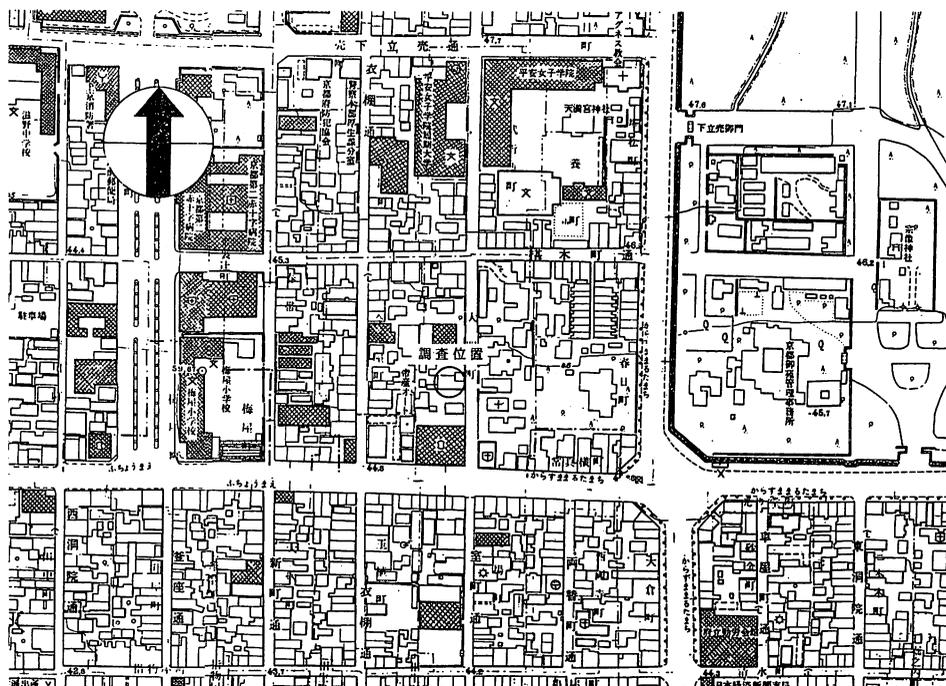


Fig 5 調査位置図

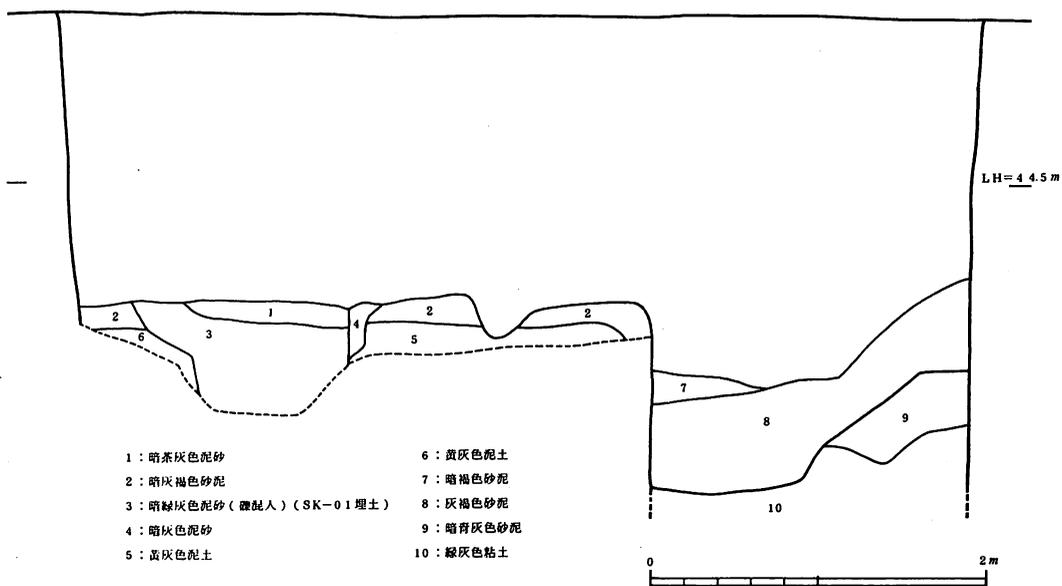


Fig 6 南壁断面図

左京五条三坊跡試掘調査 (№506)

下京区室町通松原上ル高辻町607番地の関慎一郎氏のビル新築予定地にて、昭和55年2月5・6日の2日間に建築面積257m²のうち約32m²を対象に試掘調査を行った。当該地は室町小路西側溝の検出が望める位置にあるためトレンチを東西に長く「T」字形に設定した。南北トレンチは敷地西寄りに長さ6.5m、幅1.5m、東西トレンチは南北トレンチ中央部から東に13m、幅1.5mである。堆積状況は盛土が約1m程で、その下が0.3mの厚さの褐色泥砂、0.4～0.5mの厚さの暗茶褐色泥砂、そして最終調査面の黄褐色泥砂となる。(図版一)

褐色泥砂上面から検出した遺構は井戸1、土塚2で江戸時代の遺物が出土した。暗茶褐色泥砂から検出した遺構は土塚6、柱穴3で室町時代の遺物が出土している。黄褐色泥砂から検出した遺構は土塚3、柱穴2で平安時代後期の遺物が出土している。室町時代の土塚SK1～3は、3つの土塚が切り合うものや、一部が壁面にかかっているものばかりで全体の形、規模のわかるものはない。これらの土塚からは多量の土器が出土しており、土師皿、瓦器、無釉陶器、中国元代の口禿のある白磁皿の他輸入陶磁器がみられる。また各土塚より出土の遺物は時期差はほとんどなく、短期間に形成されたものと考えられる。平安時代後期の土塚は土器溜めと、もう一つは南壁にかかり北半分のみの検出であるが肩部に石組の一部が残り、また石組を抜きとった痕跡のある遺構である。検出部分の規模は東西1.5m、南北0.7m以上の不整形で石組の部分が袋状に突出しており深さ0.6mを測る。土師皿が多量に出土している。またこれらの土塚から輸入陶磁器の椀、皿片が多くみられることは注目すべきである。

調査地は全体に遺構、包含層の残存状態が良く、発掘調査が必要と考えられるが、今回の工事では基礎が近世の包含層をわずかに破壊するけれども、室町時代以前の遺構は保存されることが明らかとなったため試掘調査の段階で終了することになった。しかし当該地付近は1.5m以上掘削のある工事については要注意である。また室町小路は今回のトレンチでは検出できなかった。さらに現室町通寄りと推定される。

(鈴木広司)

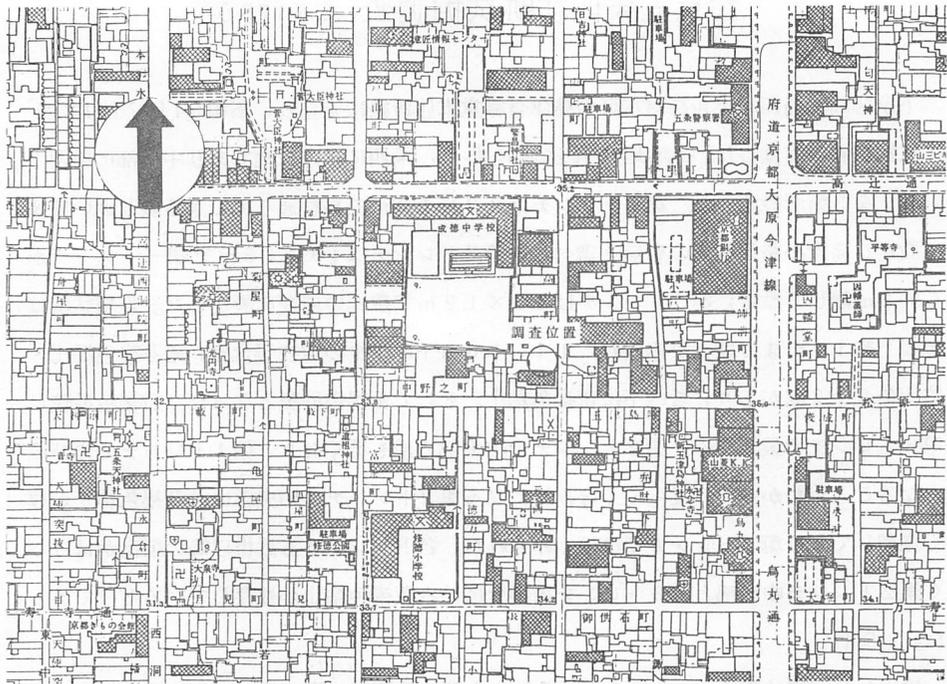
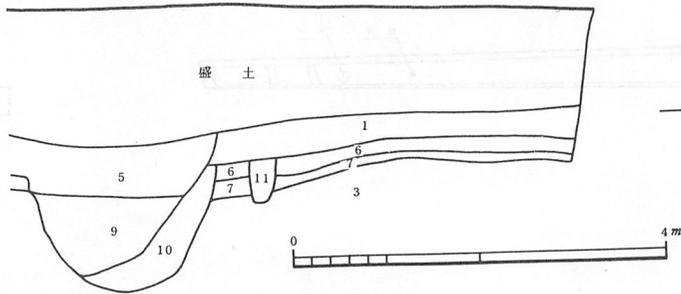
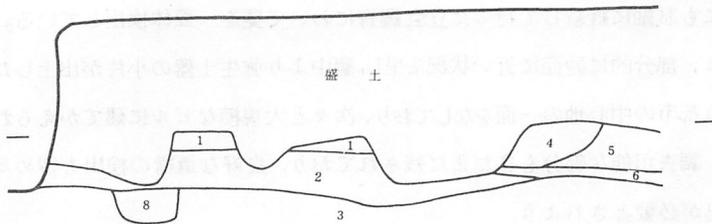


Fig 7 調査位置図



- | | | | |
|-----------|---------------|-----------|------------|
| 1: 褐色泥砂 | 4: 淡赤褐色泥砂 | 7: 茶褐色泥砂 | 10: 土掘SK-2 |
| 2: 暗茶褐色泥砂 | 5: 褐色泥土混雜 | 8: 淡茶灰色泥砂 | 11: 柱穴 |
| 3: 黄褐色泥砂 | 6: 茶褐色泥砂(焼土混) | 9: 土掘SK-1 | |

Fig 8 北壁断面図

左京五条四坊跡試掘調査 (№178)

下京区高倉通四条下ル高材木町の島津有職堂本店新築に先立ち、昭和54年7月12日に試掘調査を実施した。当該地は高倉通に面し、東西に長い敷地であり中央部に東西トレンチを3箇所設定した。第1トレンチは3.2×1.2mで高倉通りにできる限り近い箇所に設定し高倉小路東側溝の有無を調べた。第2トレンチは19×1.5mで第一トレンチから約2m離して設定、第3トレンチは4.5×1.2mで敷地の東端に設定した。堆積状況は、地表下約1.4mまで盛土がみられ、1.4～1.6m下に中世の遺物包含層、暗茶褐色泥土・暗灰色泥土2層があり、この下に黄褐色粘土、そして黄褐色砂礫となった。黄褐色砂礫は第3トレンチで最も高く、第2トレンチの中央部で最も低くなり、第1トレンチで再び高くなることがわかった。従ってくぼみ状になる第2トレンチの中央部には黄褐色粘土が厚く堆積しており第3トレンチでは薄くみられた。各トレンチとも近世以降の攪乱がはげしく第2トレンチ中央部と第3トレンチ東半分のみ黄褐色粘土が残存しているだけであった。(図版一)

検出した遺構は第2トレンチの黄褐色粘土上面で須恵器の甕が埋められた状態で出土した。他に柱穴が数個認められた。これら柱穴は平安時代から鎌倉時代にかけてのものと考えられる。他にも試掘に継続して行った立会調査において甕を一箇体検出している。

黄褐色粘土は、部分的に砂泥に近い状況を呈し、層中より弥生土器の小片が出土した。当該地付近は京都市の中心地の一面をなしており、次々と大規模なビルに建てかえられつつある。しかし、調査可能な部分もまだまだ残されており、良好な遺構の検出も望めることから急速な対処が必要とされよう。

(長宗繁一)

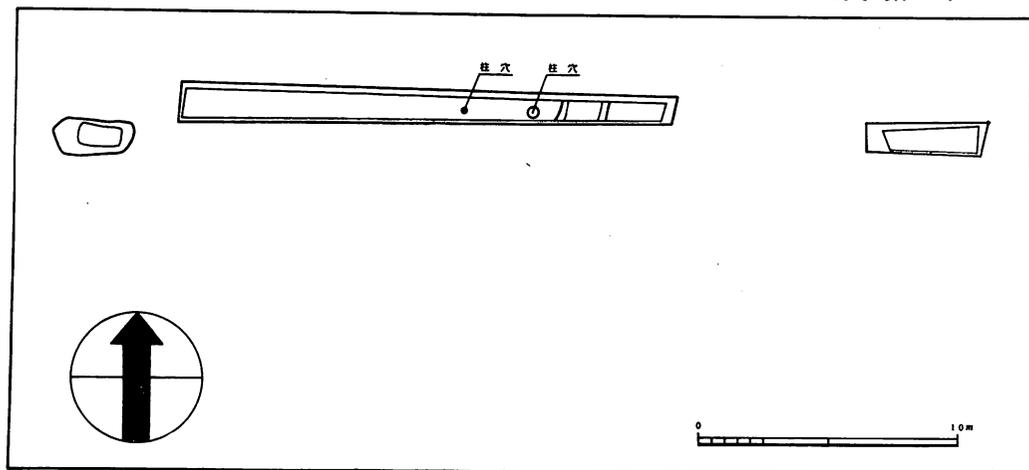


Fig 9 調査地平面図

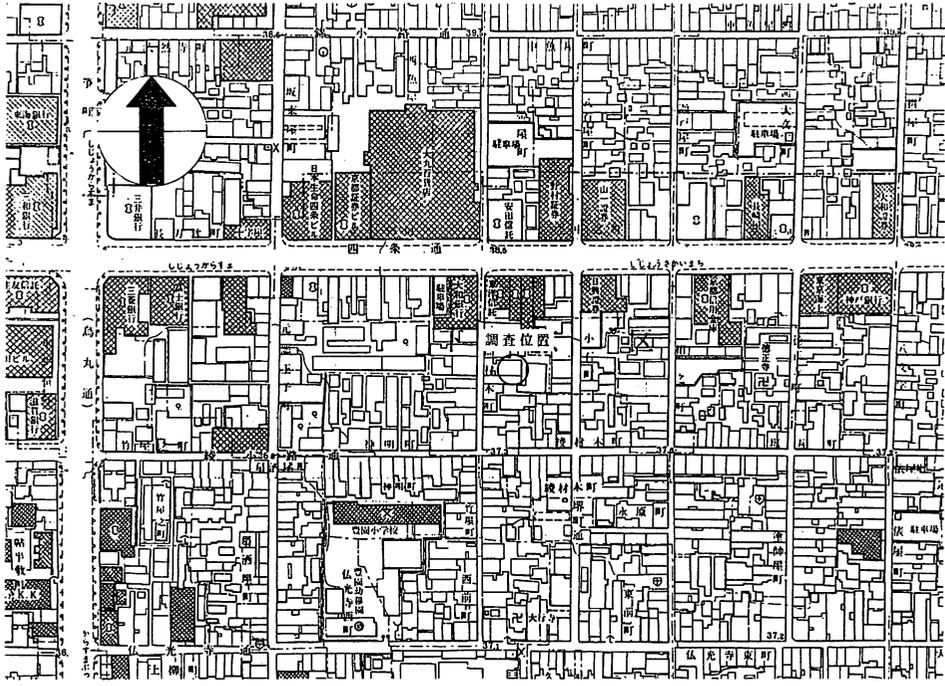


Fig 10 調査位置図

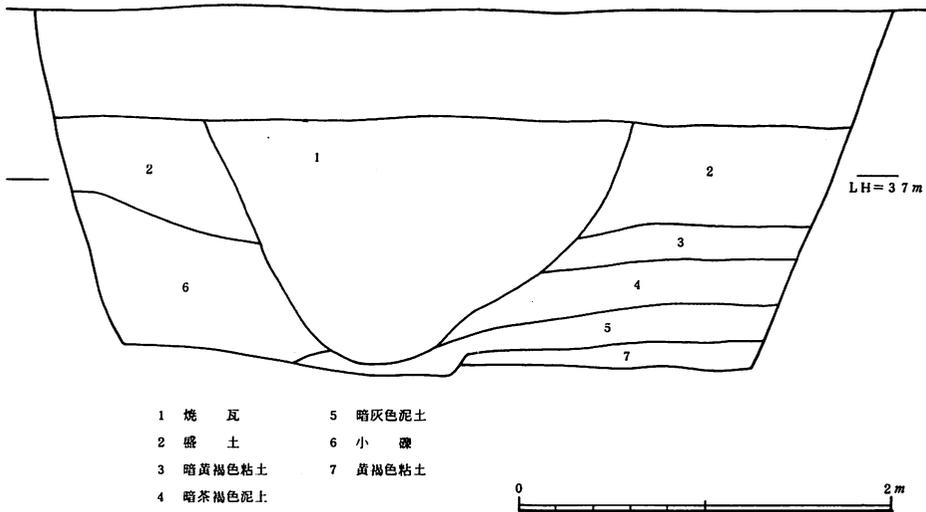


Fig 11 北壁断面図

左京六条二坊跡試掘調査（№375）

下京区猪熊通五条下ル柿本町669番地，株式会社六進興産所有地，仮称インペリアル五条が建設されるに先立ち，昭和54年10月29日に試掘調査を実施した。建築面積は約478m²で，建築予定地内に「L」字形のトレンチを南北19m，幅2m，東西13.5m，幅2mで設定した。（図版一・二十一）

調査の結果，調査地南寄りの東西トレンチは漆喰，棧瓦などを含む落ち込みで全面的に攪乱されており遺構は検出できなかった。調査地西寄りの南北トレンチは攪乱はほとんど受けていなかった。南北トレンチの堆積状況は盛土が厚さ約0.2m，盛土下第1層に暗茶褐色泥砂が0.2～0.3mあり，第2層に層茶褐色泥砂が約0.3m堆積しており，第2層の下は茶褐色砂泥あるいは黄灰色細砂となる。第1層は近世の遺物包含層であり，第1層と第2層の間に焼土及び固く焼きしまった床面と思われる焼土層を厚さ約1cm程観察している。第2層は中世の遺物包含層である。第1層，第2層上面ともに切り込む遺構は認められず，検出した遺構は土塚2（SK1・SK2）で，これらはすべて黄灰色細砂上面で検出できた。SK1は，南北トレンチ南端に位置し北半のみの検出で全体の規模は明らかでない。土塚内の堆積土は第2層と同様の茶褐色砂泥で，窪地に第2層が堆積した可能性もある。土師皿がかなり多く出土している。SK2は，南北トレンチ中央南寄りに位置し，西肩はトレンチ外である。南北3.3m，東西0.9m以上，深さ1.3mを測る。土塚内堆積土は褐灰色泥砂であり，出土遺物には鎌倉時代の土師皿，瓦器椀，須恵器鉢，白磁四耳壺，青磁皿片などがある。

（辻 裕司）

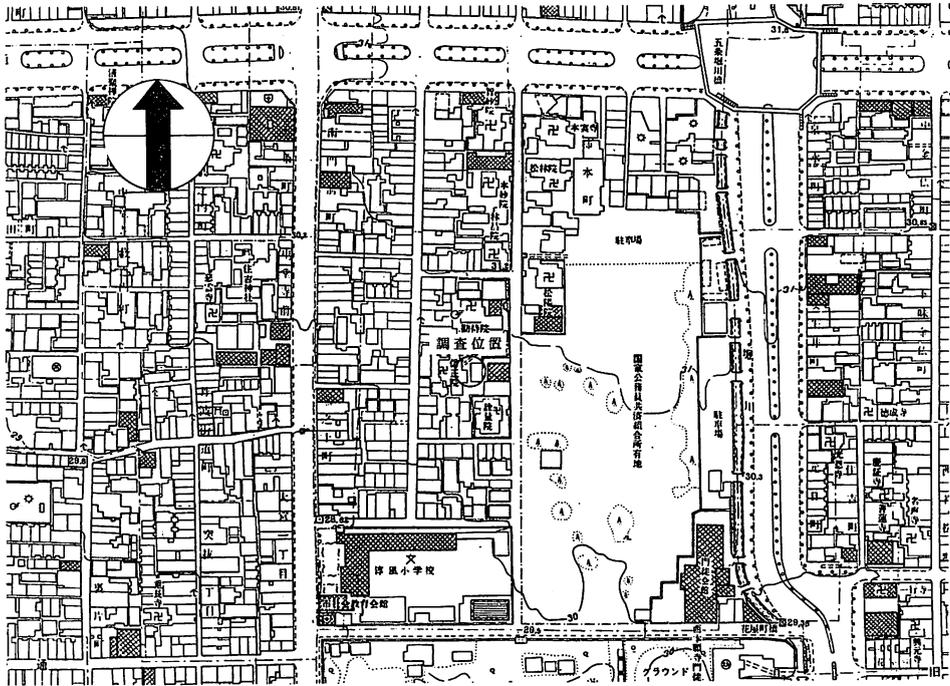


Fig 12 調査位置図

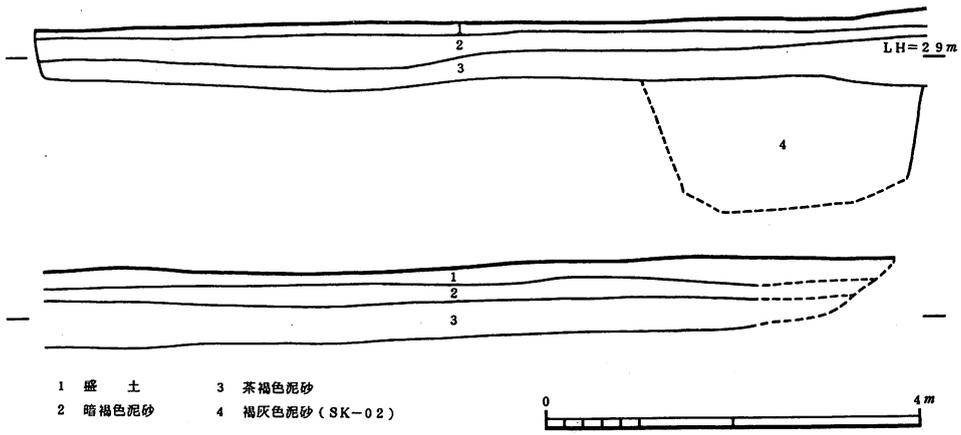


Fig 13 西壁断面図

左京七条一坊跡試掘調査 (No. 447)

下京区西新屋敷上ノ町126番地, 133番地の2～5の上野マツ, 徳秀 徳秀両氏所有地において昭和54年12月11・12日の2日間 試掘調査を実施した。建築面積は約370 m²あり, そのうち約10 m²を試掘調査とし, 残りは立会調査を行なった。堆積状況は盛土が厚さ約0.8 m, 旧耕土と考えられる灰褐色泥砂が0.15～0.2 mあり, その下は黄灰色粘土が約0.9 m堆積しているが, その下は砂層となり, その砂層間に黒色粘土層が間層として約0.2 mの厚さで堆積している。最下層は青灰色砂層であり, 基礎の關係上それ以下は調査不可能であった。遺構は黄灰色粘土を切り込んで成立しており, 黄灰色粘土, 黒色粘土, 青灰色砂ともに, 小量ではあるが, 遺物を包んでいる。敷地中央部に径約15 mのゴミ捨て穴があり, 遺構, 遺物包含層を残すのは東側だけであった。

調査区西で南北の溝一条を検出, 上幅1.8 m, 下幅1 m, 深さ1.1 mの「U」字溝である。溝内堆積は5層に分層され, その状態は水が流れていたものと考えられる。溝内からの出土遺物は, 土師器, 須恵器等で, すべて小破片のため時期は定めにくい, 鎌倉から平安時代に比定されるものと考えられる。

出土遺物は小量であったが, 遺構面である黄灰色粘土層から平安時代より古いと思われる土師器片が, 黒色粘土および青灰色砂からは弥生時代後期から古墳時代の土器および縄文土器が出土している。これらは, すべて磨滅しており, 小破片であった。

検出された溝は長さ約10 mにわたって確認されており, かなりしっかりとした溝である。当該地は, 条坊に推定されず, この溝の性格は定かでない。溝の性格については, 今後, 当該地域での資料の増加をまちたい。

今回の試掘では, 平安京以前の時期に比定される遺物が出土している。また, 当調査区西約100 mの中央市場敷地内では, 古墳時代, 縄文時代の遺物が出土している(平安京調査会昭和50年度調査)これらの資料によってこの島原一帯に縄文時代から古墳時代にいたる集落の存在した可能性が強くなった。今後, 当該地域では, 平安京造宮以前にも注意を払う必要がある。特に溝の成立面である黄灰色粘土層は, いわゆる「じゅらく土」に近似しており, 無遺物層と混同しやすい。

(菅田 薫)

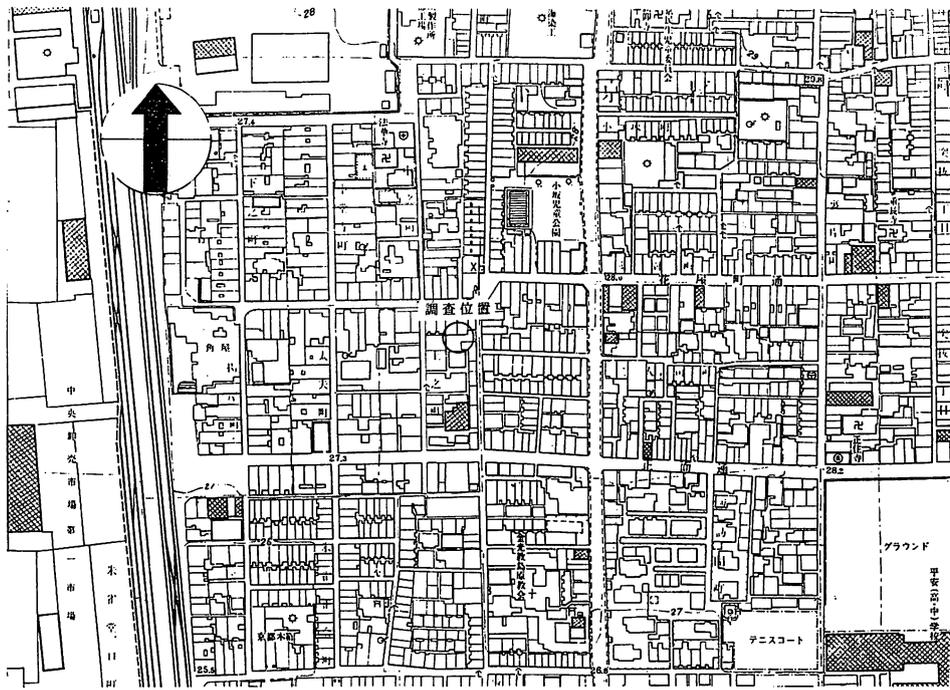


Fig 14 調査位置図

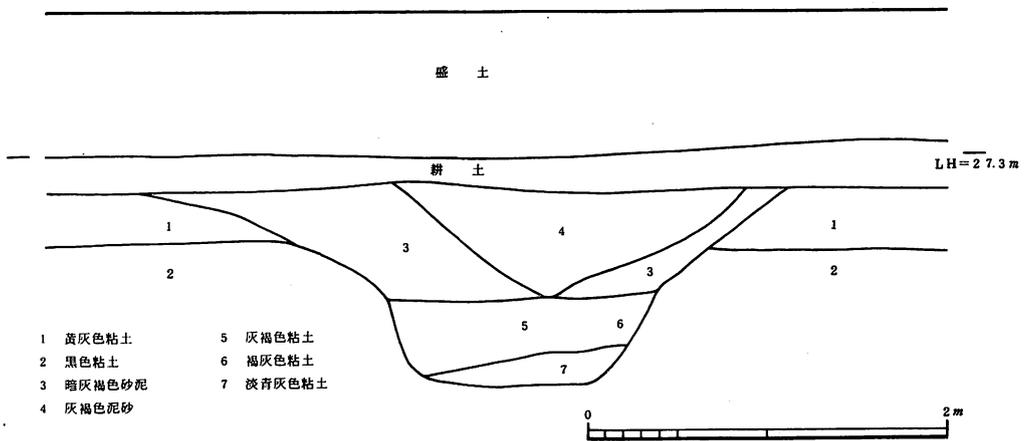


Fig 15 北壁断面図

左京一条三坊跡立会調査 (№267)

上京区下立売通室町上ル勘解由小路町151番地の4の山田英夫氏宅の改築に伴う工事の立会調査を、昭和54年9月3日に行った。建築面積は約62.4m²で重機により3.5m程掘り下げを行った。当該地の盛土及び近代層は約1.2m前後で、その下が約0.4mの灰色砂礫で近世の遺物包含層である。次が灰色泥土で厚さ0.2mが認められ安土桃山から近世初頭の遺物包含層である。この灰色泥土上面より切石積(花崗岩)の円形井戸を確認した。規模は直径1.2mほどで深さは4m以上である。灰色泥土の下は、暗茶褐色泥土が厚さ0.1mほど認められる。この層の上面は非常に固く叩きしまっている。その下は暗灰褐色泥土が0.3m堆積し、室町時代の土師器などを含む遺物包含層である。次に暗灰褐色砂泥が0.5mほど認められたが、観察箇所の一部では多量の土器を含む所が数ヶ所確認できた。時期は鎌倉時代である。次に暗灰色泥土が約0.2mほど認められ、平安時代後期の土器を含む遺物包含層で、ついで茶灰色砂礫となる。

以上のように、当該地付近、平安時代から近世に至る各時期の包含層及び種類の遺構の残存状態がよく、また、近衛邸跡に比定されていることなどにより、京都の歴史を解明する上で極めて重要な地域と考えられる。今後この付近では綿密なる調査が望まれる。

(堀内明博)

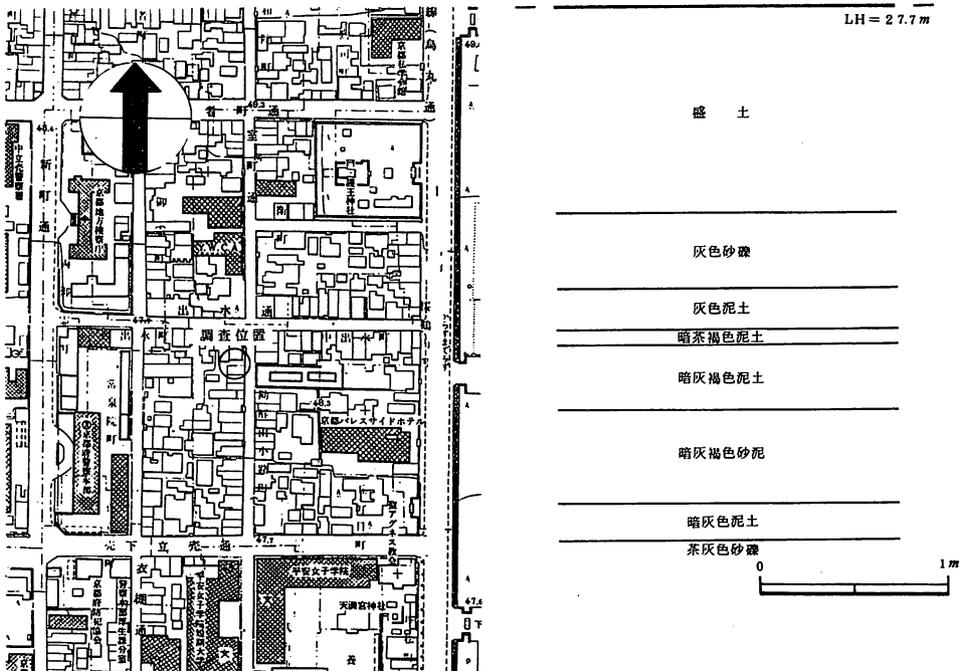


Fig 16 調査位置・南壁断面図

左京二条四坊跡立会調査 (№ 251)

中京区堺町通竹屋町上ル橘町90番地の福島俊平氏邸の新築工事に伴う立会調査を昭和54年8月23日に実施した。建築面積は164 m²であるが基礎部分を坪掘りで地表下2.1 m 下げる工法がとられた。堆積状況は焼土・ガラスを含む盛土が約0.9 mあり、その下に厚さ0.15~0.25 mの暗灰褐色泥砂が堆積しており、ついで黄灰色微砂となる。工事区の中央やや西寄りでその黄灰色微砂を切って成立している土塼を検出した。断面による観察のみで形状、規模は不明である、深さは約30 cmあり埋土は暗茶灰色泥砂で中に室町時代の土師皿がぎっしりと詰まっていた。(図版三)

(木下保明)

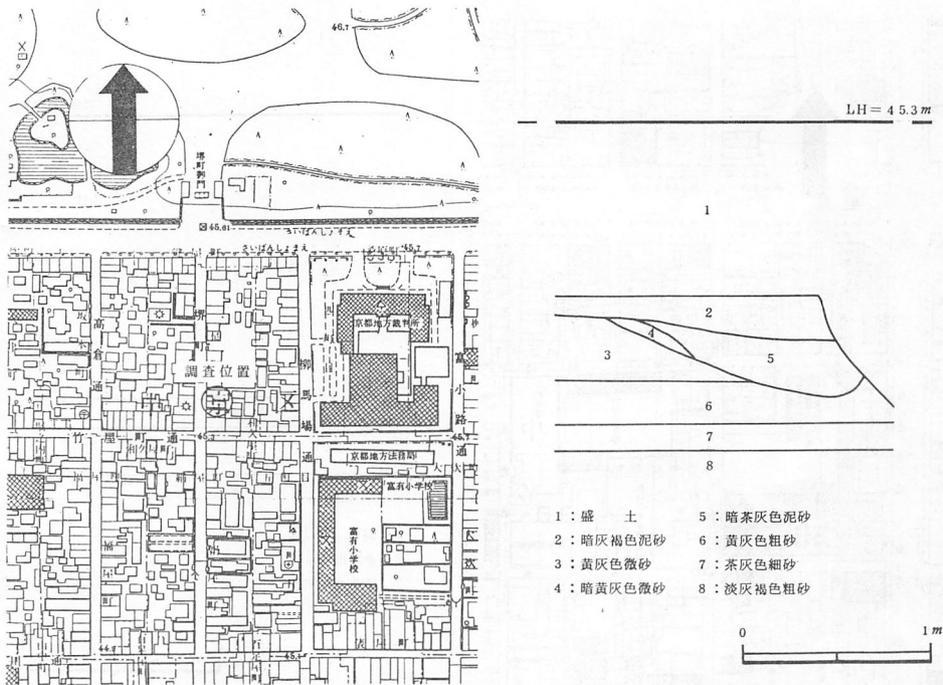


Fig 17 調査位置・西壁断面図

左京三条四坊跡立会調査 (№186)

中京区姉小路通東洞院東入ル笹岡町446番地の松井和夫氏邸の新築工事に伴い立会調査を昭和54年7月18日に実施した。建築面積は約150m²で地表下約1.9mまで機械によって掘り下げられた。堆積状況は焼土，ガラを含む盛土が1.5mあり，その下に約0.1mの厚さの茶灰色泥砂，約0.25mの厚さで暗茶褐色泥土が堆積して淡茶灰色泥土となる。暗茶褐色泥土は遺物包含層で鎌倉から室町時代の遺物が出土している。

検出した遺構は，根石を持った柱穴が淡茶灰色泥土上で認められたが，対になる柱穴は検出できず，また形成された年代も確定することはできなかった。しかし攪乱が少なく遺構面の残りは良好であることから今後付近で開発工事がなされる場合，本格的な発掘調査の必要があろう。

(木下保明)

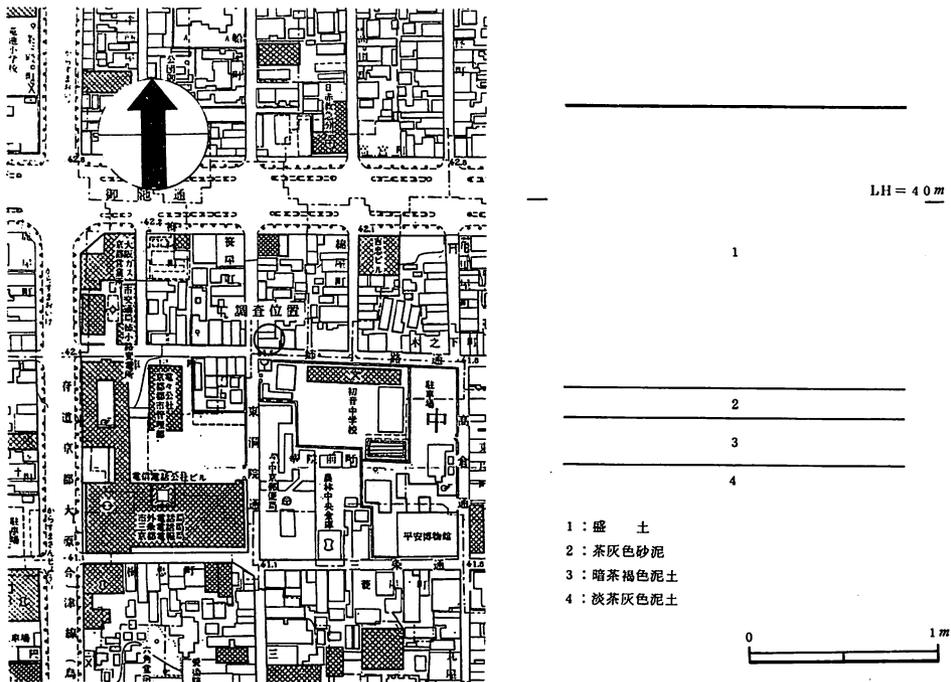


Fig 18 調査位置・北壁断面図

左京四条三坊跡立会調査（南蛮寺）（№311）

中京区蛸薬師通新町東入姥柳町189番地の西村嘉津雄氏所有地においてエテカルビル新築工事に伴う立会調査を昭和54年9月25日から10月16日まで行った。建築面積は約127m²で機械により3.1mまで掘り下げられた。9月25日から10月2日までは土留工事を行うため東端4ヶ所、西端に5ヶ所2m×2mのピット掘りを行うに際し断面観察を行なった。堆積状況は盛土が0.65～0.8mであり、その下が灰黄色泥土、遺物包含層で厚さ約0.25mほど認められる。次に灰黄色泥砂、遺物包含層で厚さ約0.2～0.3mほど認められた。この下に厚さ5cmほどの薄い灰色泥土のやや叩きしめられた層を確認した。その下には、同様に厚さ5cmほどの薄い炭層が確認された。これらの薄い整地層は室町時代～安土桃山時代と考えられる。これより約0.5mほどは土塚などが複雑に切り合う状況が認められ、また土留ピットでは包含層及び整地層は確認されなかった。時期は鎌倉時代から室町にかけてと考えられる。その下で確認できた包含層は地上から1.8～2mにかけて厚さ0.15m前後の緑灰色泥土、遺物包含層である。時期は平安時代後期と考えられ、この層の上面より切り込む土塚を数ヶ所確認した。この層より下は灰緑色砂礫である。

このように各時代の包含層及び遺構からは良好な遺物が出土した。まず工事区南西端の南北朝時代の土塚より土師器、瓦とともに、線刻のしのぎ蓮弁のほどこされた青磁碗、無紋様青磁碗が出土する。また同一場所の平安時代末期の土塚からは、土師器、瓦器碗、白磁碗（玉縁の肥厚があまり目立たないもの）、白磁皿とともに楕円形を呈し、五箇所に内側に突出する輪花状を呈した硯がほぼ完形で出土した。また平安時代中期の土師器、須恵器、緑釉土器、灰釉陶器が出土した工事区の中央部の土塚からは、緑釉陰刻透影香炉蓋片が出土した。

以上、出土遺物からこれらの遺構は平安時代から江戸時代までほとんど全時代にいたり、また良好な状態で残存していることが判明した。即ち、このことは周辺の歴史を明らかにするばかりか平安京左京の歴史の変遷が考察できる貴重な資料になっていくため、今後立会調査以上の調査が必要であると考えられる。

（堀内明博）

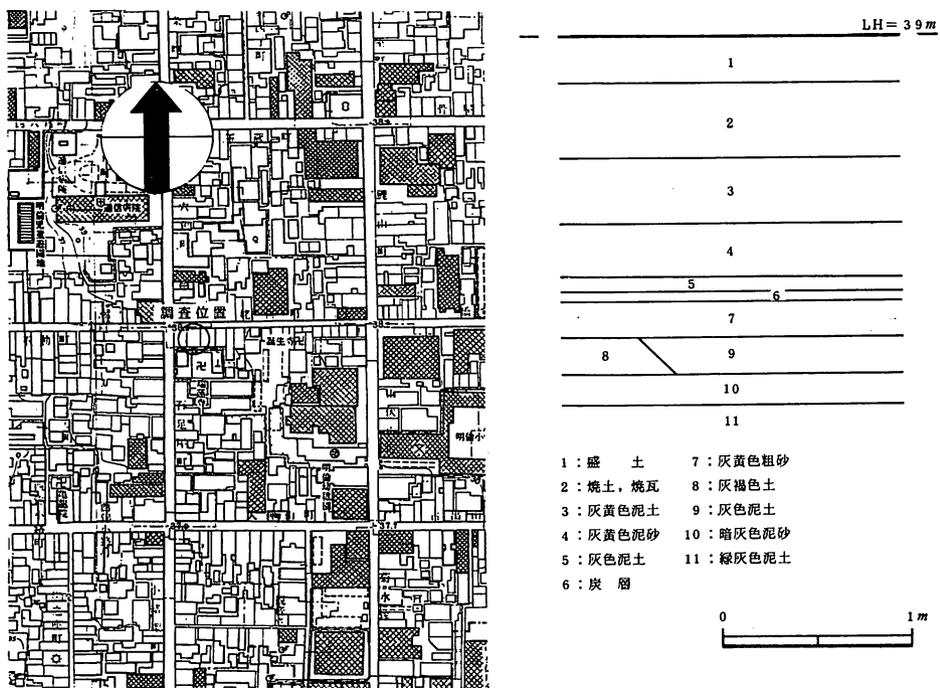


Fig 19 調查位置・東壁断面図

左京四条三坊跡立会調査 (No.381)

中京区新町通錦小路ル百足屋町390番地の1の(株)山三織物本社新築工事に伴い昭和54年10月31日に立会調査を実施した。掘削は重機により地表下2mまで行う。堆積状況は盛土が約0.9mで、その下に厚さ約0.15mの焼土層、厚さ約0.4mの茶灰色泥砂がみられ、その下は再び約0.2mの厚さの焼土層となり、ついで暗茶灰色泥砂となる。茶灰色泥砂直下の焼土層まで近世の堆積層である。暗茶灰色泥砂は鎌倉時代から室町時代にかけての遺物包含層で、ボーリング棒により確認した結果、地表下2.3mより炭の含有が多くなるものの、少なくとも地表下3mまで厚く堆積する状況がみられた。

調査地北西隅で、暗茶灰色泥砂上面から切り込む長さ1.2m以上、深さ0.6mの土坑を検出した。土坑内の堆積土は、第1層が黒褐色泥砂、第2層が炭、焼土からなる層で多量の土師皿および鉄釘が2本出土した。第3層は暗茶褐色泥砂で、土師皿、銭が1枚出土している。なお第2層から第3層にかけて、火を受け赤黒く焼け、細片に崩れた石が数個みられた。

今回の工事の掘削深度では平安時代の層を認めることはできなかったが、当該地は各時代の遺構、遺物の残存状態が良好な地域である。

(辻 裕司)

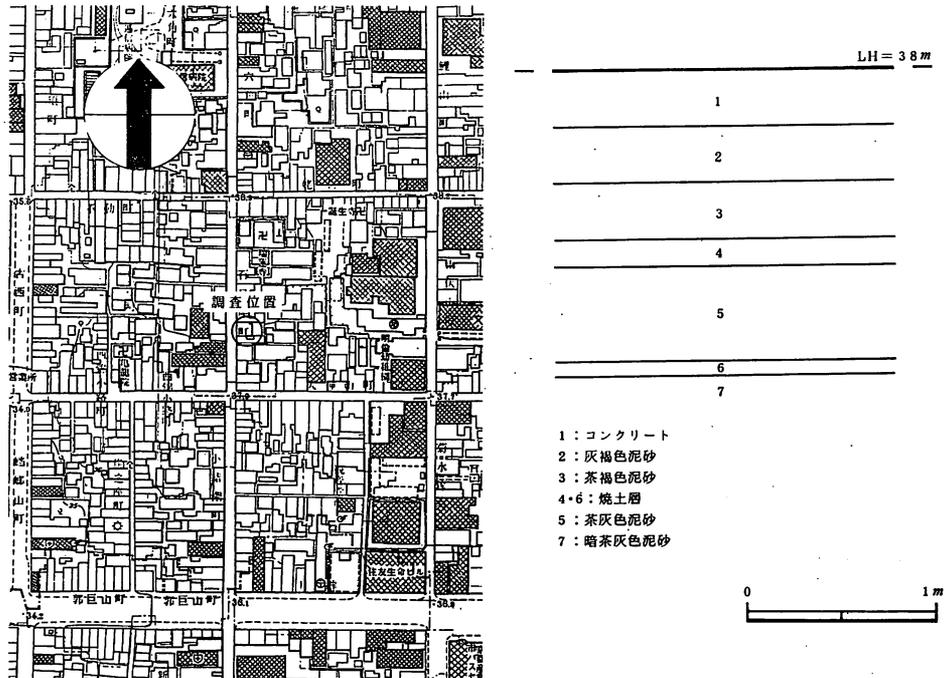


Fig 20 調査位置・南壁断面図

左京五条二坊跡立会調査 (№ 353)

下京区東洞院仏光寺上ル、(株)広田紬社屋新築工事に伴い立会調査を昭和54年10月13日に実施した。重機により地表下1.8mまで掘削した。堆積状況は盛土が1.25mまでであり、その下は約0.35mの厚さで、暗茶灰色泥砂、約0.25mの厚さで茶灰色砂泥の中世から近世の遺構面、遺物包含層であり、断面よりいくつか遺構が認められる。この下に庄内式土器を非常に多く包含する大きな流路の一部を検出した。この流路は調査地東側10m以上にわたってみられる。西肩は明確には検出できなかったが東に向かってやや下がりつつも全体にほぼ平坦な底部をもつ。この流路の残存状態は割合良好である。流路内の堆積状況は、砂と砂礫が1cm前後の厚さで互層堆積を示す、その下に砂があり、ついで部分的に砂を含む灰色泥土となる。遺物は全ての層から出土したが、灰色泥土には大きな破片や、ほぼ完形の土器が集中してみられ、砂や砂礫には小片が多い。土器はいわゆる庄内式土器で壺、甕、高杯、こしきなどが出土している。ほとんどの土器は磨滅しておらず残存状態は良好である。(図版二十)

四条烏丸周辺は近年弥生土器いわゆる庄内式土器の出土例が多く、今回の立会調査で確認した遺構、遺物もこれらのものと密接な関連があると思われる。

(辻 裕司)

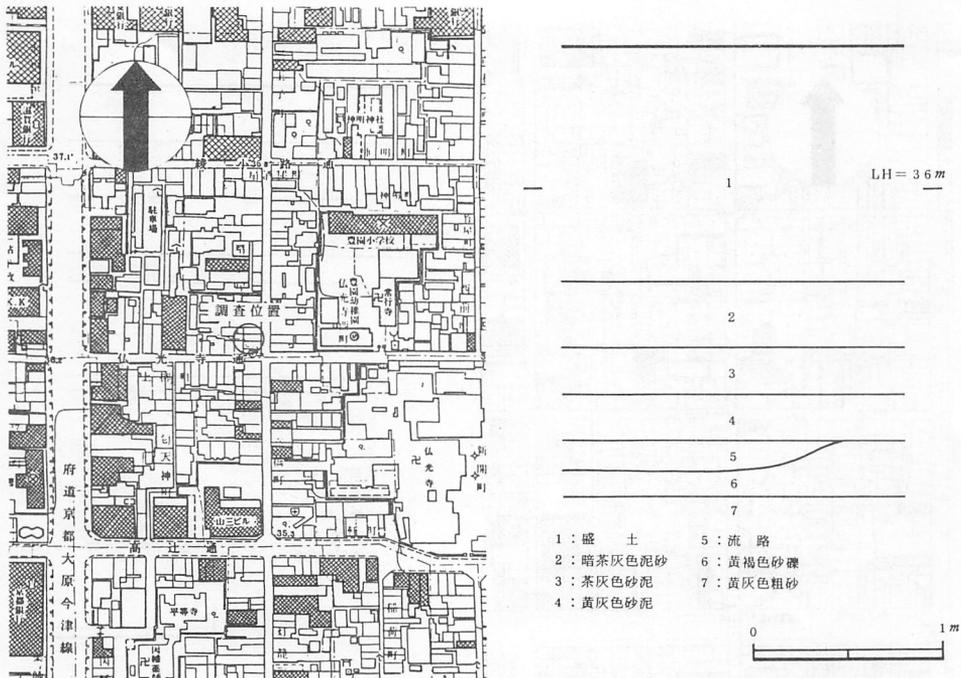


Fig 21 調査位置・南壁断面図

左京五条二坊跡立会調査 (No. 27)

下京区油小路高辻東入ル永養寺町222番地の清水厚子氏邸の改築工事に伴う立会調査を昭和54年4月16・17日の両日に渡り実施した。建築面積は約55m²で地表下1.6mまでの掘削である。堆積状況は盛土が約0.7～0.9m, その下に暗褐色砂泥が約0.2～0.4m, 暗灰褐色砂泥が約0.5m堆積して黄褐色泥土となった。暗褐色砂泥には江戸時代の遺物が包含され, 暗灰褐色砂泥には平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物が包含されている。

検出された遺構は土坑, 柱穴, 石組み遺構等であるが立会という制限された調査のため, 十分に精査が行えず遺構の実数, 実態を知ることはできなかった。出土した遺物は中世陶器, 白磁, 青磁(同安窯系), 軒平瓦等である。

遺構の残りが良好であったので発掘調査の実施が望まれたが諸般の事情により実現できなかった。ただ遺構面が深かった為, 工事の手が加えられることはなく, 結果的には遺構が保存されることになった。(図版三)

(木下保明)

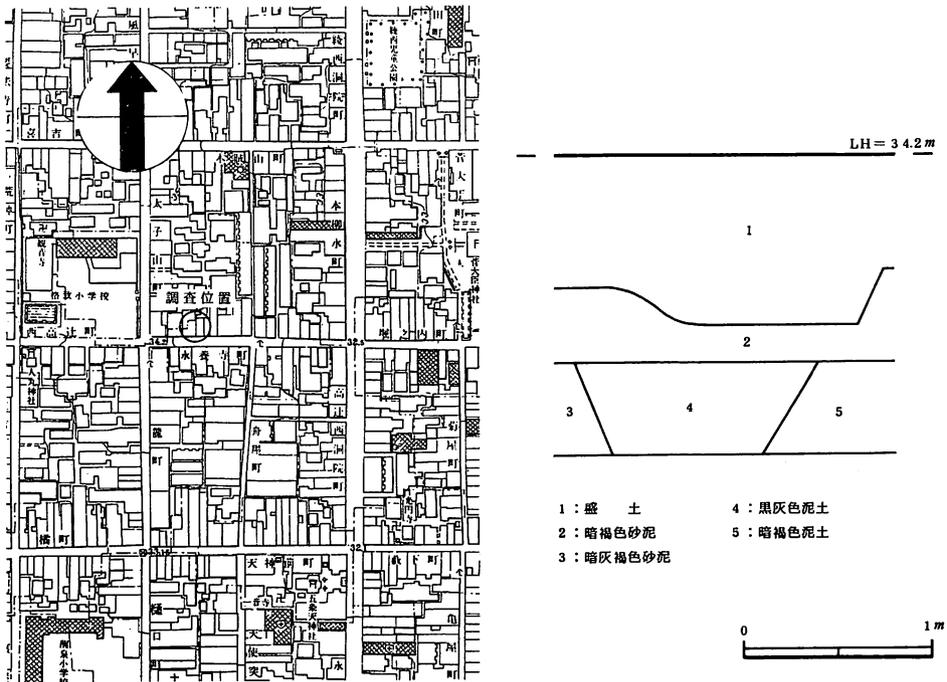


Fig 22 調査位置・北壁断面図

左京五条三坊跡立会調査 (No.317)

下京区烏丸通松原上ル因幡堂町711番地の西田秀氏宅の事務所併用共同住宅新築に伴う工事の立会調査を、昭和54年9月26日に行った。建築面積は、約59.5㎡で、その下には、厚さ約0.25mの茶灰色泥土層、厚さ約0.1mの灰色泥砂層、その下に薄い焼土層を確認した。その下には、厚さ約0.12mの灰褐色泥砂層があり、室町時代の遺物包含層である。また、その下には、厚さ約0.2mの茶灰色泥砂層があり、鎌倉時代の遺物包含層である。ついで、灰褐色泥砂が約0.2mの厚さで堆積しており、その下の褐灰色砂泥より、土坑状遺構(暗灰色泥土)を確認、深さ0.3m程であった。これらの下は、淡灰色砂礫であり、この礫層に切り込む井戸状遺構を確認した。(図版四)

今回の立会調査では、平安後期から鎌倉時代の遺構を工事区西端において検出したが、工事区東側はほとんど攪乱されていた。また、西端において井戸状遺構を検出、出土遺物は、須恵器・土師器・瓦器・白磁・青磁等であった。

(堀内明博)

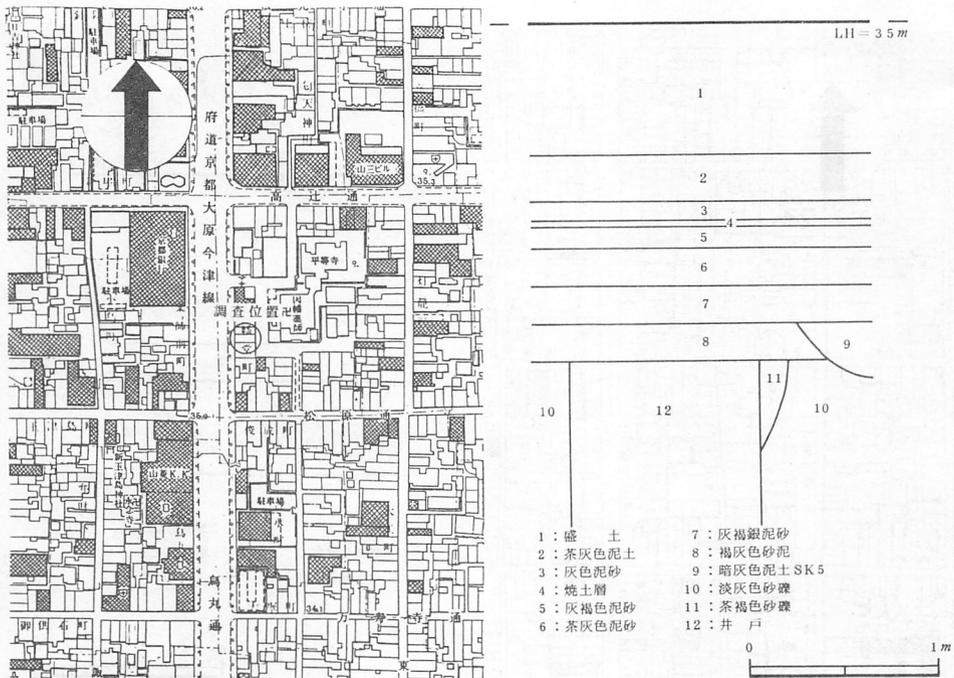


Fig 23 調査位置・西壁断面図

左京五条四坊跡立会調査 (No.268)

下京区寺町通仏光寺下ル恵美須之町の(株)谷山無線電気の新築工事に伴い昭和54年9月3日に立会調査を実施した。建築面積は約260m²で、重機により1.8mの掘削を行った。当該地の南側では近世以降の瓦溜めにより削平を受けていたが、北側においては近世以前の良好な包含層及び遺構が確認できた。堆積状況は、盛土が0.5～0.7mで、その下が厚さ0.2mの茶褐色砂泥(遺物包含層)が認められた。次に茶灰色砂泥が厚さ0.2mほどみられる。これらの層は、室町から近世初頭と考えられる。次に黄灰色砂泥が厚さ0.15mほど認められこの層上面より切り込む土塚などの遺構を検出した。遺物は土師器、須恵器などの小片を含む、室町時代のものである。次に灰褐色砂泥が厚さ0.25～0.3mほど認められる。この層上面において小礫、土器片を含む土塚などの遺構が認められた。出土遺物は、土師皿が圧倒的である。なかには、瓦器碗、須恵器、山茶碗、白磁玉縁碗などが認められた。時期は平安時代後期と考えられる。次に厚さ約0.3mの青灰色砂泥が認められ、小礫、土器、炭を含む。この層は北東部だけで認められ、平安時代中期と考えられる。それ以下は黄灰色砂礫になる。

当該地は、寺町通の東側で、鴨川の氾濫により遺跡が破壊されていると考えられたが、この付近も良好な状態で遺跡が残存していることが判明した。このことは、鴨川の流路と遺跡の範囲を考える上で貴重な手がかりとなった。

(堀内明博)

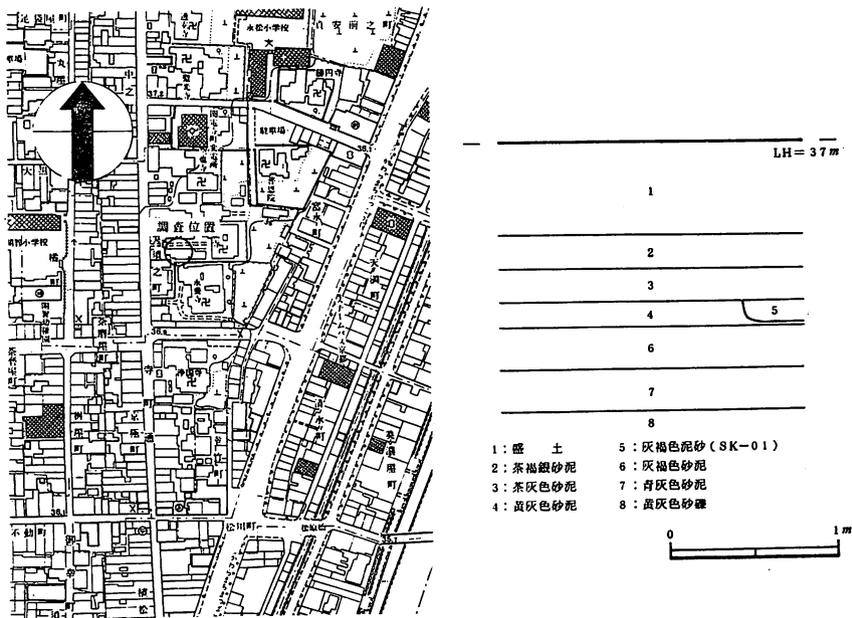


Fig. 24 調査位置・南壁断面図

左京五条四坊跡立会調査 (No.55)

下京区寺町通四条下ル貞安前之町586・587番地の(株)飛燕堂の店舗新築に伴う工事の立会調査を昭和54年5月2日に行った。建築面積は約137m²で、基礎部分を布掘りで1.5m程下げる工事である。当該地の堆積状況は、盛土が厚さ約0.7m、灰褐色炭混砂泥が0.15m、灰褐色砂泥混礫が約0.25m、暗灰褐色砂泥混礫が約0.25m、暗茶褐色砂泥混礫が約0.2m黄褐色礫と順次堆積している。このうち暗灰褐色砂泥混礫からは鎌倉から室町時代頃の土師皿の小片が出土しており、暗茶褐色砂泥混礫からは平安末～鎌倉時代の土師皿と白磁碗の小片が出土している。検出した遺構は暗灰褐色砂泥混礫を切り込んでいる鎌倉時代の土塚1のみで、これからは土師皿などが出土した。当該地は北・南西隅を除き、近世以降の攪乱を受けており、付近には平安時代から室町時代にかけて良好な遺物包含層、遺構等が拡がっていると考えられる。

(平方幸雄)

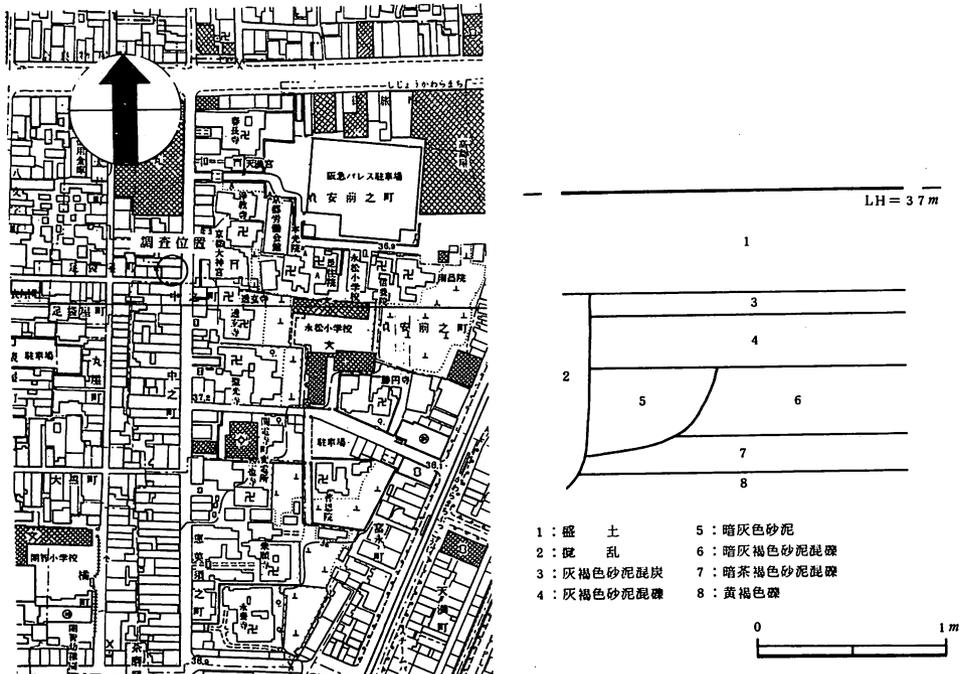


Fig 25 調査位置・北壁断面図

左京七条三坊跡立会調査 (No. 65)

下京区不明門通花屋町上ル仏具町154番地の1・2の長瀬次雄氏宅の改築工事に伴う立会調査を昭和54年5月9日に行った。建築面積は142.5m²で、1mの深さで基礎部分を溝掘りする工事である。当該地の盛土は約0.6mでその下層が厚さ約0.7mの近世層で黒灰色砂泥、その下層が淡黄灰色砂泥である。検出した遺構は淡黄灰色砂泥を切り込む室町時代の土塼2基である。土塼の性格としては、土塼の埋土中に多量の炭化物が混入しており、土塼墓と考えられる。なお、これらの土塼は対象地の南西隅付近で基礎より深い位置で確認したが、その他の地点は検出遺構面まで掘り下げないという確約を取り付け、G. L. -1mまで埋め戻し立会調査を終了した。烏丸線の発掘調査ではこの付近に中世の土塼墓群を検出しており、当該地で検出した土塼はこれら一連の墓域の中に位置するものと考えられ、今後付近の工事に際しては立会調査以上の措置が望まれる。(図版四)

(平方幸雄)

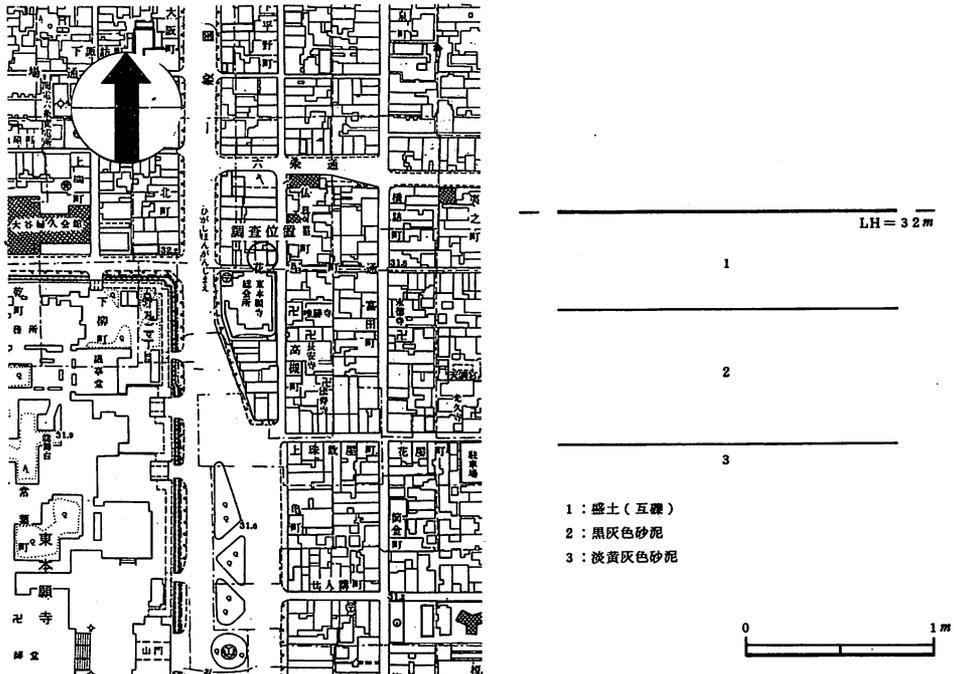


Fig 26 調査位置・北壁断面図

左京七条三坊跡立会調査 (№ 301)

下京区新町通花屋町上ル良町863番地の白木孝氏宅新築工事に伴う立会調査を昭和54年9月20日に行った。建築面積は約243m²で、基礎部分だけを掘削する坪掘り工法で、掘削深さは地表下1.2mである。調査区の北側及び西側は近世以降の攪乱が著しく、観察は不可能であったが、南側及び東側は遺跡の残存状況は良好であった。堆積状況は盛土が地表下0.6mで、その下は暗褐色泥砂、室町時代の遺物包含層で厚さ約0.25mである。その下は灰緑色泥土の遺物包含層で厚さ約0.25mが認められた。その上面から切り込む土坑を数箇所検出した。土坑は径1m以上、深さ0.4mで、土師器、青磁、白磁四耳壺、須恵器鉢とともに人骨、鉄釘、雲母、炭などが出土したことより土坑墓と考えられる。時期は鎌倉時代と考えられる。この下は淡緑灰色砂礫となる。検出した遺構は溝状遺構、土坑である。時期は平安時代中期から後期と考えられる。

今回の調査により確実に平安時代から室町時代の包含層及び遺構を確認したことは、平安京左京南部の歴史の変遷を考える上で重要な資料となるとともに、今後この付近は立会調査以上の調査が望まれる。

(堀内明博)

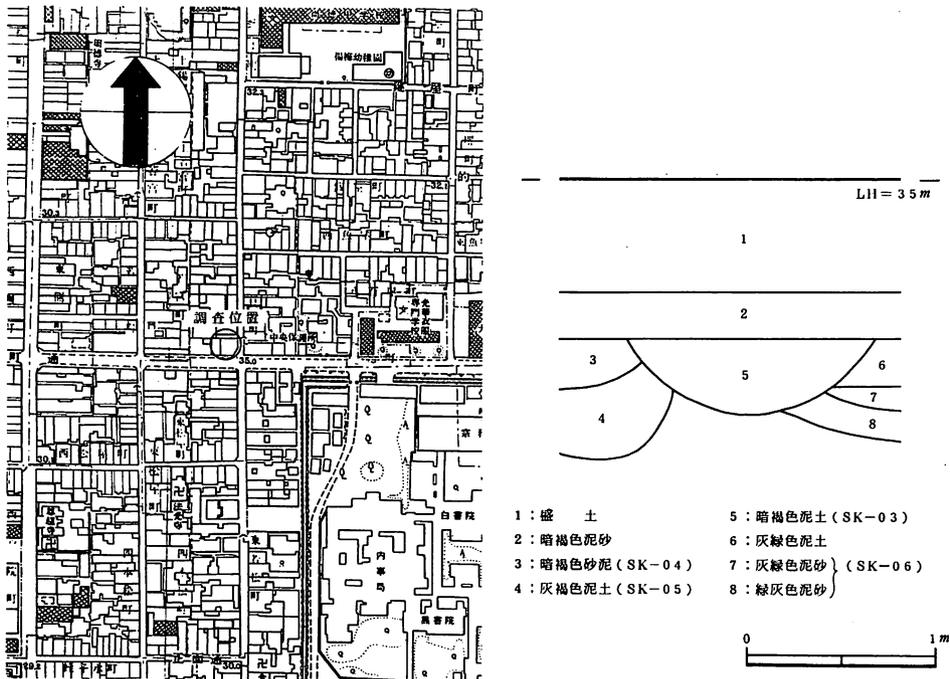


Fig 27 調査位置・南壁断面図

左京七条四坊跡立会調査 (№284)

下京区間之町通下珠数屋町上ル榎木町308番地の下京社会保険事務所庁舎新築工事に伴う立会い調査を昭和54年9月12日に行った。当該地における建築面積は約640㎡で、重機により地表下1.7m掘削を行った。既存建物の基礎によりほとんど破壊されており一部分のみ包含層及び遺構を確認したにとどまった。当該地の盛土は約60cmで、その下が厚さ0.25mの灰褐色泥砂・遺物包含層である。次は暗灰色泥砂が厚さ0.1mほど認められ、その下は灰色砂礫及び砂となる。これらの砂及び砂礫の上面より切り込む落ち込み状遺構及び土塚が認められる。土塚は、一辺が1mほど、深さ0.3mで、土塚の埋土下層には円礫が多く認められ、出土遺物として人骨、土師器皿、須恵器、埋鉢、鉄釘、雲母(1cm前後)、焼土、炭等があり、土塚墓である可能性を有する。時期は鎌倉後半から室町時代と考えられる。

当該地において土塚墓と思われる遺構を確認できたことは、高速鉄道烏丸線内遺跡調査会が東本願寺前の調査で検出した中世墓地との関連においても、今後この周辺の調査を実施していく上で重要な資料が得られた。

(堀内明博)

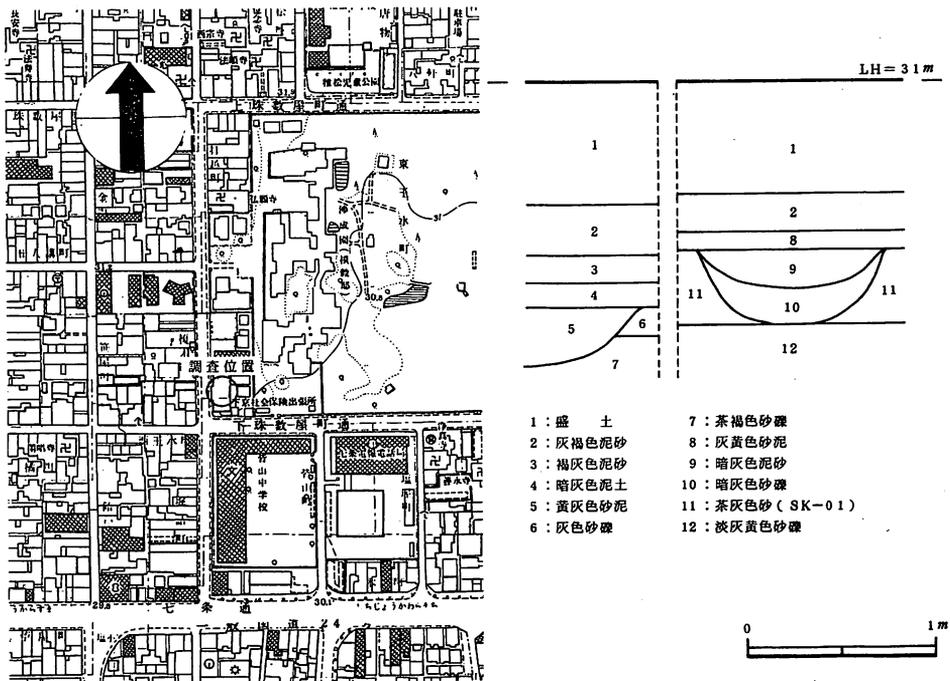


Fig 28 調査位置・西壁断面図

左京八条二坊跡立会調査 (No.282)

下京区油小路通塩小路下ル南不動町3番地の大道ビル新築工事に伴う立会調査を昭和54年9月10・11日に渡って行った。建築面積は約250m²で、重機により6.8mの深さまで全面掘削を行った。堆積状況は盛土が0.5～0.6mで、次に茶灰色砂泥の厚さ0.2mの遺物包含層が認められる。時期は近世以降である。次に灰褐色泥土が厚さ約0.25m程認められ、土師小片を含み室町時代から安土桃山時代にかけてのものと考えられる。次に暗灰色混礫泥土が厚さ約0.25mあり、この層上面より東西方向約4m、深さ0.3mの落ち込み状遺構を確認した、堆積土は上層に炭層が認められ、下層は暗灰色泥土となる。出土した遺物は、土師器が圧倒的多数を占めているが、瓦器、須恵器、滑石製石鍋等が少量みられ、その他に青磁蓮弁文椀・皿、口縁端部が口禿げになった白磁皿、褐釉四耳壺片もみられる。時期は鎌倉時代後半から室町時代にかけてと考えられる。次に淡黄灰色泥砂が約0.4m確認できその上面から切り込む土塚、柱跡などを検出した。平安時代後半と考えられる。次に灰色泥土が約0.1mあり、少量の土師器片の他に木製品を含み、これ以下は黄灰色砂礫となる。以上平安時代から室町時代にかけての良好な資料が得られたことは当該地周辺の発掘調査の成果とも合せ、周辺の歴史を解明する上で重要なものとなった。

(堀内明博)

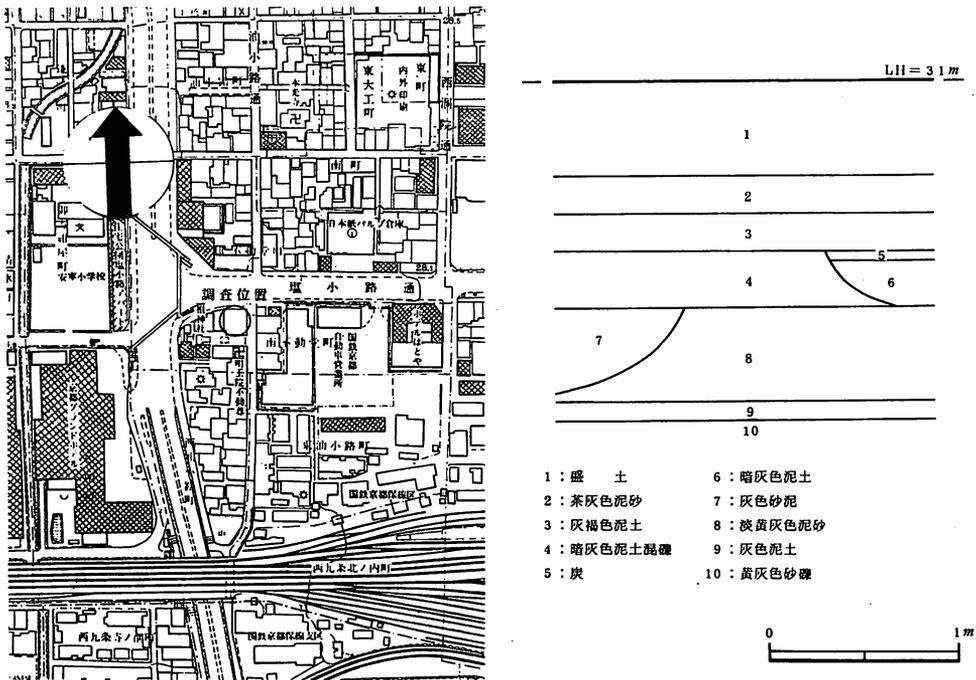


Fig 29 調査位置・南壁断面図

左京八条一坊跡立会調査 (No.258)

下京区和気町14番地の城南園七条店新築工事に伴い立会調査を昭和54年8月30日に実施した。建築面積は約55m²で地表下1.4mまで機械による掘削が行われた。堆積状況は地表下0.5mまでが盛土であり、以下0.4mの厚さで茶灰色泥砂、淡灰色泥砂が0.3m茶灰色細砂が0.1mで堆積し、ついで黄褐色砂礫となる。淡灰色泥砂、茶灰色泥砂が遺物包含層で鎌倉時代の須恵器、土師器、瓦、瓦器、三足付羽釜等が出土している。また黄褐色砂礫上面で落ち込み状の遺構が検出されたが、遺物が出土しないため時期は不明である。

掘削面積が狭小で断面による堆積状況の観察に終始したが、包含層、遺構面の残りは良好であった。

(木下保明)

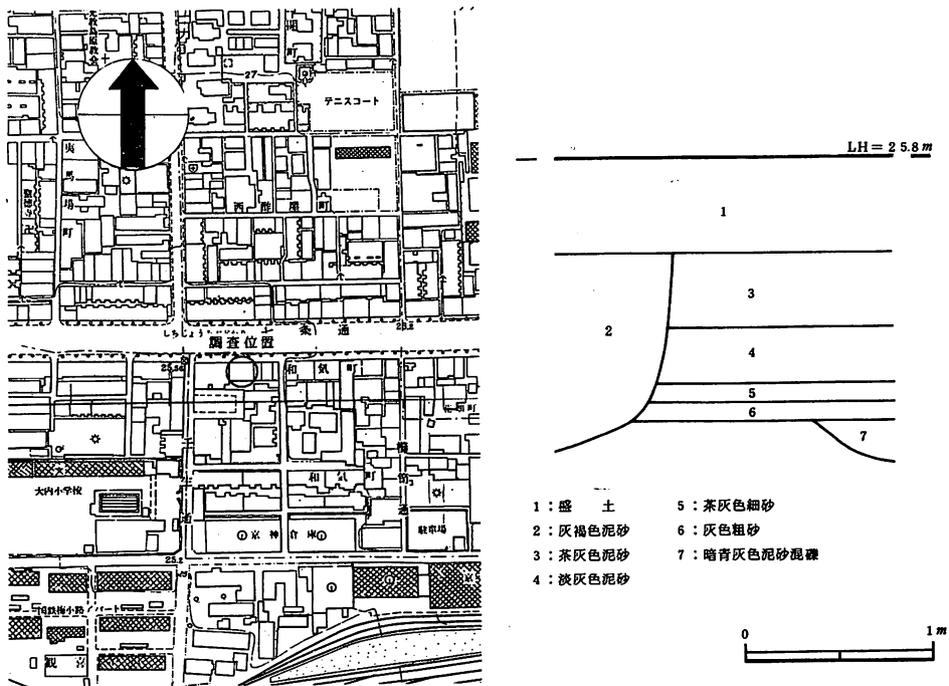


Fig 30 調査位置・西壁断面図

左京三条三坊跡試掘調査 (№ 89)

中京区三条通室町西入衣棚町55番地の千吉(株)所有地のビル新築工事に先立ち、昭和54年5月22日に建築面積1672.5 m²のうち約32 m²を対象に試掘調査を実施した。その結果、室町時代を中心とした遺物包含層、土塚等を多数検出した。遺構、遺物包含層ともに良好な残存状態を示しており、また当該地の東隅に沿って室町小路西側溝の検出が望めることもあり、試掘調査から発掘調査に切り換え、京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。

(平方 幸雄)

左京四条三坊跡試掘調査 (№ 225)

中京区蛸薬師通烏丸東入一蓮社町293番地のロイヤルオーク(株)所有地のビル新築工事に先立ち、昭和54年8月8日に建築予定地(面積825.35 m²)の西南隅付近に2×3 mの南北トレンチを設定して試掘調査を実施した。その結果、鎌倉～室町時代の遺物包含層、土塚2、ピット5を検出した。当該地の南隅付近に四条坊門小路の北側溝が推定されており、試掘調査の結果この北側溝の検出が望めることから、当該地は試掘調査から発掘調査に切り換え、京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。

(平方 幸雄)

左京五条跡試掘調査 (№151)

下京区仏光寺通室町上ル白楽天町156番地、山杉久保村株式会社店舗拡張に先立ち、昭和54年6月26日に試掘調査を実施した。当地は、調査対象面積は480㎡であったが、トレンチは、対象地のほぼ中央に設定した。

掘削は、重機を用いて行った。盛土は、深さ1m前後まで及び、その下に茶褐色泥砂層が検出され、この段階で中世の建物跡がまず検出された。調査地東側では、池もしくは溝状の落ち込みが検出され、その肩には拳大の礫が点存している事が確認された。この落ち込み内からは、平安時代から鎌倉時代にかけての土師器、陶器の完形品が出土した。

以上の点から、調査地を西へ拡張して遺構の性格、時期をあきらかにするよう努めた。その結果、鎌倉時代から室町時代の貴重な遺構が、重複して発見されたため、試掘を一時中止し、今後の調査方法を検討し、また、土地所有者である久保村友一氏に現状報告した。その後、京都市文化観光局文化財保護課と久保村氏との話し合いがもたれた。その結果、試掘調査から発掘調査へと変更になった。しかしながら建築工事の日程変更問題や調査費用等の諸問題から、調査日数、面積等かなり限られたものとなった。(図版五)

(鈴木久男)

左京七条三坊跡試掘調査 (№408)

下京区不明門通正面上ル亀町9番地の(株)柴田法衣店新築工事に先だち昭和55年11月15・16日の2日間、建築面積約229㎡のうち約35㎡を対象に試掘調査を実施した。当該地西の烏丸通りでは、京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会の東本願寺前の発掘調査において七条大路北側側溝及び路面が検出されており、その東にあたる当該地においても七条通り北側溝か路面が検出される可能性があった。(図版六)

調査の結果、七条大路北側側溝と考えられる東西溝がトレンチ内に検出され、また道路面と思われる硬い面が溝の南側から検出された。近世瓦溜め完掘後の溝と路面の断面観察では溝、路面ともに数時期に及ぶ堆積が認められる。時期は出土遺物より室町時代から平安時代後期に及ぶものと思われた。これらのことから、施主、施工者と協議を行い、その結果、発掘調査に移行し、京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。

(菅田 薫)

右京北辺三坊跡試掘調査 (№403)

北区大將軍坂田町8番地の1日本住宅公団花園鷹司団地において、鷹司保育園建築工事が行われ昭和54年11月12・13日に試掘調査を実施した。日本住宅公団花園鷹司団地は昭和49年7月15日から50年5月15日にかけて鳥羽離宮跡調査研究所が発掘調査を行っている。しかし当該地は旧建物が未解体であったため調査が行われていなかったことから、急きよ試掘調査を行うことになった。この時点ではすでに工事は着行されており、断面による遺構確認と部分的にトレンチを設定するにとどまった。当該地は旧建物の基礎が地表下2mまで入っており、また一度整地して盛土を行っているため、試掘トレンチや基礎の断面によっても包含層等はまったく確認できなかった。(図版六)

検出した遺構は、溝5条ですべて南北溝であり、盛土直下の黄褐色泥砂上面で認められた。出土した遺物はすべて小片であり時期を決定しがたい。また今回の調査地点は恵止利小路と東西の通りである正親町小路との交点にも推定されたが、正親町小路を認めることはできなかった。

(菅田 薫)

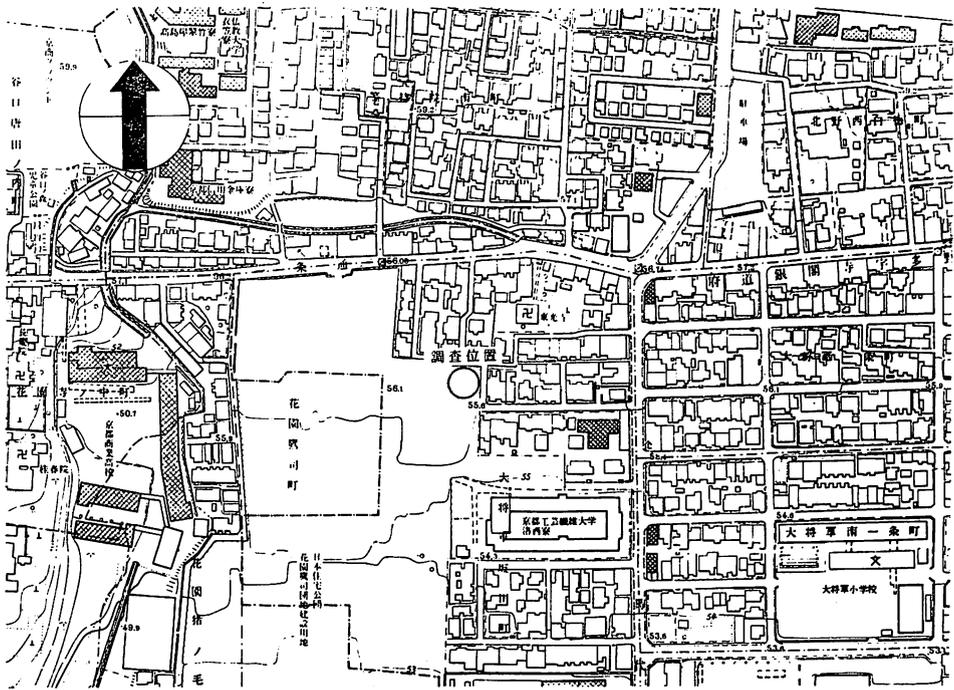


Fig 31 調査位置図

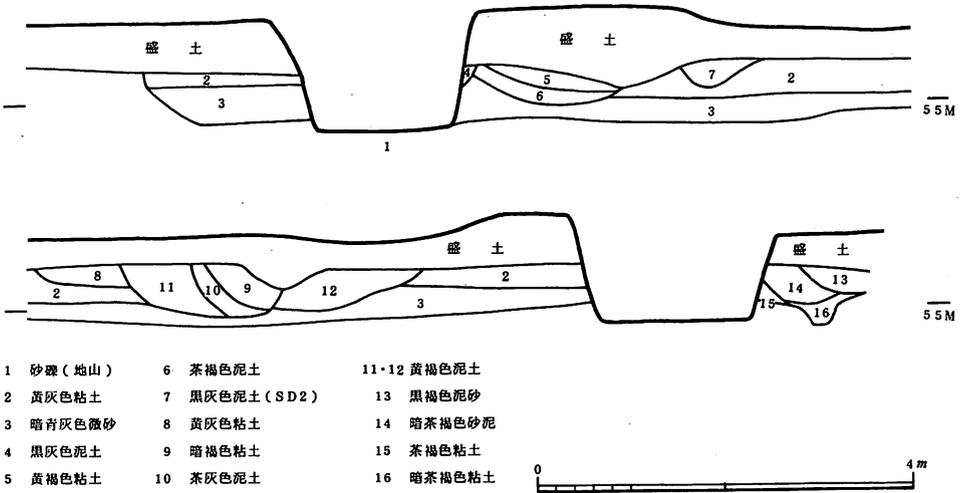


Fig 32 南壁断面図

右京一条二坊跡試掘調査 (No.559)

中京区西ノ京北円町2番地の6の田中俊成氏の医院ビル新築工事に先だち試掘調査を昭和55年3月5日より19日までの15日間実施した。敷地面積は約317m²で、そのうち96m²を調査の対象とした。重機により調査地の南寄りで東西に長さ10m、幅1.5mのトレンチを入れた。盛土を約0.5m掘削した時点で褐色泥砂の平安時代の遺物包含層を認めた。精査の結果、平安時代中期の遺物を含む溝、柱穴等を検出し、また褐色泥砂以下にも遺構が存在することが明らかになったため、即日、施工者と協議を行い、試掘調査の拡大という形で2週間の期間延長が決定した。翌日より重機により調査区の拡張を行い最終的に東西8m、南北12mのトレンチとなった。堆積状況は、盛土が約0.4m、その下が茶褐色砂泥が厚さ約0.1mあり、褐色泥砂が厚さ約0.3m、暗褐色泥砂が厚さ約0.2m、暗黄褐色泥砂が厚さ約0.1mあり、黄褐色泥砂となる。(図版七・八)

検出した遺構は褐色泥砂上面で北東から南西にわずかに蛇行し流れる幅約0.6～1m、深さ約0.35mの溝SD1の他に、土塚5、柱跡12がある。室町時代の土塚SK1、柱跡等と、平安時代中期の溝SD1・2、土塚SK2～5である。SD1からは多量の土器片の他に、長年大宝、承和昌宝、隆平永宝等の銭、石帯片2が出土している。暗褐色泥砂上面からは北東から南西に流れる溝SD3・4を検出した。両溝とも砂礫が堆積しており、出土した遺物は平安時代前期と考えられる。黄褐色泥砂上面から検出した遺構は溝SD5、幅0.9m、深さ0.6mで茶褐色砂礫の堆積がみられる。黄褐色泥砂は調査区の東部に北東から南西にかけて南側に幅広くあり、また西に向い急激に落ち込んで行き、そこに黒褐色泥砂が、確認できる限りでは3m以上の厚さで堆積している。黒褐色泥砂の上面で溝、SD6を検出した、幅1.3m、深さ0.8mで茶褐色砂礫が堆積している。SD5・6ともに古墳時代後期の遺物が出土している。また部分的に黒褐色泥砂を掘り下げて遺物の有無を調べたが、遺物は出土しなかった。

出土した遺物は、遺構には伴わないが弥生土器片もみられ、遺構に伴う遺物は古墳時代後期から室町時代まで、種類も多く、土器もいろいろな器形が認められた。また今回の調査では灰釉、緑釉の皿が数多く出土したことと、瓦の出土量が比較的少なかったことが留意点としてあげられよう。(図版二十)

右京の北半部は遺跡の残存状態が良いということが、近年の調査で明らかになりつつあり今回の調査でも、それを証明したといえる。このことより重点的に、この地区に調査のメスをあてて行く必要があると考える。

(鈴木広司)

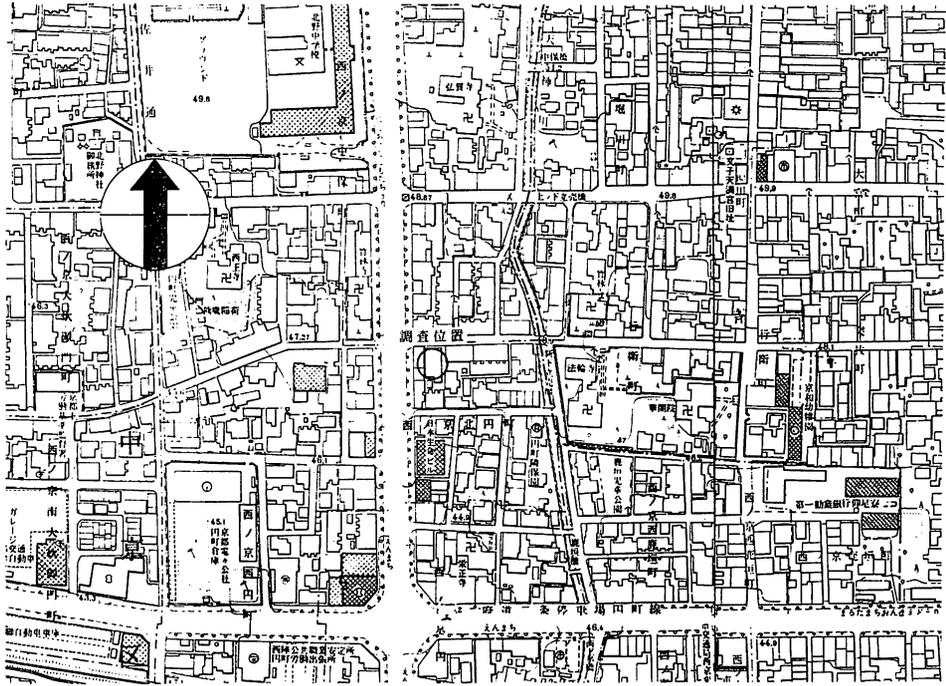
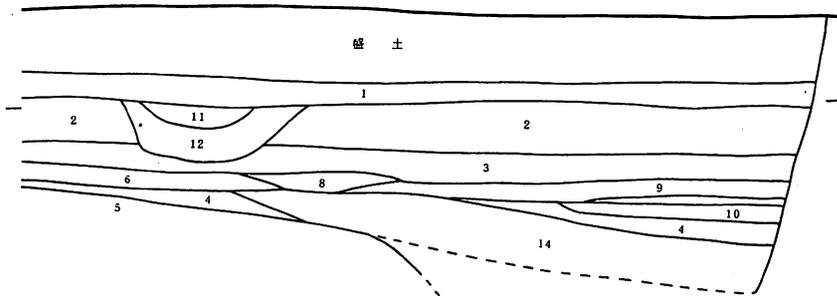
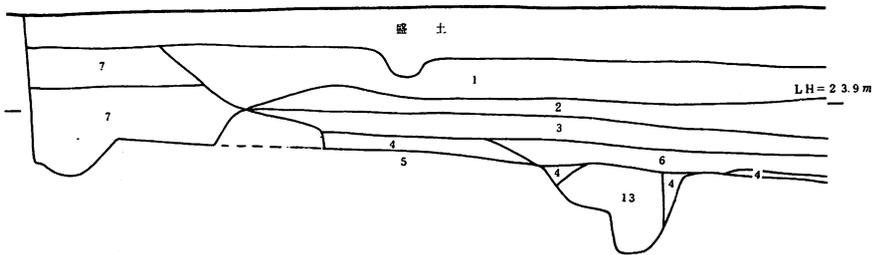


Fig 33 調査位置図



- 1 茶褐色砂泥
- 2 褐色泥砂
- 3 暗褐色泥砂
- 4 暗黄褐色泥砂
- 5 黄褐色泥砂
- 6 暗茶黄色泥砂
- 7 灰褐色泥砂
- 8 暗茶灰色粗砂
- 9 褐色砂礫
- 10 暗茶褐色泥土
- 11 暗灰色泥砂SD1
- 12 暗茶褐色砂礫SD1
- 13 茶褐色砂礫SD7
- 14 黑褐色泥土

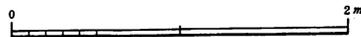


Fig 34 南壁断面図

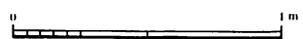
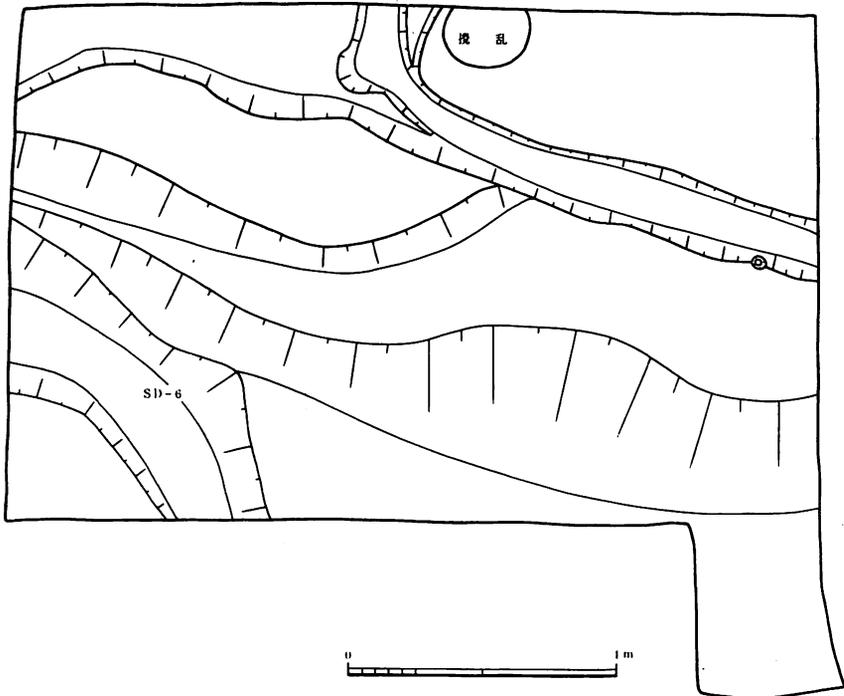
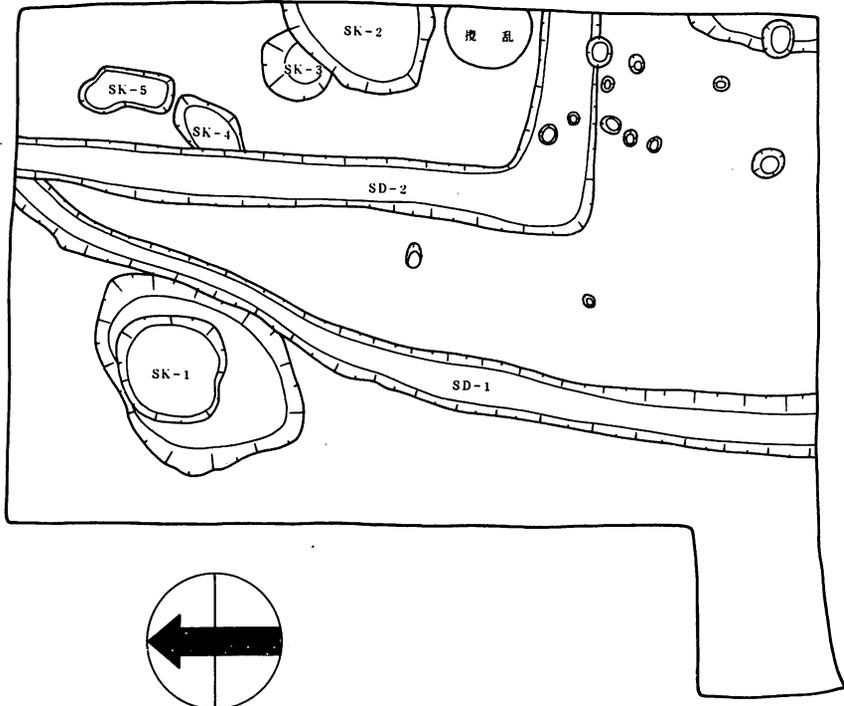


Fig 35 平面图

右京一条三坊跡試掘調査 (№ 524)

北区大將軍鷹司町23番地の5の(株)山城商事の鉄骨ビル新築に伴い昭和55年2月19日に立会調査を行った。敷地面積76m²のうち建築面積は約44m²である。掘削に立ち会った結果、当該地は遺物包含層、遺構面とも極めて良好な状態であり、しかも地表下0.3mで平安時代の遺構面・遺物包含層の褐色泥土がみられる。また建築物の基礎深が1.4mと深く、遺跡の全面破壊が予想されるため、工事を中止し施主、工事施工者と協議を行い試掘調査として2月27日より31日までの5日間調査を実施した。

当該地北半分の未掘削部に6×6mのグリッドを設け、立会調査の段階で確認した泥砂の上面で精査を行い、幅0.9m、深さ0.4mの南北溝SD1を検出した。出土した遺物は平安時代前期の土師器、須恵器、瓦などである。もう一本SD1を内包する形で大きな南北溝SD2が認められた。幅3m、深さ0.7mで溝内の堆積土は3層に分けられ第1層が暗茶褐色泥砂、第2層が黒褐色泥土、第3層が茶褐色砂泥である。出土した遺物は奈良時代から平安時代前期の須恵器、土師器、黒色土器、灰釉などである。第3層から溝の底面近くであるが弥生土器が数点出土した。褐色泥土は厚さ約0.4mでその下は厚さ0.2m黄褐色泥砂である。溝の調査の終了後この層まで掘り下げ遺構検出を行ったが、遺構の確認はできなかった。この下は茶褐色砂礫で、遺構は認められない。(図版九)

当該地付近は、山城高校々内で京都府教育委員会の発掘調査や、花園鷹司団地内では鳥羽離宮跡調査研究所の発掘調査が実施されており、平安時代の建物群、条坊関係遺構の他に古墳時代後期の住居跡等が検出される成果が上っている。今回の調査でも平安時代の溝が検出され、周囲の遺構の残存状況の良好さを再認識することになった。また当該地付近は古い木造家屋が密集しており今後の再開発により次々と破壊されていく恐れが多分にある、故に急速な遺跡保護、調査の対策が必要とされよう。

(鈴木 広 司)

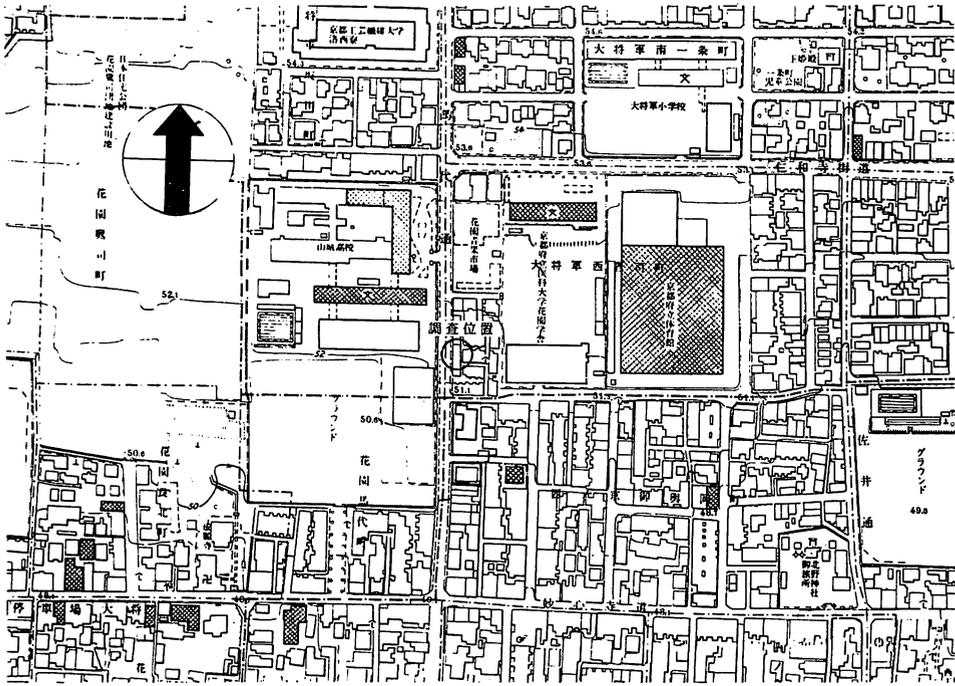


Fig 36 調査位置図

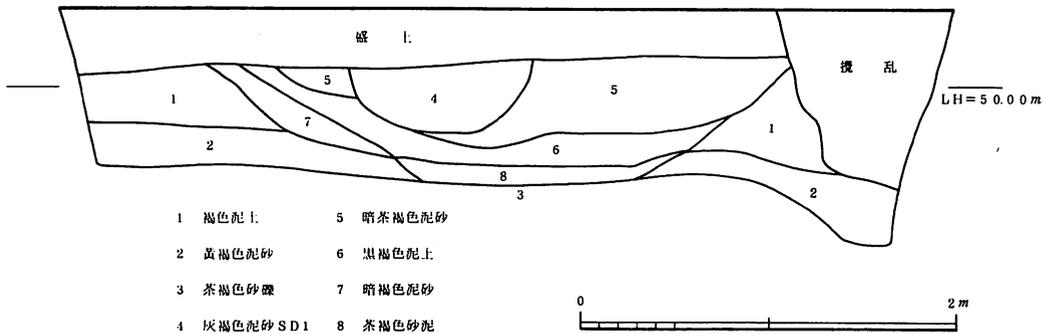


Fig 37 南壁断面図

右京五条二坊跡試掘調査 (№304)

中京区壬生仙念町10番地の大同建設所有地にて、昭和54年9月21日から23日まで建築面積338m²を対象に試掘調査を実施した。当該地は平安京右京五条二坊にあたり、トレンチを南北2ヶ所設定した。北側第1トレンチは、長さ6m、幅2mの南北方向の長方形で南側第2トレンチは南北4.5m、東西2.5m、幅2mのく字形のトレンチを設置した。調査トレンチの堆積状況は、両トレンチともほぼ同様である。現地表下より0.8m盛土が確認できる。その下は耕土と考えられる暗灰色泥土が厚さ0.35m確認できる。その下は灰緑色泥砂(遺物包含層、室町時代)が厚さ0.15m認められ、この上面にて東西及び南北方向の幅0.1~0.4m、深さ0.1mの暗渠の溝が認められた。この下は褐灰色泥土層(炭及び土器を含む遺物包含層、平安後期から鎌倉時代)で厚さ0.1mほど認められた。この層の上面においても東西及び南北方向の幅0.3~0.5m、深さ0.1m前後の溝を検出した。この溝も暗渠と考えられる。この層以下は黄灰色シルトであり、上面より東西方向の溝及び溝状遺構を南側第2トレンチで確認し、北側第1トレンチは遺構は全く確認されなかった。ここでは南側第2トレンチで黄灰色シルトにて確認した東西溝SD1を東西方向の溝状遺構SX2を取り上げる。SD1は東西方向で1mほど確認したにすぎないが幅0.3m、深さ0.15mのU字形を呈する浅い溝である。埋土は灰色泥土の一層しか認められず、土師器小片を含むSX2は東西方向に3.4mほど確認したものである。幅は約2.8mで、深さ0.5mの凹レンズ状を呈する。埋土は、ほぼ4層に分層でき、第1層は厚さ0.1mの褐灰色泥砂で、炭・土師器を少量含む。第2層は厚さ0.1mほどの褐灰色砂泥で土師器小片を少量含む。その下は暗灰色泥土で厚さ0.15mで、炭・土師器小片を少量含む。その下が厚さ0.15mほどの灰色泥土が凹レンズ状に認められる。この層上面の特に南半分において、自然遺物(木片、葉、枝)とその上面に炭が分布していた。また、今までの3層にはごく少量の遺物しか認められなかったが、灰色泥土により多量の土器が出土した。このような土層の有り方及び形状により溝状遺構としたが、その性格は不明である。主な出土遺物として、SX2の第4層灰色泥土出土の遺物があげられる。出土遺物中、土師器が半数以上を占めるが、灰釉陶器、緑釉陶器がこれに次ぐ。土師器は、杯・皿・高杯1・甕・鍋片が出土する。杯は口径15.8~15.2cm、高さ2.5cm前後で器壁の薄いもので、皿も口径15.8~11.6cm、高さ1.8~1.2cmの器壁が極端に薄く淡灰褐色を呈し、密な胎土のものである。須恵器は、杯片及び鉢片の他に口径18.8cmで外面格子叩きのある甕が出土するのみである。灰釉陶器では碗、皿、瓶底部片及び壺がある。碗においては、内外面淡緑色の釉がかけられたもので、高台では外方に開くものと台形を呈するものがある。

台形を呈するものの底部内面に重ね焼きの痕跡が認められる。皿には、完形に近いものが1点あり、口径14.9cm、高さ3.1cm、底径7.2cmをはかる。口縁部は底部から緩やかに外向し、口縁端は外反する。高台はやや高い台形を呈し、やや外側に開く。内外面とも淡緑色の釉が施され、底部内面には重ね焼きの痕跡をとどめる。胎土は淡灰色を呈しやや粗である。底部外面に墨書が認められるものがあるが小片のため解読不能である。緑釉陶器として碗、小碗がある。碗は内外面とも密なヘラミガキを行い、濃緑色の施釉が認められるものと、ヘラミガキを施されずロクロナデを行い、濃緑色或いは茶緑色を呈するものがある。高台はケズリだしの輪高台のものがほとんどである。底部だけの破片であるが底部内面に印刻花文のあるものが1点ある。小碗は口径9.4cm、高さ2.6cm、底径4.6cmを計る。口縁部はやや外側に開き、口縁端部はやや外反する。底部内面及び口縁部内外面はヘラミガキを行う。底部外面は糸切り痕をとどめ、張り付け輪高台である。全面濃緑色の施釉が認められ、胎土は青灰色を呈する硬質である。調査区南側トレンチにおいて10世紀中頃と考えられる遺構SD1及びS×2及び包含層が良好な状態で認められたことは、周辺の工事に際して十分な調査が必要なが再確認されたことと考えられる。また周辺の調査成果及び今試掘調査の得られた成果は今後平安京右京の歴史の変遷を考察する上で一つの問題を提起したことと考えられる。(図版十)

(堀内明博)

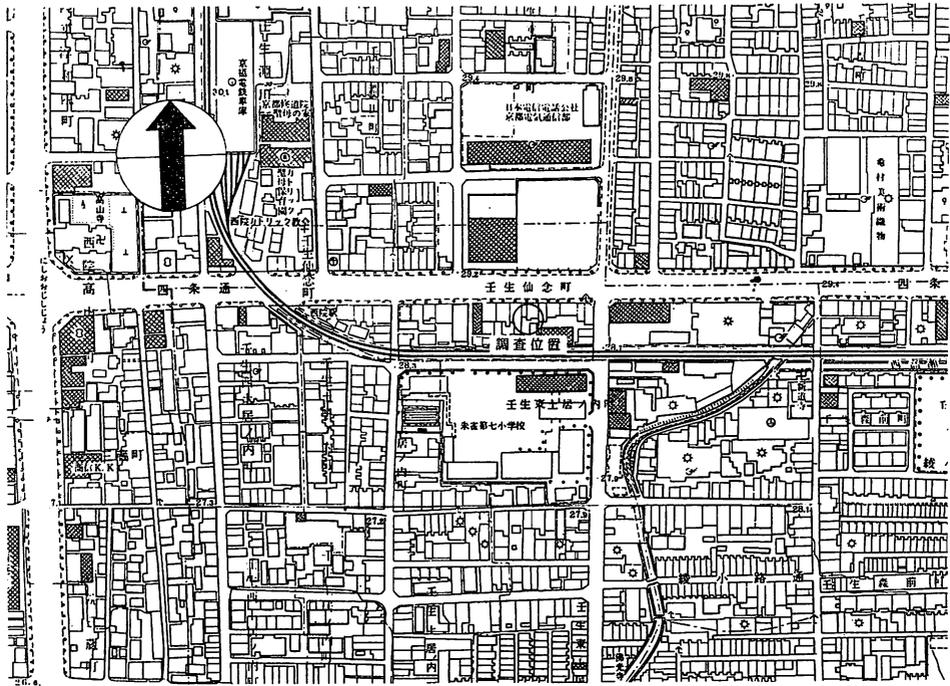


Fig 38 調査位置図

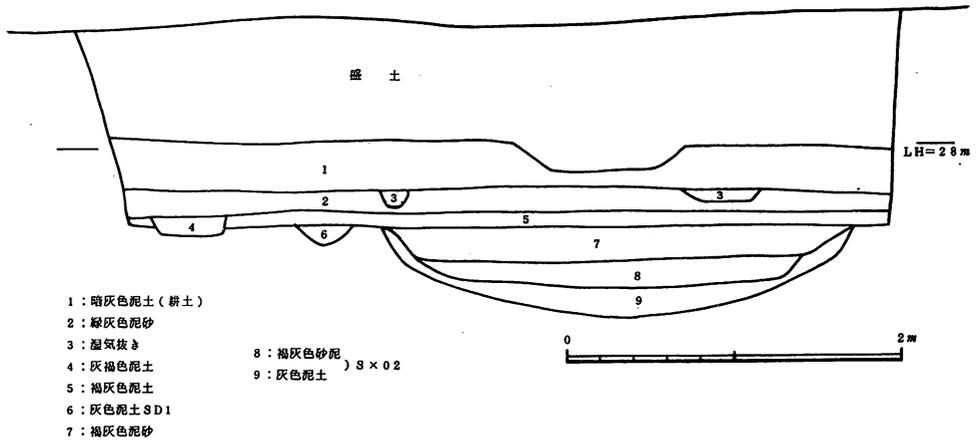


Fig 39 東壁断面図

右京三条二坊跡立会調査 (№ 384)

中京区西ノ京樋ノ口町122番地, ユタニ家具センター増設工事に伴う立会調査を昭和54年12月5日, 6日に行った。建築面積は約239m²である。堆積状況は, 盛土が約0.35mみられ, 耕土, 床土が0.25m程堆積し, 床土下は黄褐色砂礫になる。検出された遺構は, この砂礫層土面より切り込む, 溝状遺構, 柱穴列である。

柱穴列-1, 調査区北壁断面より検出された。埋土は褐色泥層で遺物はほとんど含まない。西端の柱穴より柱根と思われる木片を採集した。1間2.7mで2間分が検出された。

柱穴列-2, 調査区南壁断面より検出された。埋土には, 柱穴列-1と同様褐色砂泥層で, ほとんど遺物は含まない。1間2.3mで2間分が検出された。溝は, 調査区中央より若干南寄りと東西に走るもので, 調査区内で幅2.2m, 肩口よりの深さ0.3mを測る。(図版九)

検出した遺構には, ほとんど遺物は含まれず, 黄褐色砂礫層の上面には, 包含層もみられないところから, 時期決定は, 非常に困難である。 (辻 裕司)

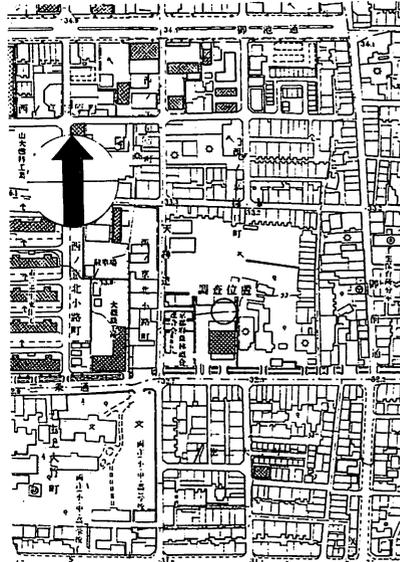


Fig 40 調査位置図

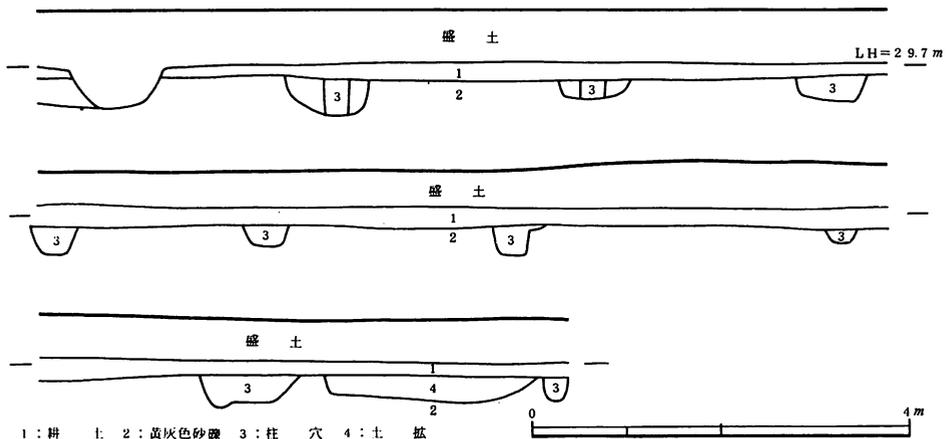


Fig 41 北壁断面図

右京二条二坊跡立会調査 (No.440)

中京区西ノ京南両町22番地の月かげ保育園造築に伴い立会調査を、昭和54年12月7日、8日の2日間にわたって実施した。建築面積は85.3 m²であり、基礎部分を布掘りする工法がとられた。当該地西に面する道路は昭和49年に下水道埋設工事が行われ、その折に立会調査を実施したが、当該地に隣接する地点より9世紀に比定される井戸2基が検出されている。下水道工事立会調査の成果から西ノ京地区は埋蔵状況がかなり良好と考えられていた。堆積状況は、盛土が厚さ0.3 m、黒灰色泥砂・厚さ0.2 m (φ 1~2cmの小礫を含む)、黒色砂泥・厚さ0.3 mとなっている。最終調査面は、南側で暗灰褐色を呈する粗砂層、北西部はいわゆる聚楽土と呼ばれる土に近い淡黄灰色粘土である。黒灰色泥砂、黒色砂泥ともに遺物包含層と考えられ、工事施工箇所全面にわたって均一に堆積している。二層共に良好な状態で遺物を埋蔵しており、土師器杯、黒色土器碗、須恵器杯、灰釉陶器杯、皿、緑釉陶器などが出土しており、完形品もある。遺構は断面により柱穴状ピット、土壇などを確認したが、性格は不明である。それらの遺構は、黒灰色泥砂を切り込むもの、黒色砂泥を切り込むもの、淡黄灰色粘土から切り込むものと三面ある。(図版二十一)

今回の立会調査及び昭和49年度に行われた立会成果とあわせて、この西ノ京地区は、平安京のなかでも最も残存状況の良い地区といえる。また、現地表下0.3 mで遺物包含層となることから、今後より厳密に当該地区の開発を見守ってゆかねばならない。

(菅田 薫)

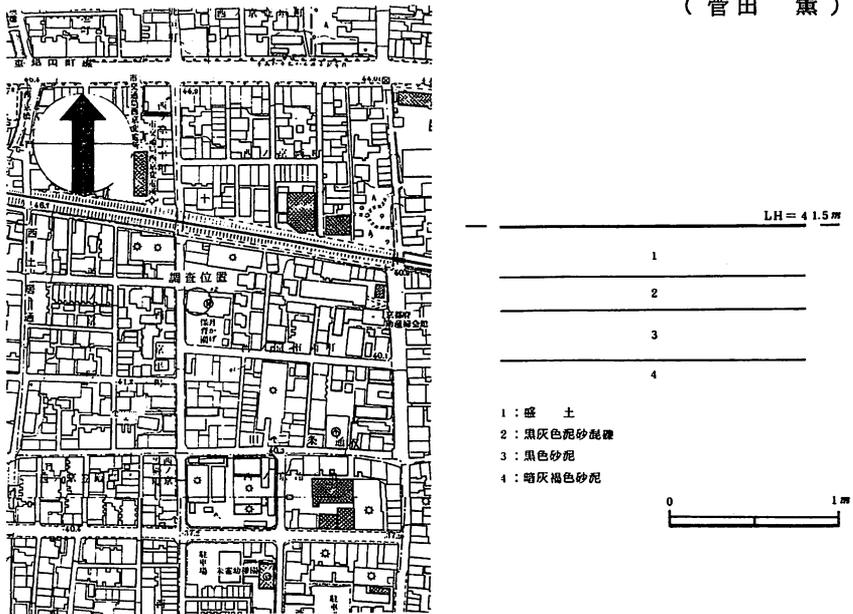


Fig 42 調査位置・南壁断面図

右京六条四坊跡立会調査 (№350)

右京区西院六反田町1番地の山本甚三氏のビル新築に伴い昭和54年10月12日から同55年1月29日にわたる間、工事の進行にあわせ断続的に立会調査を行った。建築面積は約557m²で掘削の深さは3mである。昭和54年10月12日に工事に先立ち当該地の中央部にトレンチを入れ断面観察を行った。その結果地表下約1.5m以下の層は弥生土器の包含層であることを確認した。昭和55年1月26日より本掘削の報があり立会調査を行い、調査地の北端から南へ広がる黄褐色泥砂の遺構面が地表下1.2mで認められ、幅1.5m、深さ0.8mの東西溝を検出した。溝内の堆積土は茶褐色泥砂であり、出土した遺物は畿内第Ⅱ・第Ⅲ様式の弥生式土器片である。なかにはほぼ完形品となる水差形土器や線刻画のある小形の甕片がみられる。また黄褐色泥砂は調査地北端から約9.5mの所で、ゆるやかに下り始め、黄灰色泥土・灰色泥土の沼地状の堆積土の肩部にあたるどころからほぼ完形品となるⅢ様式の壺が出土している。(図版十・十九)

当該地付近は、平安京関係の遺跡だけでなく、京都市埋蔵文化財研究所の行っている京都市上下水道局西部幹線工事に伴う発掘及び立会調査において弥生時代の遺跡であることが確認されており、当該地もその推定遺跡範囲の内であり、立会調査で終了することとなったのは悔まれるところである。

(鈴木広司)

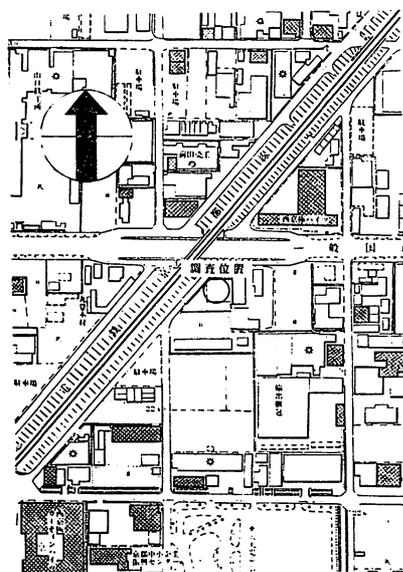


Fig 43 調査位置図

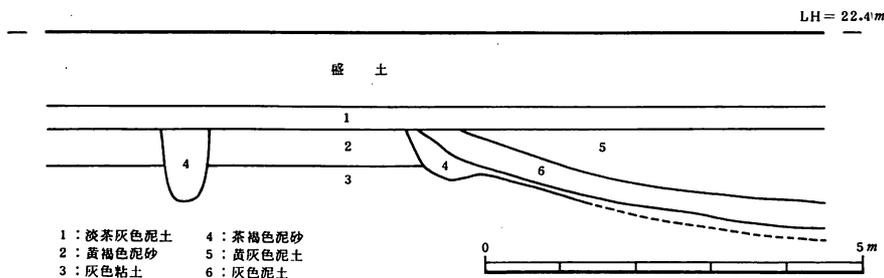
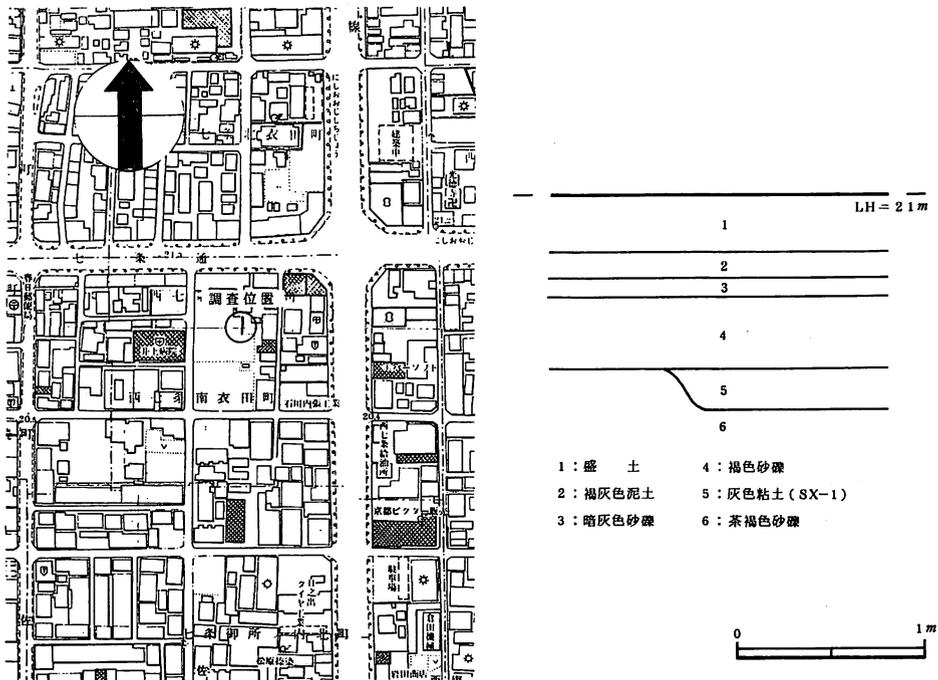


Fig 44 東壁断面図

右京八条二坊跡立会調査 (№164)

下京区西七条南衣田町42番地の3の萩野忠夫氏宅の新築工事に伴い、昭和54年7月7日に立会調査を実施した。建築面積は約48m²で掘削は最深部で1.2mである。地表下0.45mで平安時代後期の遺物包含層褐色灰色泥土になる。この下が茶褐色砂礫で、この層上面から遺構を検出した。まず調査地の北端部で落ち込み状の遺構が認められた。堆積土は灰色粘土で、出土した遺物は9世紀代の土師器、須恵器、灰釉陶器、黒色土器、瓦等である。また南端には溝がみられる。堆積土は灰褐色泥土で10世紀代の遺物が出土した。他に調査地中央部付近で井戸2を検出した。これらの井戸はほぼ同時期と考えられ、11世紀代の土師器、須恵器等が出土している。その他に、遺構には伴わないが弥生土器が茶褐色砂礫層より出土している。(図版十)

(長宗繁一)



右京八条二坊跡立会調査 (No.472)

下京区七条御所ノ内北町42番地の横井稔治氏宅の改築に伴う工事の立会調査を、昭和55年1月12日に行った。建築面積は約78.5m²であるが基礎部分を坪掘りで1.2m程掘下げる工法がとられており、実際はその半分程が掘削面積と思われる。

当該地の盛土は約0.5mで、その下が約0.25mの厚さの灰褐色泥砂・遺物包含層で、この層から土師器の高台付きの杯が出土している。つぎが0.15～0.3mの厚さの黄褐色泥砂でしっかりした面である。この下に暗灰色粘土が0.2～0.3mの厚さで堆積しており、ついで黄褐色砂礫になる。今回の立会調査では明確な遺構は検出されなかったが、上記の杯が平安時代中期頃のものと考えられることから、黄褐色泥砂はそれ以前の遺構検出が望める面と推定できる。また、この面まで現地表面から0.6～0.7mと浅く、他の建築工事の際にも常に破壊の危機にさらされており、今後付近では立会調査以上の調査が望まれる。

(鈴木広司)

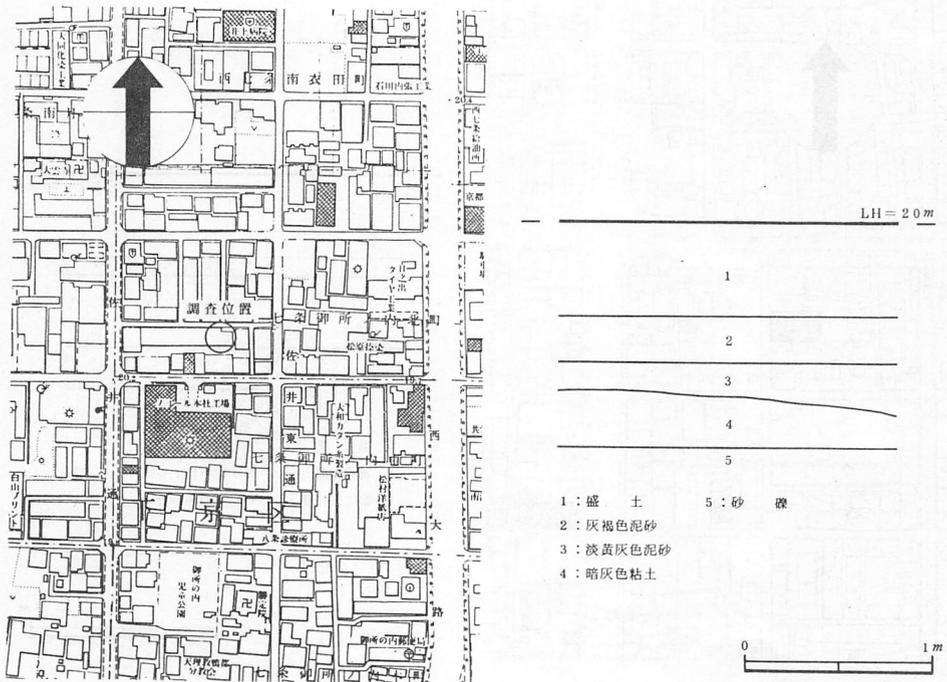


Fig 46 調査位置・南壁断面図

平安宮跡

平安宮内裏跡立会調査 (No. 31)

上京区出水通土屋町西入ル西神明町323番地で大八木衣子氏邸の新築工事に伴い立会調査を昭和54年4月17・18日に実施した。建築面積は約80m²で基礎部分を地表下1.5mまで掘り下げた。堆積状況は約0.75mまでが盛土で以下、暗褐色泥砂、灰褐色砂泥、茶褐色砂泥が堆積し黄褐色泥土となる。(図版五)

検出された遺構は土垣1、柱跡4であり、いずれも黄褐色泥土面から成立している。土垣は工事区のはほぼ中央で検出し南北幅1.3m、深さ0.3mを測る。土垣内の堆積土は暗褐色泥砂である。緑釉、土師器皿、須恵器、黒色土器、瓦など平安時代の遺物が出土した。また長さ0.35m、幅0.25m、厚さ0.2mの直方体に加工された凝灰岩が出土したが原位置を失って二次堆積したものであると思われる。柱跡は円形で径0.4mと0.3mのものがある。

(木下保明)

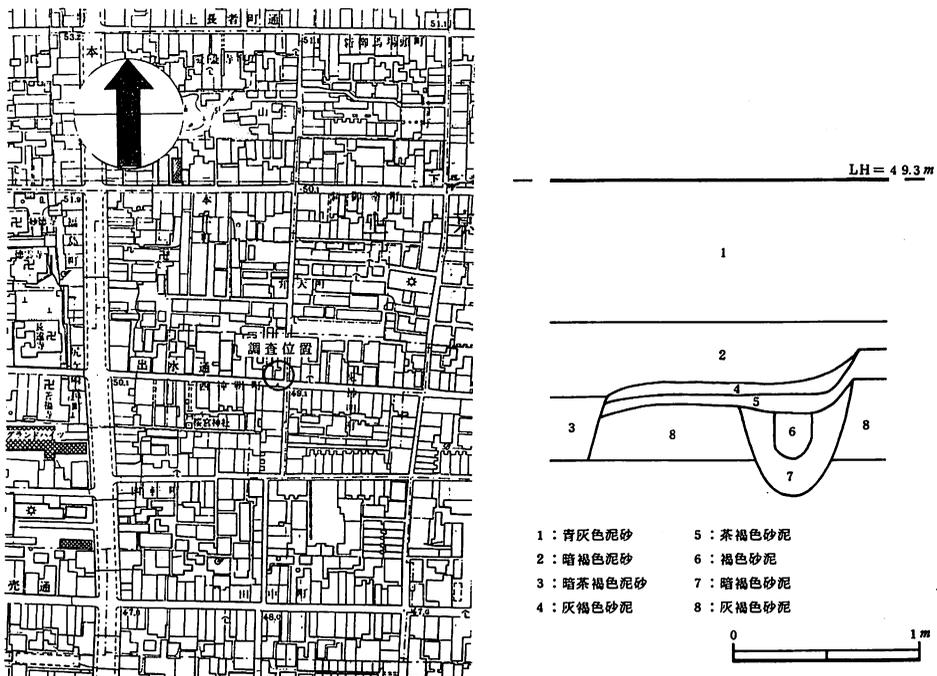


Fig 47 調査位置・北壁断面図

平安宮右馬寮跡立会調査 (№107)

中京区西ノ京馬寮町16番地の1, 山中喜代晴氏宅の作業場改築に伴い昭和54年6月1日に立会調査を実施した。大型重機により地表下約1.2 mまで掘削した。調査の結果, 平安時代前半から中世にかけての遺物包含層を検出した。堆積状況は盛土が0.65 m, 淡黒灰色泥土が厚さ0.25 m, 暗灰色砂礫の遺物包含層が厚さ0.05~0.3 m, 淡青灰色粘質土・茶灰色砂泥が約0.3 m, 黄灰色砂泥が約0.6 m堆積し黄灰色砂礫になる。暗灰色砂礫の遺物包含層は, 調査地の東側に行くに従って厚く堆積しており, 土質, 層位関係から流れ堆積によって形成されたものと考えられる。出土した遺物は平安時代前半の土師器, 須恵器, 瓦などがある。遺物は, ほとんど摩滅していない。

当調査地で認められた遺物包含層は, 流れ堆積により形成されたと考えられる。この包含層以外には, 遺構等は検出できなかったが平安宮造営時の地形状況を知る手掛りを得た。

(鈴木久男)

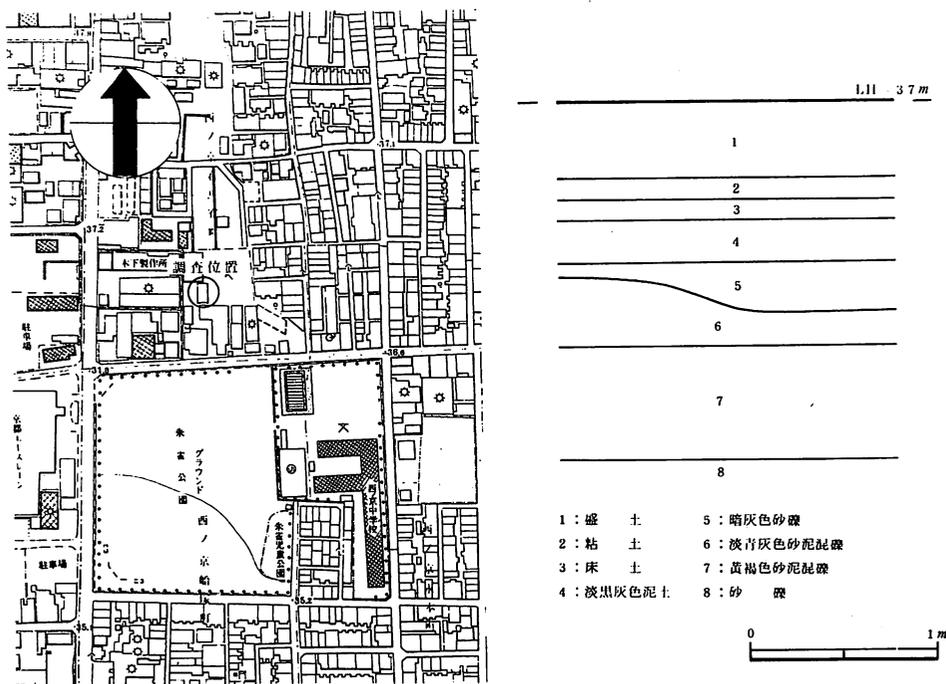


Fig 48 調査位置・東壁断面図

平安宮兵部省跡立会調査 (No. 149)

中京区西ノ京屋池町8番地の日比野真爾氏宅の新築工事に伴に昭和54年6月25日に立会調査を実施した。掘削は重機により地表下約1 mまで行われた。調査の結果、平安時代の遺物包含層が認められた。堆積状況は盛土が約0.7 mあり、その下が茶褐色泥砂の遺物包含層になり、ついで黄褐色砂礫混粘土になる。しかし調査地の大半は大きな攪乱により破壊されているため、遺物包含層は北側2 mの部分でのみ確認されただけであるが、その残存状態は良好で厚さ0.3 mを測る。

当該地は、水田を埋立て宅地としたものである。包含層は残存状態も良好であり、今回の調査では遺構は検出されなかったのではあるが、周辺地では遺構の検出される可能性は充分あると考えられる。

(鈴木久男)

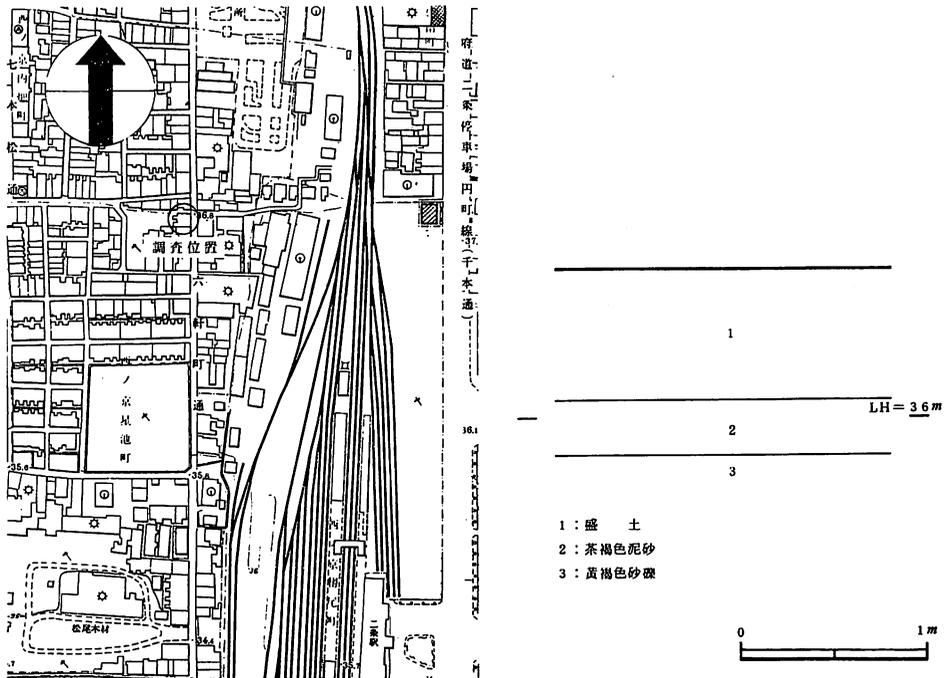


Fig. 49 調査位置・北壁断面図

鳥羽離宮跡

鳥羽離宮跡試掘調査 (№133)

伏見区中島堀端町27番地の1・34，中通町14の仲野隆次氏の倉庫建築に先立ち昭和54年6月14日に試掘調査を実施した。建築面積は約344m²あり，当初は2カ所のトレンチを予定したのであるが，当該地が水田で地盤が軟弱なため重機が移動できず，やむなく1箇所のトレンチで調査を行った。堆積状況は耕土・床土が約0.4mあり，その下が約0.1mの厚さの茶褐色粘質土，約0.7mの厚さの青灰色粘質土，約0.4mの厚さの黄灰色粘質土，約0.6mの厚さの淡青灰色粘土，青灰色微砂となる。青灰色粘質土は鳥羽離宮跡の一連の調査で認められている同時期の堆積土と考えられ，黄灰色粘質土は鳥羽離宮跡第39次調査における古墳時代の遺構が検出された層と同一と考えられる。また青灰色粘質土層より平安時代後期の遺物に混って弥生土器片が数点出土した。(図版十一)

当該地は，城南宮の南，中島の西側に位置しており，鳥羽離宮跡関係の遺構や，最近明らかにされつつある古墳時代の遺構が検出される可能性は充分考えられる。今回の調査は遺物包含層のみで明らかな遺構は認められず，しかも工事は，耕土上に1m近い盛土がされたのち行われるため，耕土下の層はすべて残ることがわかった。ゆえに部分的な試掘調査の段階で終了することになった。しかし近年，付近の開発は想像以上である。このため開発の多少にかかわらず一步一步調査を進めることが必要であると考え。

(鈴木久男)

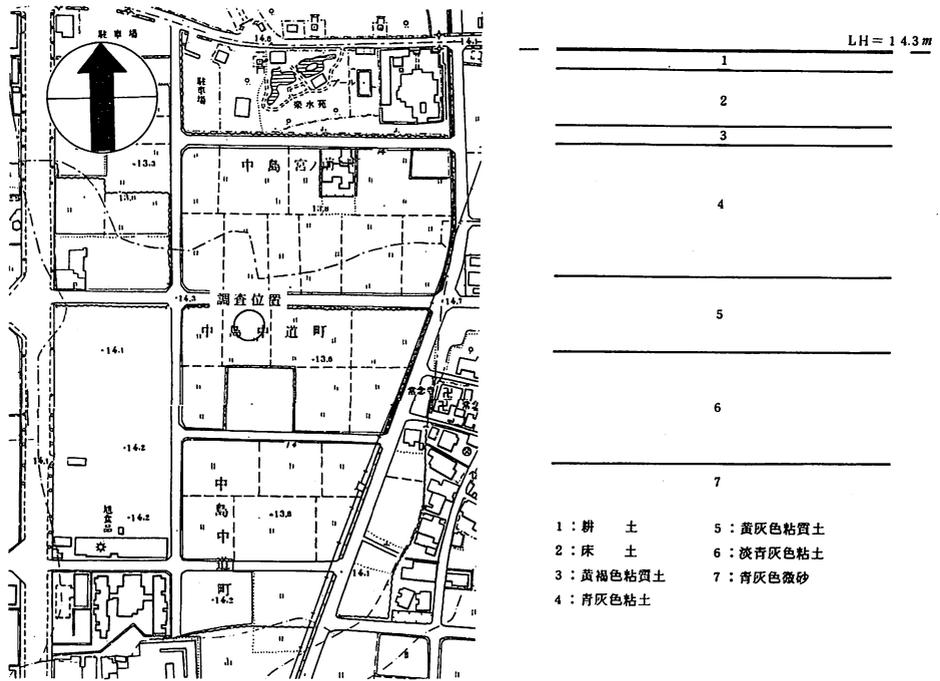


Fig 50 調査位置・南壁断面図

上鳥羽遺跡試掘調査 (No. 121)

京都市南区上鳥羽南花名町7番地，株式会社勝藤屋今井方の倉庫建築工事に先立って昭和54年6月8日に試掘調査を実施した。調査地は，現在まで水田として利用されており，盛土等は一切行われていなかった。調査対象面積は1000m²と広範囲であったため，試掘穴を南北に3ヶ所設置し調査を開始した。北側より第1グリッド・第2グリッド・第3グリッドと呼ぶことにした。堆積状況は，耕土・床土下に茶褐色もしくは黒灰色泥砂が認められた。更にその下層は，茶灰色砂，茶褐色砂礫となる。遺物包含層は，茶褐色もしくは黒灰色泥砂層で，包含層は，基本的には一層であるが，第2グリッドでは一部二層に分層できた。第1グリッドで認められた茶灰色砂は，南に行くに従って薄くなり，第3グリッドでは認められなくなる。(図版十一)

当調査地では，包含層が認められただけで，他に遺構などは検出されなかった。包含層からの出土遺物は少なく，その残存状況もあまり良好ではない。以上のことから，遺跡の中心地は，この周辺にあると考えられる。

(鈴木久男)

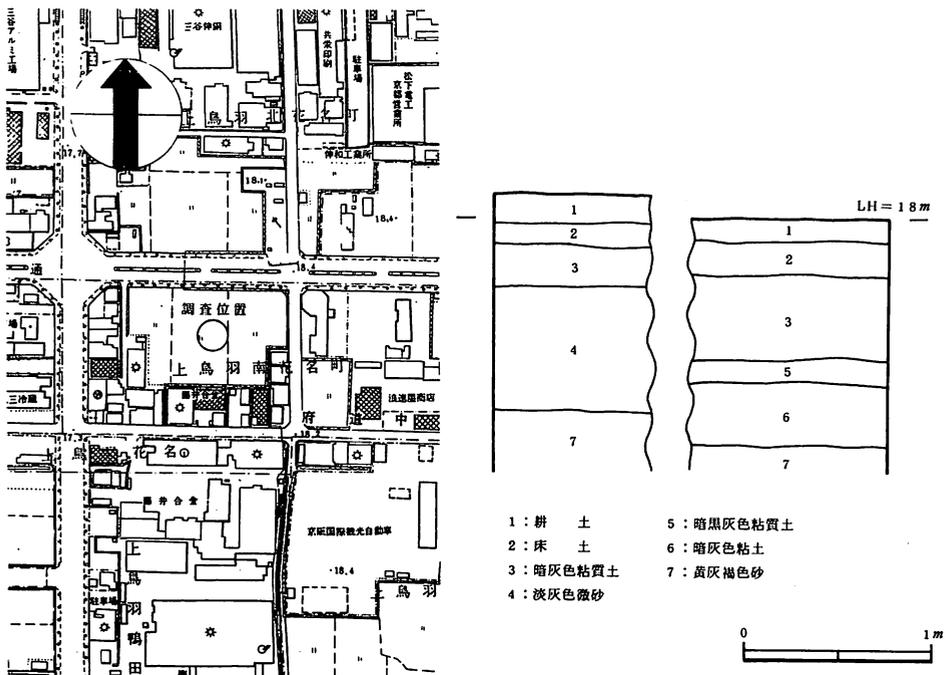


Fig 51 調査位置・東壁断面図

伏見城跡

伏見城跡試掘調査 (No. 154)

伏見桃山町和泉34番地の1・4の榎大建の社屋新築工事の事前に試掘調査を昭和54年7月2日に行った。敷地面積は957m²で南北に長く、そのほぼ中央に南北に一本、長さ約20m、幅1mのトレンチを設定し遺構の有無を調査した。地表下1mまでは盛土で、北から南へ徐々に盛られた痕跡が認められた。盛土の下は黄褐色混雑粘土の整地層で、この下に黒灰色粘土ブロックを含む灰色粘土が南下りの傾斜を持って、約50cmの厚さで認められた。この下に暗青灰色粘土が約1mで堆積しこの下面に黒灰色泥土が認められ、同層中より木片、木製品、古銭等桃山時代の遺物が出土している。この下は青灰色粘土が厚く堆積していることがわかった。またトレンチの南端で黒灰色泥土上面に石積遺構を検出している。当該地は、伏見城が築かれた時期には池か地であったと考えられる。(図版十一・十二) (長宗繁一)

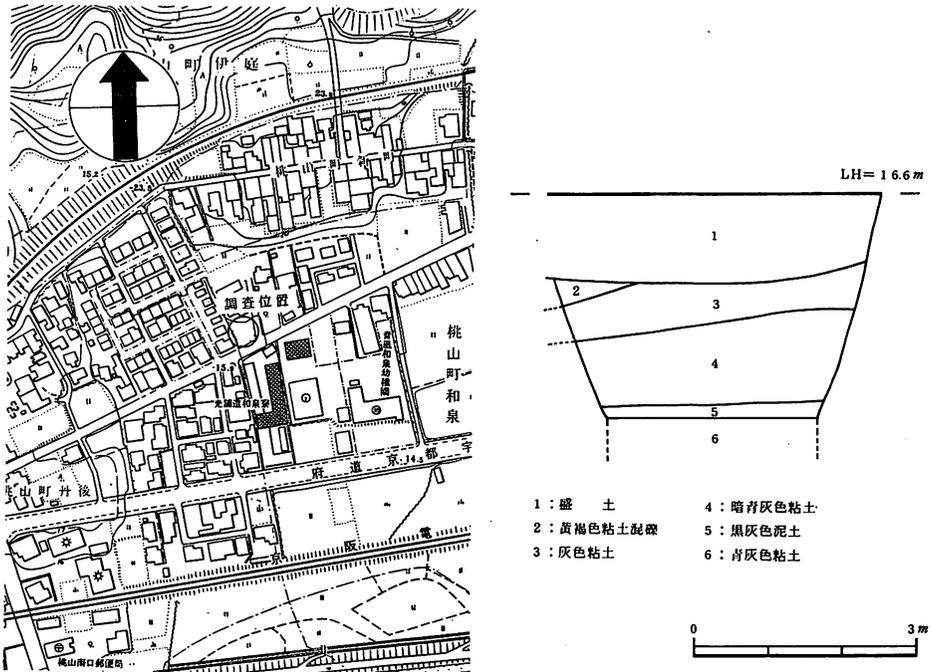


Fig 52 調査位置・西壁断面図

伏見城跡立会調査 (No. 134)

伏見区桃山毛利長門西町6番地の星野光宏氏宅の擁壁工事に併行して昭和54年6月23日に立会調査を実施した。重機により斜面を長さ20m、幅1mで掘削した。掘削直後に、伏見城関係の石垣が良好な状態で検出されたため工事を中止し、石垣の検出及び範囲確認を行った。堆積状況は斜面であるため様ではなかったが、盛土の直下に金箔瓦を含む遺物包含層が認められた。石垣は長さ10mにわたり、西側に面を整えて積みあげられている。石は1辺が1m前後で、石質はすべて砂岩系であり、また切り石も認められなかった。石垣の残存状況は北から南にかけて徐々に悪くなり調査地の南部では全く認められなくなった。しかし、石垣を構築する際に裏ごめに使用されたと考えられる拳大の石が斜面に点々と認められた。出土遺物はすべて瓦であり、その中に数十点金箔瓦がみられた。時期は安土桃山時代である。(図版十三)

なお、石の表面を洗浄し刻印や墨書の発見につとめたが認めることはできなかった。

今回の調査は、小範囲ではあったが伏見桃山城に関する貴重な資料を得ることができた。また、立会調査終了後、周辺を踏査した結果、当該地付近には、また石垣など伏見城関係の遺構が残存していると考えられる所が数ヶ所認められた。

(鈴木久男)

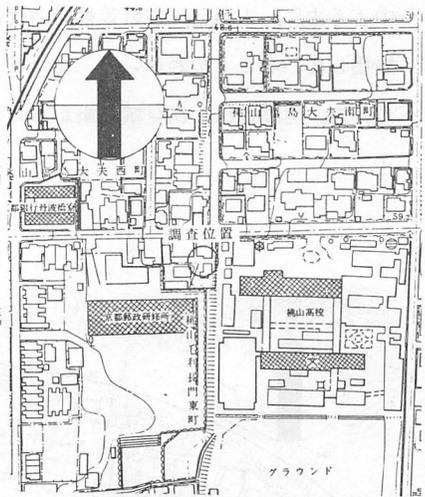


Fig 53 調査位置図

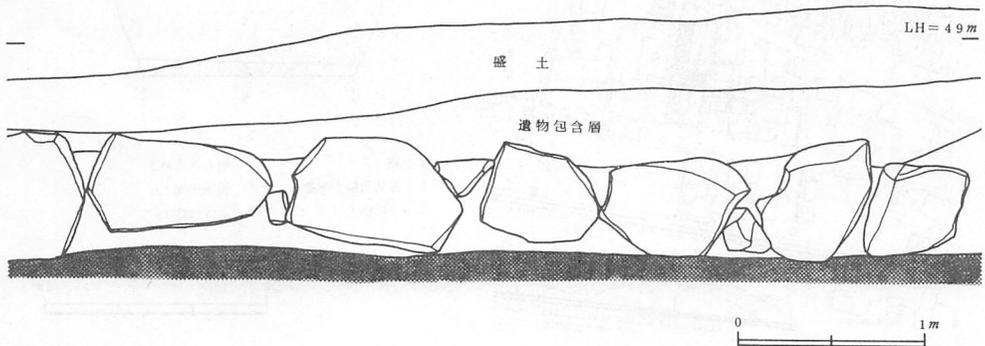


Fig 54 石垣立面図

京都市北東部地区

植物園北遺跡試掘調査 (No. 329)

北区上賀茂桜井町57番地の1, 太田明夫氏宅新築工事に伴い, 昭和54年10月5日に試掘調査を行った。建築面積は約89 m^2 でこのうち約65 m^2 を試掘した。この一帯は盛土のされていない場合は, 現耕土及び床土を剝いた時点で遺構面が見られる為, 調査地は, トレンチを設定せず, 調査可能な限り面として掘げた。堆積状態は, 耕土・床土が, 0.6 m 程みられ, 床土下は黄灰色砂泥となるが, 一部調査地東側では, 褐灰色砂泥層が堆積している。褐灰色砂泥層はSD1東肩以東に堆積し, 細かい遺物を包含する。(図版十四)

遺構は, 溝, 土坎, 柱穴などを検出した。SD1は, 調査区中央を南北に走る溝である。京都市埋蔵文化財研究所が, 下水道工事の立会調査に於て, 調査区北側の公園前でも同方向の溝を発見している。埋土は2層あり, 1層は茶褐色砂泥, 2層は灰色泥土で中央より北半にのみ見られ, 北辺では厚く堆積する。これは, この付近の地形が北より南へ低くなっているのに対し, 溝は, 南より北へ向かって下がる傾向を示し, 南端と北端では約0.6 m 程の高位差となるためである。西肩は黄灰色泥土を, 東肩は褐灰色砂泥を切り込む。溝幅約1.4 m , 肩口よりの深さ約0.7 m , 全長10 m を測る。遺物は, 土師器, 石器, 青磁, 白磁などを包含する。SD2は, 浅い掘り込みの溝で, 南北に走るが調査区中央ではほぼ立ち上がる。幅約1.1 m , 肩口よりの深さ約7 cm を測る。

柱穴は, 褐灰色泥砂を掘り下げた時点で, 黄灰色砂泥上面で検出されたもので, 約10基検出した。柱穴の埋土は, 褐灰色砂泥で, 細かい遺物を含む。形状は各々異なり一定ではない。なお, 褐灰色砂泥を完掘した時点の黄灰色泥砂層は, 調査区内でみる限り, 中央でやや窪みを形成しつつ, 南ではほぼ立ち上がる。

今回の試掘調査で発見された各遺構は, 調査区内ではまとまりを欠くが, SD1が立会調査の成果と共に1本の長い溝を想定できたこと, 柱穴は, 褐灰色砂泥下より切り込むがかなり溝と時期差をもつものであることなど一応の成果を見た。

(辻 裕司)

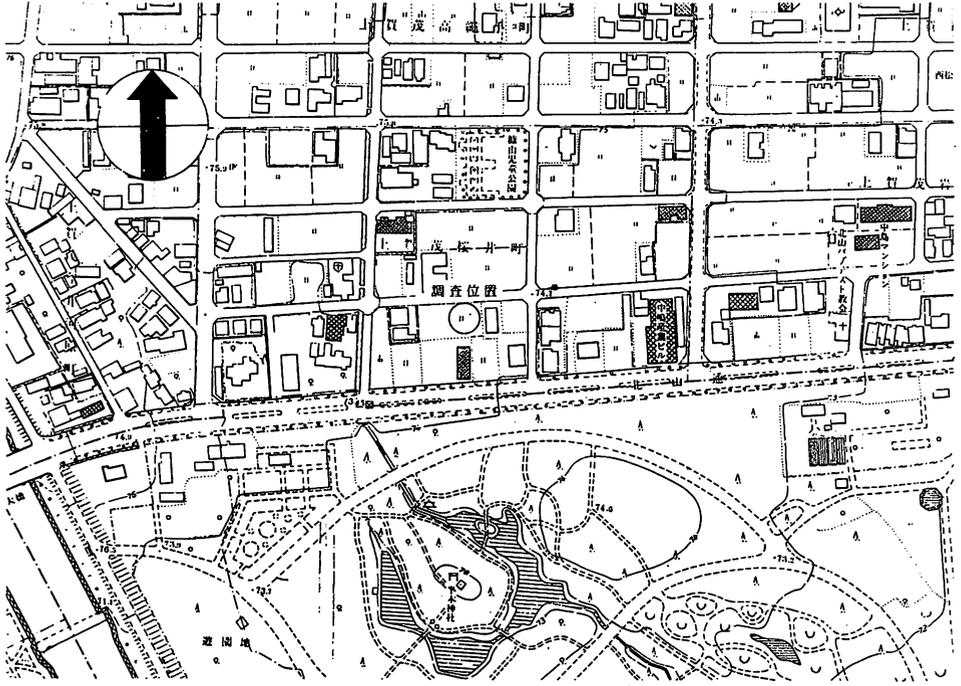


Fig 55 調査位置図

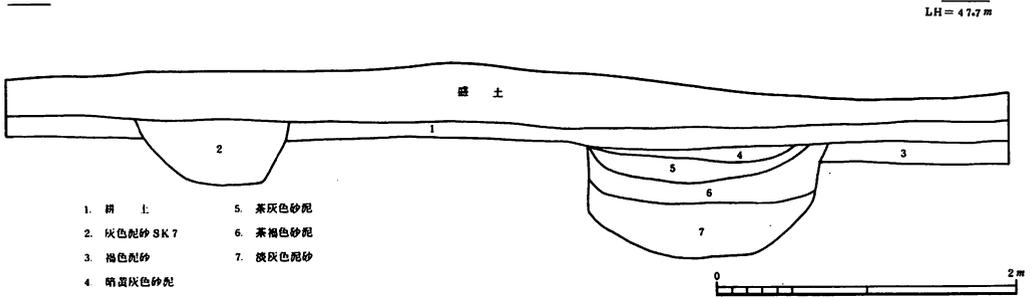


Fig 56 南壁断面図

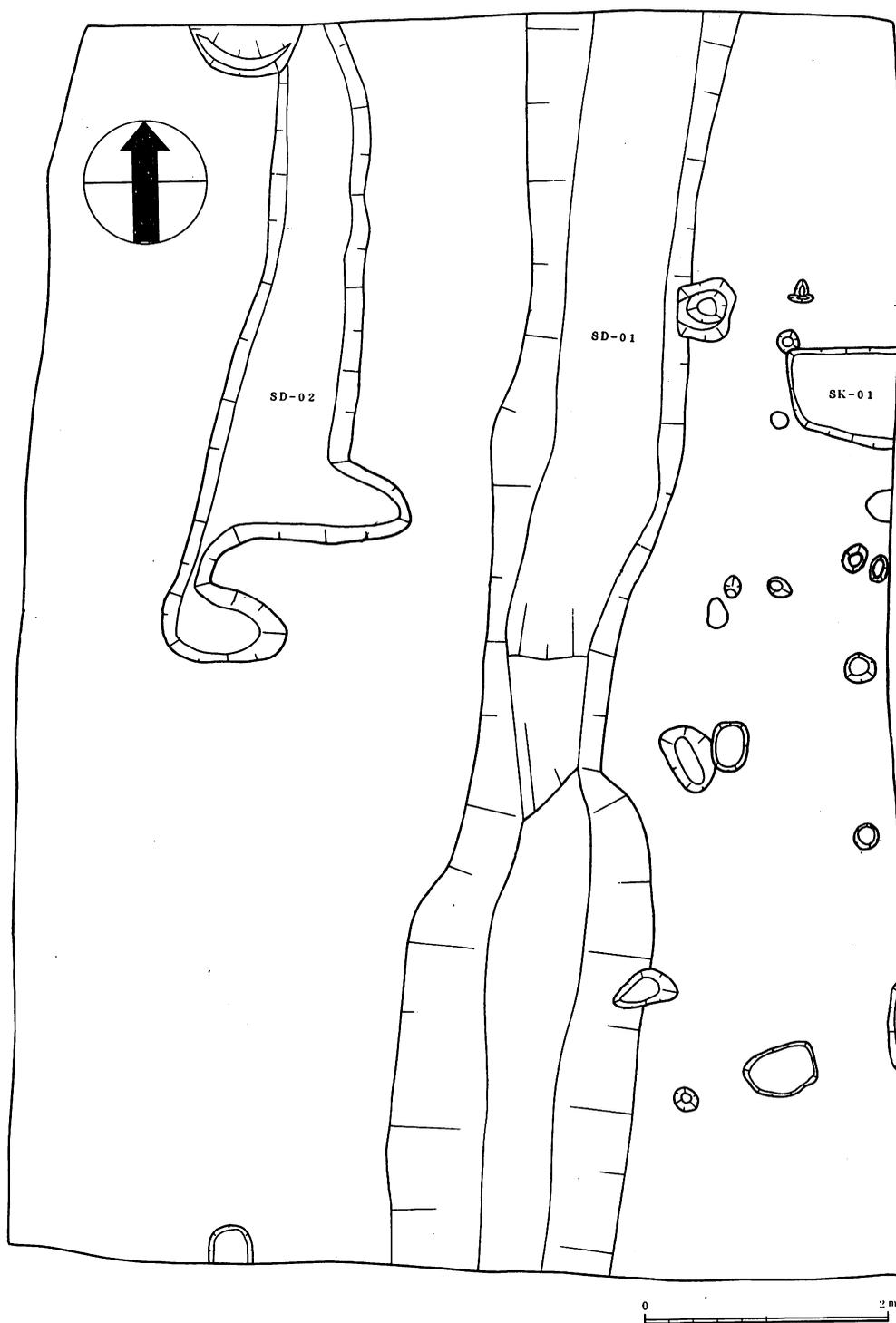


Fig 57 平面图

植物園北遺跡立会調査 (No. 369)

北区上賀茂岩ヶ垣内町12番地の1の石原美夫氏所有地におけるオークヴィラ新築工事に伴ない、昭和54年10月22日に立会調査を行った。建築面積は、約152m²である。堆積状況は、盛土及び耕土が約0.75m程あり、遺物を含む暗褐色砂泥が約0.2m耕土下に堆積する。暗褐色砂泥下は、黄灰色砂泥となる。遺構は、柱穴、土壇が検出され、各遺構とも暗褐色砂泥上面より検出されている。遺構内堆積土はベースとなる暗褐色砂泥とはほぼ同質土である為、遺構検出は非常に困難である。なお各遺構とも断面観察によって検出したものである。土壇の深さは約0.5m程である。平安時代の緑釉陶器、須恵器、土師器、黒色土器を出土した。また2基の柱穴遺構を検出した。1基は幅0.3m、肩口よりの深さ0.4mを測る。他の1基は、幅0.25m、肩口よりの深さ0.4mを測り、柱穴間の距離は約3mである。

調査地は、府立総合資料館北側に当たり、この一帯は、前年より、京都市埋蔵文化財研究所が下水道工事に伴う立会調査を行っており、当調査地南側の北山通りの立会調査でも平安時代の遺物を採集していることから、今後の調査によって植物園北遺跡における平安時代の遺跡が期待される地である。

(辻 裕司)

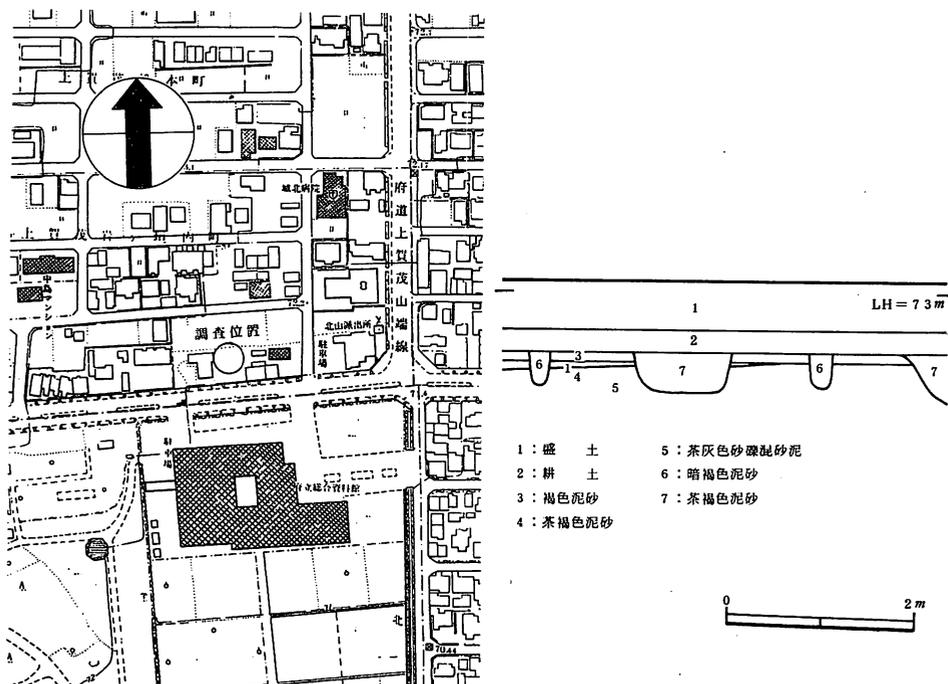


Fig 58 調査位置・北壁断面図

植物園北遺跡立会調査 (No. 383)

北区上賀茂岩ヶ垣内町98番地の4 熊谷寛氏宅新築工事に伴い昭和54年10月31日に立会調査を行った。建築面積は約62m²で、地表下2mまでの掘削である。堆積状況は盛土が約0.45mあり、その下が厚さ約0.15mの暗褐色砂泥で、弥生土器の包含層である。ついで黄灰色砂泥となり、茶灰色砂礫へと続く。黄灰色砂泥上面より土壇状の遺構を検出した。北側が攪乱のため、全体の規模は明らかではないが深さは約0.6mを測る。堆積土は暗褐色砂泥で、弥生土器の甕、高杯が出土している。

当該地の含まれる植物園北遺跡は、先土器時代より歴史が始まり、弥生時代から室町時代へと連続と絶えることなく続いていることが、前年より京都市埋蔵文化財研究所の行っている同地区の上下水道に伴う立会調査により明らかになりつつある。今回の調査で検出した遺構、遺物は僅か1個の点ではあるが、これらの成果との有機的なつながりの中で、線にもなり面にもなりうる大きな成果である。

(辻 裕司)

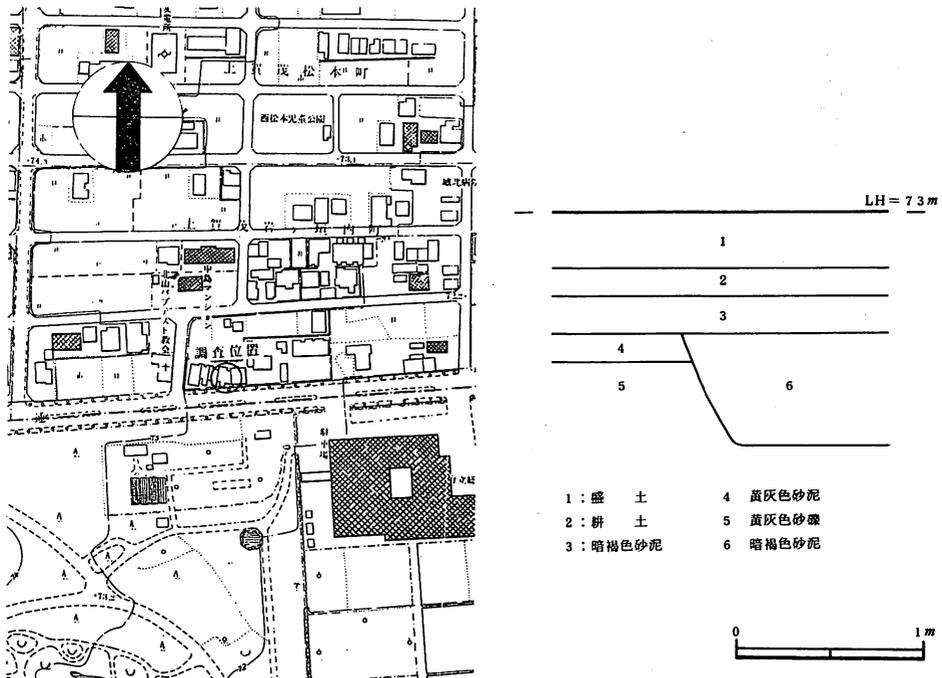


Fig 59 調査位置・西壁断面図

紫野斎院隣接地立会調査(№192)

上京区大宮通西裏盧山寺上ル堅社南半町218番地の藤 由明氏宅新築工事に伴い立会調査を昭和54年7月18日に実施した。当該地の建築面積は約50 m^2 である。堆積状況は、地表下0.4 m までは盛土で、この下に淡褐色泥土が0.15 m 、暗茶褐色粘土が0.15 m 、ついで黄褐色粘土がみられる。淡褐色泥土及び暗茶褐色粘土から小片ではあるが古墳時代の土師器片が出土している。またこれらの包含層はすべて良好な状態で水平堆積しており、当該地付近においてはより精度の高い調査が望まれる。

(長宗繁一)

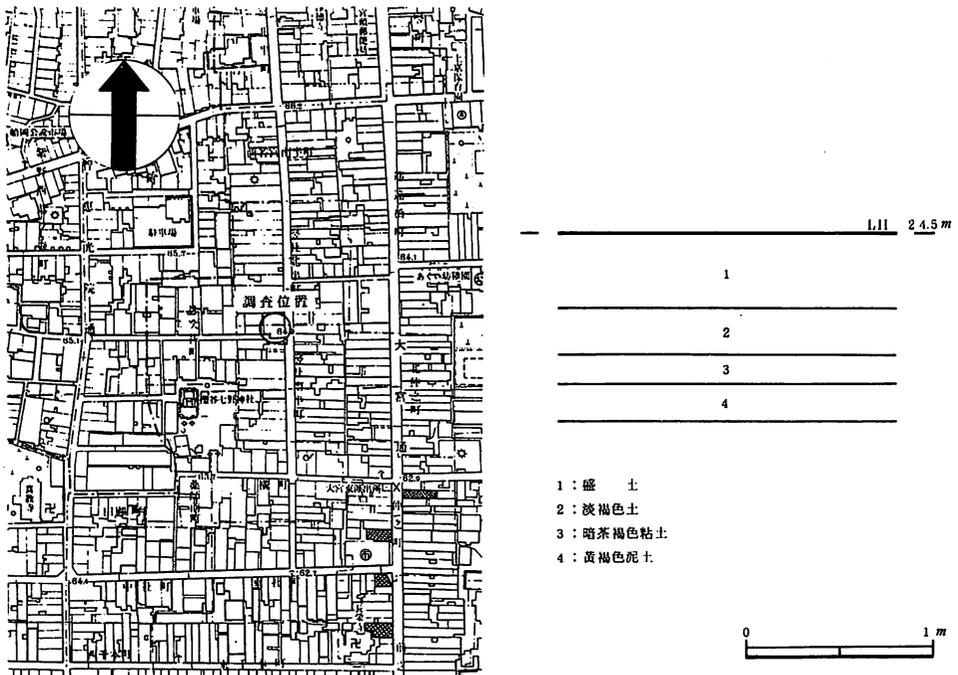


Fig 60 調査位置・北壁断面図

出雲寺跡立会調査 (No. 221)

上京区御霊鳥居前通鞍馬口下ル上御霊堅町447番地の12の油田医院新築工事に伴い立会調査を昭和54年8月3日に実施した。建築面積は約200m²あり、基礎部分を坪掘りで1.6mまで掘削する。堆積状況は地表下0.4mまで盛土、以下厚さ0.2mの黄灰色砂泥、厚さ0.15mの暗茶灰色砂泥、厚さ0.1mの淡黄灰色泥土、厚さ0.55mの淡茶灰色砂泥がみられ、ついで黄灰色泥土となる。淡黄灰色泥土と淡茶灰色砂泥が遺物包含層であり、後者からは奈良時代の軒平瓦を含む瓦片が多数出土している。

(木下保明)

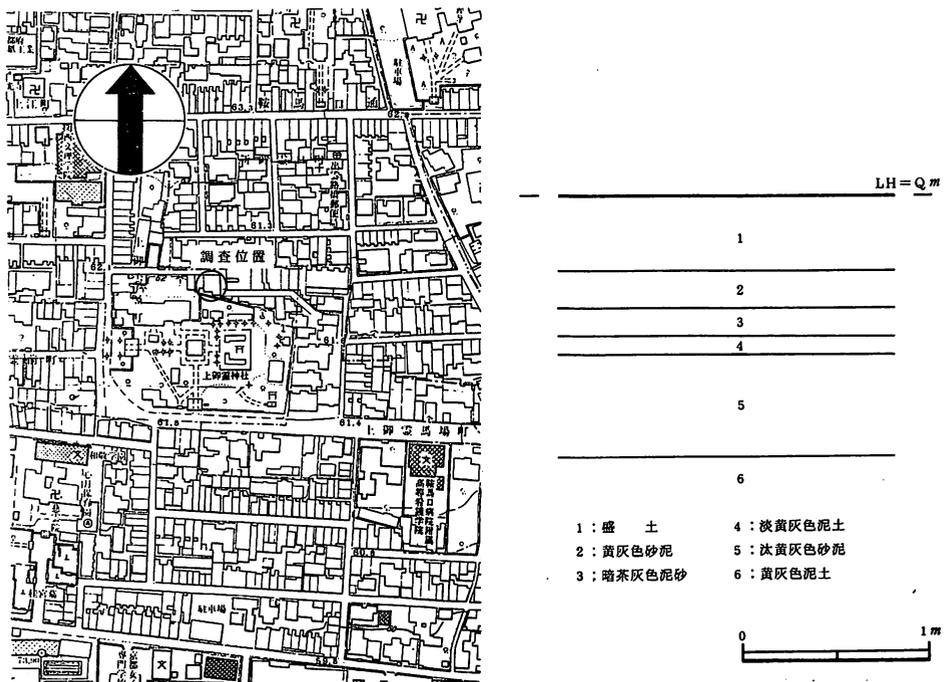


Fig 61 調査位置・南壁断面図

山 科 地 区

醍醐寺旧境内試掘調査 (№ 269)

伏見区醍醐赤間南裏町の山林及び竹林にて太田 建工による宅地造成のため、昭和54年9月3日から10日までの7日間、当該地の造成面積のうち約240m²を対象に試掘調査を実施した。当該地は史跡醍醐寺境内に位置し、その関連遺構を確認するために試掘調査を実施した。また、当該地は山麓部裾で緩やかな斜面を形成したところに位置するため、試掘トレンチはほぼ等高線に対し直交するような状態で設置した。まず、一番北側(A区)には3つのトレンチ、東端の第1トレンチは東西9m、幅2.2mで、第2トレンチは東西7.4m、幅2.6mで、第3トレンチはやや長く東西20m、幅2.4mである。次に中央(B区)においては、東側第1トレンチは東西28m、幅2.4m、第2トレンチは東西144m、幅2.4mである。次に南側(C区)第1トレンチは東西8m、幅2m、第2トレンチ東西5m、幅2m、第3トレンチ東西11m、幅1.6mを設置した。即ち3区計8カ所のトレンチを設け、試掘調査を開始した。各トレンチの堆積状況はほぼ共通し、表土(腐植土)が厚さ0.1~0.2m、その下は黄褐色泥土で厚さ0.2mである。この層には、ほとんど遺物は含まれない。次に茶灰色泥土厚さ0.15~0.3mほどが認められ、以下茶褐色泥土である。この茶褐色泥土は裾部から平坦部に近づくにつれ、薄くなり、平坦部近くでは、確認できない層で、土師器少片などを含む。検出した遺構はすべて茶褐色泥土を切り込んだものである。(図版十五)

まずA区第1トレンチの東端にて土塚状遺構SK1を確認した。その全容は明らかにできなかったが、東西2.4m以上、南北1.4m以上、深さ0.3mの不定形を呈する。堆積土は黄灰色礫混泥土1層で凹レンズ状に堆積する。この灰色混礫泥土より多数の土師器皿(完形に近いものが多い)が出土した。次にA区第3トレンチの西端において、西側へ下がる落ち込み状遺構及びその肩を切る土塚を2つ確認した。この土塚のうち南側の土塚は一部しか確認できなかったが、東西0.7m、南北0.6m以上、深さ0.4mのほぼ円形を呈するものである。堆積土は褐色泥土で層中には小礫及び炭、土師器皿などが多く含まれる。また落ち込み状遺構は東肩部だけの検出にとどまるが、深さ0.7m以上と考えられ、堆積土は茶褐色泥土である。B区第1トレンチでは明確な遺構は認められなかったが、第2トレンチの西側にて幅3.4m、深さ1.3mの南北方向の溝状遺構SD1を確認した。この遺構はA区第3トレンチ西端で検出した落ち込みと関連するものと考えられる。まず第1層は円礫で厚さ0.6m認められ、その下に暗茶褐色泥土が約0.15mほど堆積し、その

下に淡黄灰色泥土となる。第1層及び第2層には全く遺物は認められなかったが、第3層において土師器、緑釉陶器、瓦等が出土した。C区においては第1トレンチ及び第2トレンチには明確な遺構は存在しなかったが第3トレンチ中央部に土坑状遺構を検出した。これも全容は明らかにできなかったが、東西1.2 m、南北1.1 m以上のほぼ円形を呈する。この土坑上面にて、薄く5 cmの茶灰色泥土が認められるが、これを除去すると炭層が認められる。炭層上面においては径20 cm前後の小石及び土師器皿5、白磁碗、皿、碁石と思われるかどのとれた石英、雲母、10数個の軽石が認められた。また炭層は0.15 mほど堆積するが遺物は全く含まれない。土坑墓と考えられる。

A区第1トレンチSK1より出土した遺物は、土師器が圧倒的多数を占める。土師器皿の大は、口径14.8 cm、高さ3.1 cmで底部からゆるやかに口縁部が立ち上がり、端部は丸くおわるものである。土師器皿の小型のものは口径9.6 cm、高さ1.7 cmである。他に高台付皿と思われるものが出土しており平安時代後期と考えられる。B区第2トレンチの溝状遺構SD1の出土遺物は土師器小片、緑釉陶器、巴文軒丸瓦片である。特に緑釉陶器は壺と考えられる口縁部と体部の破片であるが、素地の上にスリップをかけ緑色の釉を施すものである。口縁部は頸部から少し立ち上がり、玉縁状に肥厚した口縁端部からなる。素地は赤褐色を呈す密な胎土で、やや軟陶である。C区第3トレンチの土坑墓と考えられる遺構より出土した遺物は、圧倒的多数の土師器とともに白磁がある。土師器は小型のものが多く、口径9.8～9.4 cm、高さ1.7～1.5 cmである。白磁は碗、皿が1点ずつ出土する。碗は口径14.6 cmである。口縁部はやや肉彎気味に立ち上がり、端部は非常に小さな玉縁となる。素地は灰白色を呈する密な胎土で、やや黄味を帯びた釉がうすく認められる。皿は口径10 cm、高さ2.6 cmである。口縁部は底部から緩やかに肉彎気味に立ち上がり、端部は丸くおわる。口縁部内面中央付近にやや低い段を有するもので、高台は円盤高台である。素地は灰白色を呈し、黄味をおびた釉がうすく認められる。平安時代後期と考えられる。

醍醐寺に直接関連する寺院遺構は今回の調査では全く認められなかったが、寺院に関すると思われる溝状遺構、土器溜め、土坑墓と考えられるものを検出した。これらの遺構が醍醐寺のどのような地域に位置し、付随するものかは不明であるが、その歴史の変遷を考える上で貴重な手がかりとなるものと考えられる。今後、本格的な発掘調査を行わなければならないことを示唆するものと言えよう

(堀内明博)



Fig 62 調査位置図

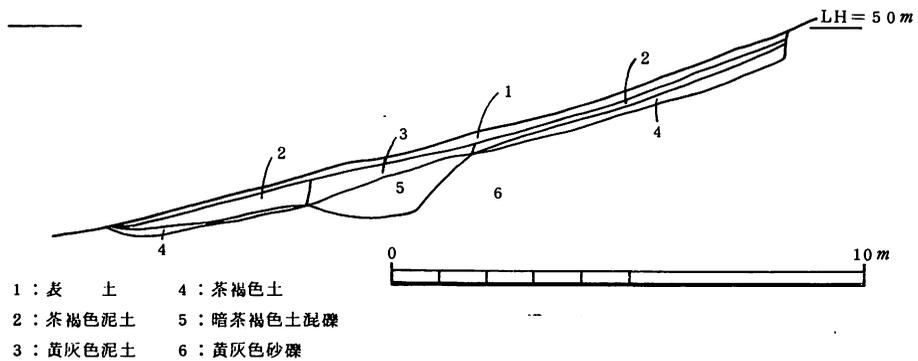


Fig 63 北壁断面図

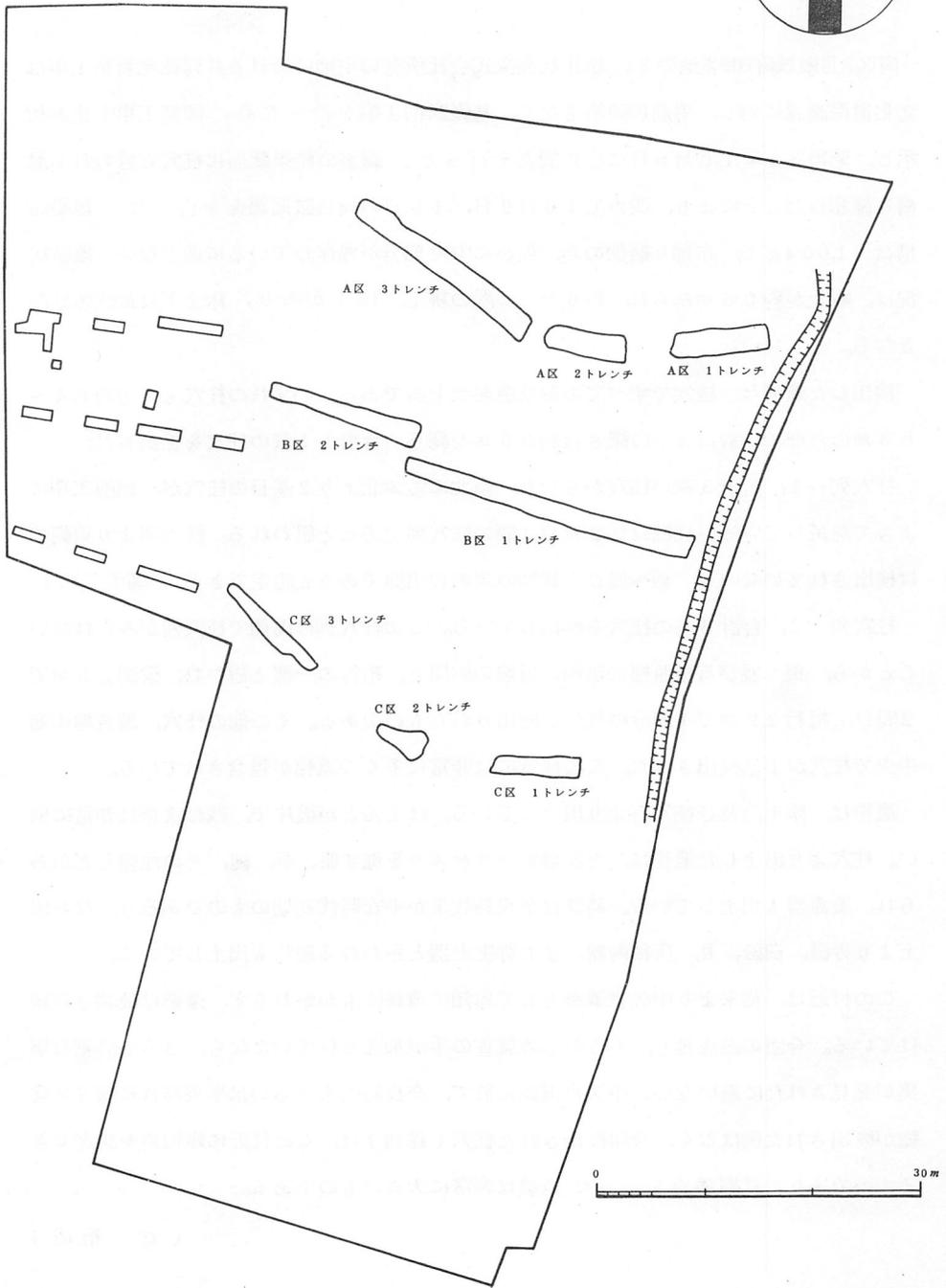
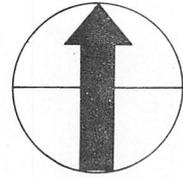


Fig 64 平面図

桂川右岸以西地区

中久世遺跡試掘調査 (№ 333)

南区久世殿城町109番地の2，松井建設株式会社所有の宅地に於ける共同住宅新築工事は文化財保護課に対し，事前に連絡もなく，基礎掘削工事を行った為，即時工事中止を指示し，昭和54年10月6日に立会調査を行った。調査の結果断面に柱穴と思われる遺構を確認したことにより，改めて10月9日，10日の両日試掘調査を行った。建築面積は， $1,064\text{m}^2$ で，布掘り掘削の為，僅かに中央部分が残存しているに過ぎない。地層状況は，盛土が約0.6mみられ，約0.15m程の耕土，床土があり，床土下は黄灰色砂泥となる。

検出した遺構は，柱穴ですべての黄灰色泥土上面である。いずれの柱穴も1辺約0.4～0.6mの方形で，肩口よりの深さは約0.5mを測る。合計11基の柱穴を検出した。

柱穴列-1，合計3基の柱穴からなり，南北に並ぶ北より2基目の柱穴が，掘削工事によって消滅しているが柱間は2.2mで3間の柱穴列であると思われる。柱穴列より東側では検出されていない為，西へ展びる建物の東端の梁間であると想定できる。(図版十六)

柱穴列-2，合計3基の柱穴を検出している。この柱穴列は両側で柱穴列がみられないことから，東へ展びる東西棟の建物の両端の梁間と，桁行の一部と思われ，梁間2.5mで2間分，桁行2.2mで1間分の柱列が検出されたものである。その他の柱穴，調査地南端中央で柱穴が1基検出された。この柱穴には非常に多くの遺物が包含されている。

遺物は，床土，及び柱穴内より出土している。ほとんどが破片で，残存状態は非常に悪い。柱穴より出土した遺物は，土師器がヘラケズリを施す皿，杯，碗，その他甕などがみられ，須恵器も出土している。時期は奈良時代末か平安時代初期のものであろう。なお床土より青磁，白磁，瓦，灰釉陶器，また弥生土器と思われる破片も出土している。

この付近は，従来より中久世遺跡として周知の遺跡にもかかわらず，遺跡は破壊され続けている。今回の調査地も，あらかじめ調査の手が加えられていたなら，さらに詳細な事実が発見されたに違いない。中久世遺跡に於て，奈良時代末あるいは平安時代に属する建物が検出された例はなく，今回検出された柱穴(建物)は，この付近に建物群を想定できるものであり，試掘調査を行った意義は非常に大きいものである。

(辻 裕司)

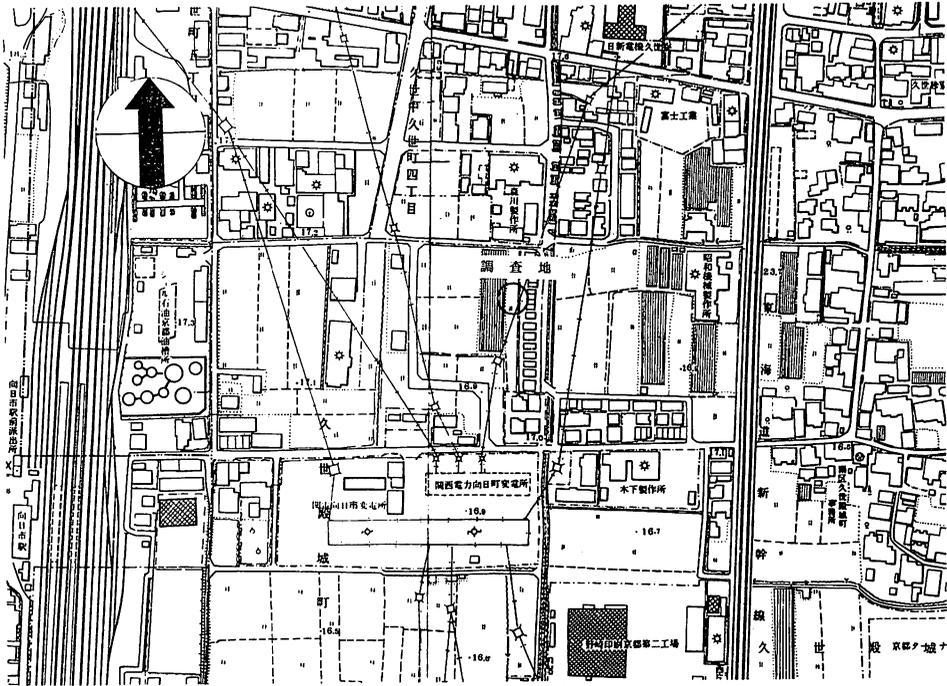


Fig 65 調査位置図

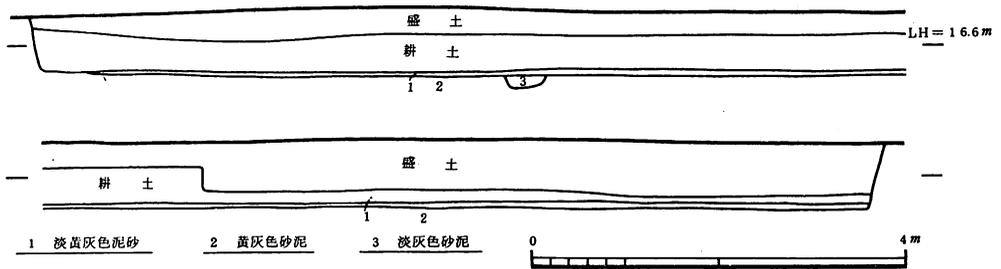


Fig 66 東壁断面図

深草地区

西飯食町遺跡試掘調査 (No. 446)

伏見区深草池ノ内町6番地の大蔵省近畿財務局藤ノ森合同宿舍建設に先立ち、昭和54年12月10日、11日に試掘調査を実施した。この藤ノ森合同宿舍建設予定地は、平安時代から鎌倉時代にまたがる西飯食遺跡の南にあたり、従来の西飯食遺跡の範囲からは、はずれている。しかし、当地一帯の下水道工事に伴う立会調査によって、遺跡の範囲が南に拡大していることが明らかとなっており、西飯食遺跡の南への広がりを確認する重要な試掘調査であった。

調査トレンチは、敷地内に3カ所設定した。第1トレンチは5×7mの南北トレンチ、第2トレンチは14×2mの東西トレンチ、第3トレンチは6×5mの東西トレンチである。(図版十六)

各トレンチ共に厚さ1.2mの整地層があり、整地層下に砂層が認められた。この砂層は、地表下1.8mから2.5m位にまで堆積しており、細砂、粗砂が互層になっている。地名に池ノ内町を残すように「池」の堆積と考えられるが、この砂層からの出土遺物はなく、時期は不明である。第2トレンチでは、地表下約0.2mに暗灰色砂泥層が認められた。第1、第3トレンチでは、地表下約2.8m前後で暗灰色泥土層、その下層から灰色砂泥層が確認された。暗灰色砂泥層からは、磨滅した少量の土師器が、暗灰色泥土層、灰色砂泥層からは、多量の土師器が出土している。これらの出土した遺物は、平安時代後期から鎌倉時代に比定できるものである。

調査範囲がせまいため、暗灰色砂泥層、暗灰色泥土層、灰色砂泥層が、単なる遺物包含層か遺構に伴う層なのか性格は不明であるが、西飯食遺跡の範囲が従来の範囲を越えて南に広がることが証明されたわけであり、今後当該地域における調査および、西飯食遺跡範囲外での確認調査・文化財パトロールを充実する必要がある。

(菅田 薫)

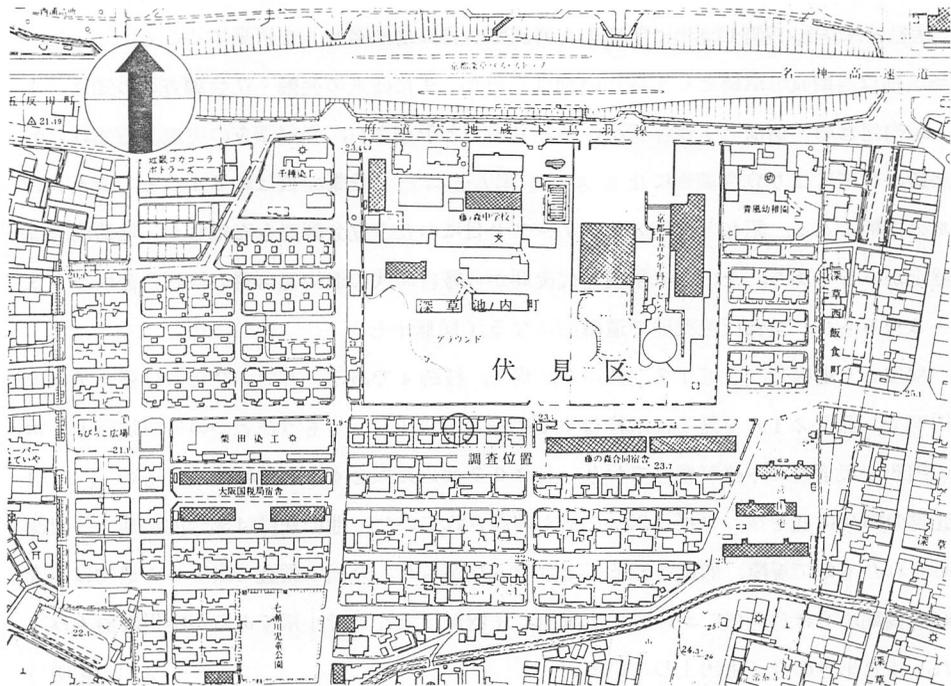


Fig 67 調査位置図

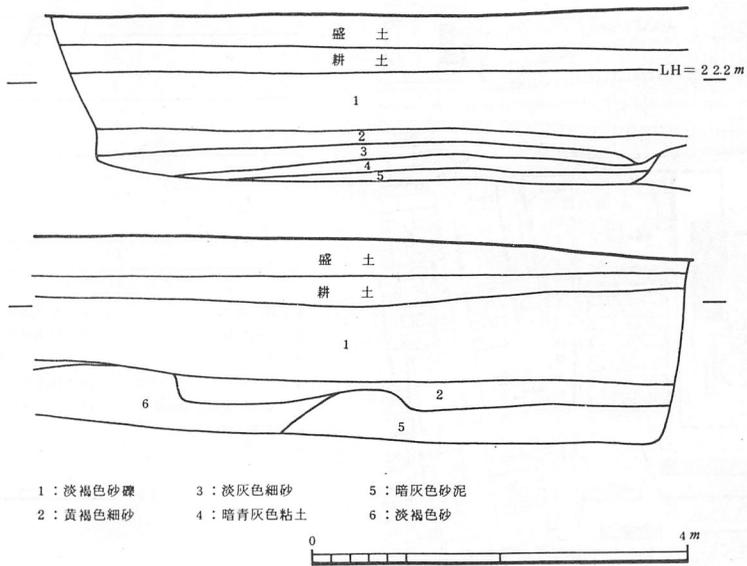


Fig 68 南壁断面図

西飯食町遺跡立会調査 (No. 114)

伏見区深草池ノ内町12番地に学校法人青風塾が青風幼稚園ビルを新築することになった。当該地は西飯食町遺跡として周知の地点であり、また従来の発掘・立会調査等の知見により遺物包含層・遺構とも残存状況が良好であると予想され、発掘調査の実施が望まれたが、諸般の事情により立会調査に止まざるを得なかった。建築面積は約840 m^2 で地表下2.2 m の掘削である。昭和54年8月17～22日にわたり立会調査を実施した。堆積状況は盛土が0.5 m あり、その下に平安時代後期から鎌倉時代の遺物包含層の淡灰色泥砂が0.3～3 m みられ、淡黄灰色泥砂の遺構面になる。(図版十七)

検出した遺構は、土坑17、井戸5、溝1、柱跡4である。井戸のひとつは径1.7 m の円形で、深さ2.1 m を測る。木杵はすでに失われていた。もうひとつの井戸は径1.4 m の円形で最下段の木杵が残っており、長さ0.7 m の丸太を4本四角に組んだもので、井戸底部の中央に底を抜つた径32 cm の樋が埋設されていた。他の井戸は部分的に断面等で認められたもので規模、形態を知ることはできなかった。今回の調査で出土した遺物は平安時代後期から鎌倉時代にかけての土師皿、瓦器がほとんどで少量であるが中世陶器もみられ、また影青の合子も出土している。

(木下保明)

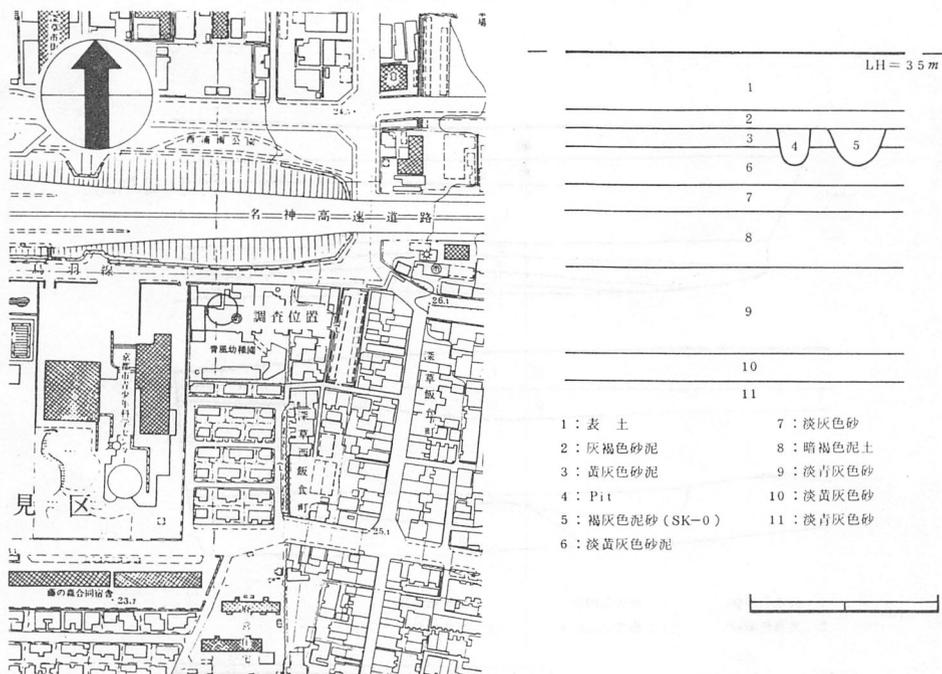


Fig 69 調査位置・東壁断面図

深草遺跡試掘調査 (No. 390)

伏見区深草西浦町3番地の61の阿原医院新築工事に先立ち昭和54年11月5日～7日の間、試掘調査を実施した。この地一帯は、京都盆地における弥生時代中期初頭の遺跡として知られ、当該地は日本考古学協会、京都府などが調査し多量の土器、木器を発見した溝の北部に位置する。堆積状況は、地表下1.2mまで盛土で、約1.1mの厚さで3層の粘土、泥土の遺物包含層である。第4層は茶褐色砂泥であるが、灰色粘土、灰白色粘土、黒色粘土、黄褐色粗砂が混然とした状態でみられる。第5層は、砂と泥土の互層堆積を呈し、弥生式土器の大きな破片、石包丁の破片も出土しているが、同層より鎌倉時代の瓦器碗の完形品が1個体出土しており時代の下限を決定する資料となった。第6層は灰色泥土で弥生式土器を包含する。第7層の淡灰色細砂は、地表下2.6mまで確認しているがさらに続く、遺物は試掘トレンチ内では発見できなかった。(図版十八・二十一)

以上の調査結果から、前述の調査で発見された溝は、この区域には存在しないことがわかった。しかし、鎌倉時代にこの付近が地業されていることが判明したことは大きな成果のひとつである。(辻 裕司)

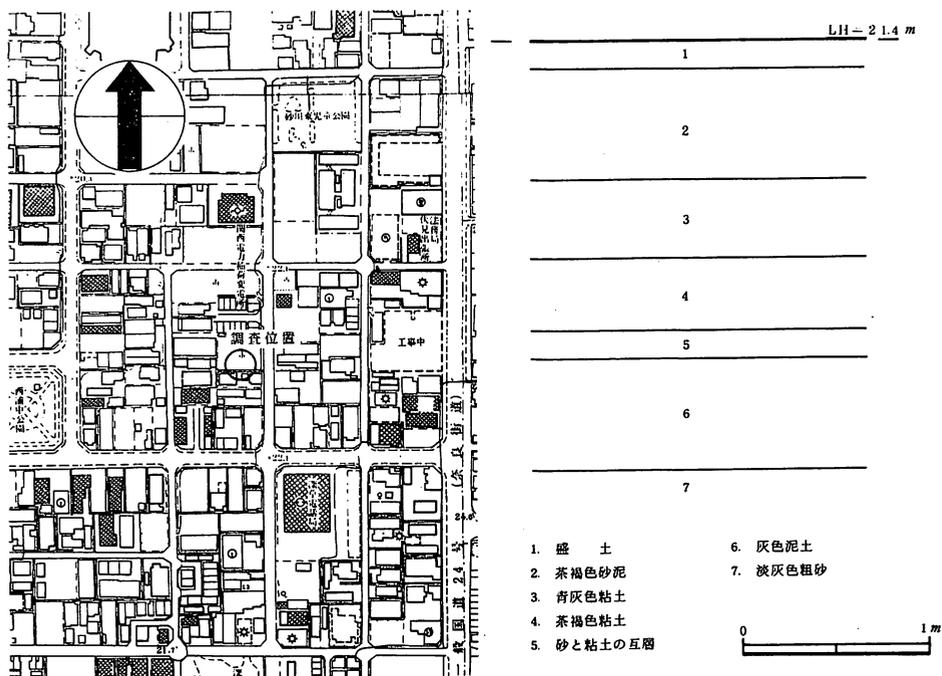


Fig 70 調査位置・西壁断面図

法性寺跡立会調査 (No. 298)

東山区本町11丁目209番地の多田芳一氏宅の新築工事に伴う立会調査を昭和54年9月18日に行った。建築面積は約76㎡で基礎部分を坪掘りで約0.7m機械掘りを行った。堆積状況は、盛土が約0.15mで、その下が厚さ約0.15～0.2mの灰褐色泥土、近世遺物包含層が認められた。その下は、暗灰色泥土が約0.15mほど認められた。それより下は、茶灰色シルトである。茶灰色シルト上面よりピット状遺構、溝状遺構、土坑などを多数検出した。ピット状遺構は、径0.3～0.4m、深さ0.5mで各々切り合いがあり、建物が何回か建て替えられたことを物語っている。また土坑も切り合いがあり、土師器、瓦器碗、釜、鍋片、青磁碗、須恵器、鉢などが出土する。これらの時期は、平安時代後期より鎌倉時代と考えられる。(図版十八)

今回の調査において、包含層及び遺構が平安時代後期から鎌倉時代にかけて完全に残っていることが判明した。当該地付近が法性寺に推定されており、今後この付近の遺跡の解明が一層重要となろう。

(堀内明博)

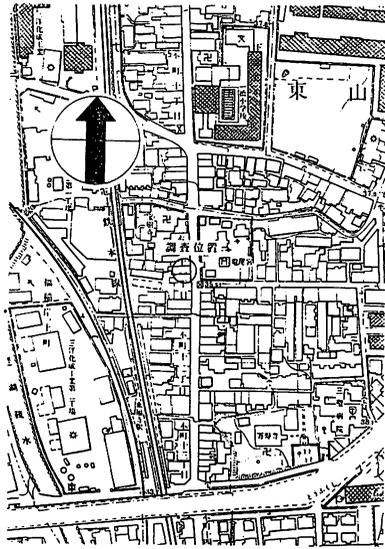


Fig 71 調査位置図

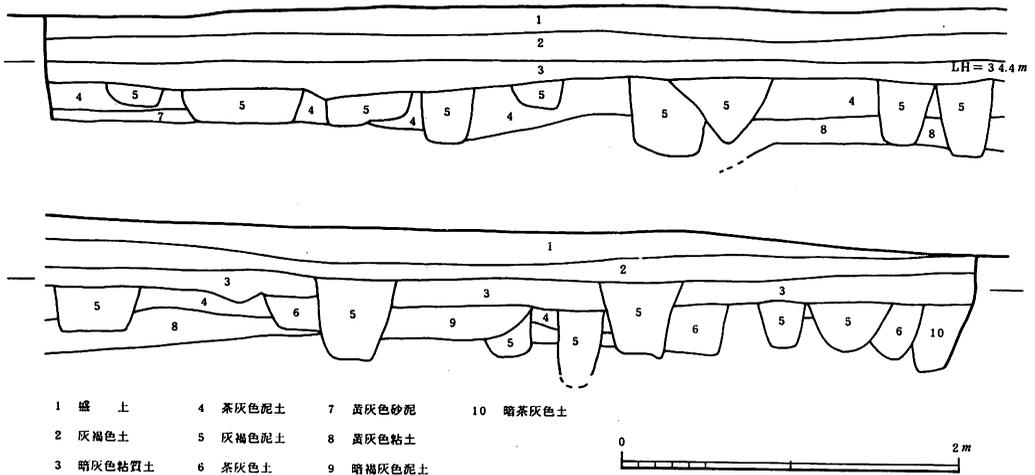


Fig 72 北壁断面図

北野廃寺試掘調査(№ 98)

北区北野東紅梅町6番地の聖マリア学園の養護学校新築工事に先立ち、昭和54年5月25日に建設予定地(面積約720 m^2)の南西隅に2×3mの南北トレンチを設定して試掘調査を実施した。その結果、室町時代の遺物包含層、土塚1、東西溝1、柱穴2を検出した。この検出面より下層には周辺地域の発掘調査等で北野廃寺関係の遺構が予測できる為に、これ以上掘り下げず、ボーリング調査で層序を確認するにとどめた。その結果、下層には周辺地域に通有の遺物包含層で存在しており、北野廃寺関係の遺構の検出が望めることから当該地は試掘調査から発掘調査に切り換え、京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。

(平方 幸雄)

北野廃寺立会調査(№ 71)

北区北野下白梅町60番地の1～3の(株)サンギンの新築工事は当該地が周知の遺跡である北野廃寺推定地にもかかわらず無申請で工事を施工した。そのため工事の中止を要請し、昭和54年5月12日に立会調査を実施した。すでに工事がかなり進行していたため建築面積167 m^2 の内、中央部がわずかに残存していたにすぎない。堆積状況は、地表下約0.6mが盛土で、その下に厚さ約0.4mの多量に瓦を含む遺物包含層と、この層を切り込む砂礫層が認められた。ついで黒褐色泥土となる。出土した瓦は北野廃寺の時期の軒平・軒丸瓦が数点みられ遺物包含層も良好な残存状態を示していた。

(辻 裕司)

中臣遺跡試掘調査(№ 441)

山科区柳辻番所が口町27番地の豊田勝美氏所有地において昭和54年12月7日に試掘調査を行った。試掘の結果、これまでの中臣遺跡発掘調査の成果から判断して当該地は良好な状態で遺構の検出が望めるため発掘調査に変更し、京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。

(菅田 薫)

編 集 後 記

京都市内における埋蔵文化財の包蔵面積は、市内の開発可能な土地の30%近くにも達すると推定され、この中において、大小の土木工事が年間2千件以上も行われている。

この数に対して事前に発掘調査の手が加えられるものは、100件にも満たない状況である。市内には、本報告書でも説明のあるように多数の重要な遺跡が分布し、最近の調査結果では、遺跡内より別の時代の遺構や遺物が検出され、また遺跡地図の空白地においても新しい遺跡が発見されることもしばしばある。

これは長い歴史の中で幾世代の人々の生活の足跡が広範囲に分布していることの証であり、京都の歴史の深さを物語っている。

このように広範囲な遺跡包蔵地を有する京都市においては、物理的な調査能力の限界を痛感しながらも、現在の我々が何らかの調査の手を加えなければ将来に悔を残すという考え方から、できるかぎり広範囲に調査を実施している。

近年、埋蔵文化財に関する届出や通知も周知徹底が一段と進み、その件数も増加した結果、発掘調査の他に市内各所に立会調査（掘削工事中に調査を行う）の手が及ぶこととなった。また試掘調査（機械力や人力で工事前に敷地を調査する）の指導も行うようになってからは、広範囲にわたって多数の遺構、遺物が確認されるようになった。

昭和53年までは、京都市文化観光局文化財保護課の中に分室を設け、行政指導の片手間に、課の担当技師や調査員が細々と市内の立会、試掘調査を実施していたのであるが、昭和54年より京都市埋蔵文化財研究所から専任の調査員が交代で試掘、立会調査にあたることとなり、あわせて文化庁国庫補助事業としても認められることとなった。このため本格的に広範囲にわたって調査がおし進められるようになったわけである。

昭和54年度は、973件の届出や通知のうち、596件について試掘（77）、立会（519）の調査を実施し、膨大な成果をあげたわけである。しかし、それぞれの調査結果をすべて報告書としてまとめることは、時間的制約の中ではとても無理であるため、調査を実施した中で、ある程度成果のあったものを選択し、報告書としてまとめたものである。

内容については不十分な点もあるが、できる限り調査成果を簡潔明瞭に説明することに重点をおいている。また当報告に内容を掲載していないものであっても調査成果の充分あったものも多く、今後はこれらの成果も報告するよう検討してゆきたい。

調査を担当された調査員や補助員の方々には、人員不足や調査組織の未熟からたいへんご迷惑をおかけしたことをお詫したい。また今後これらの成果が大いに活用されることを期待したい。

（梶川敏夫）

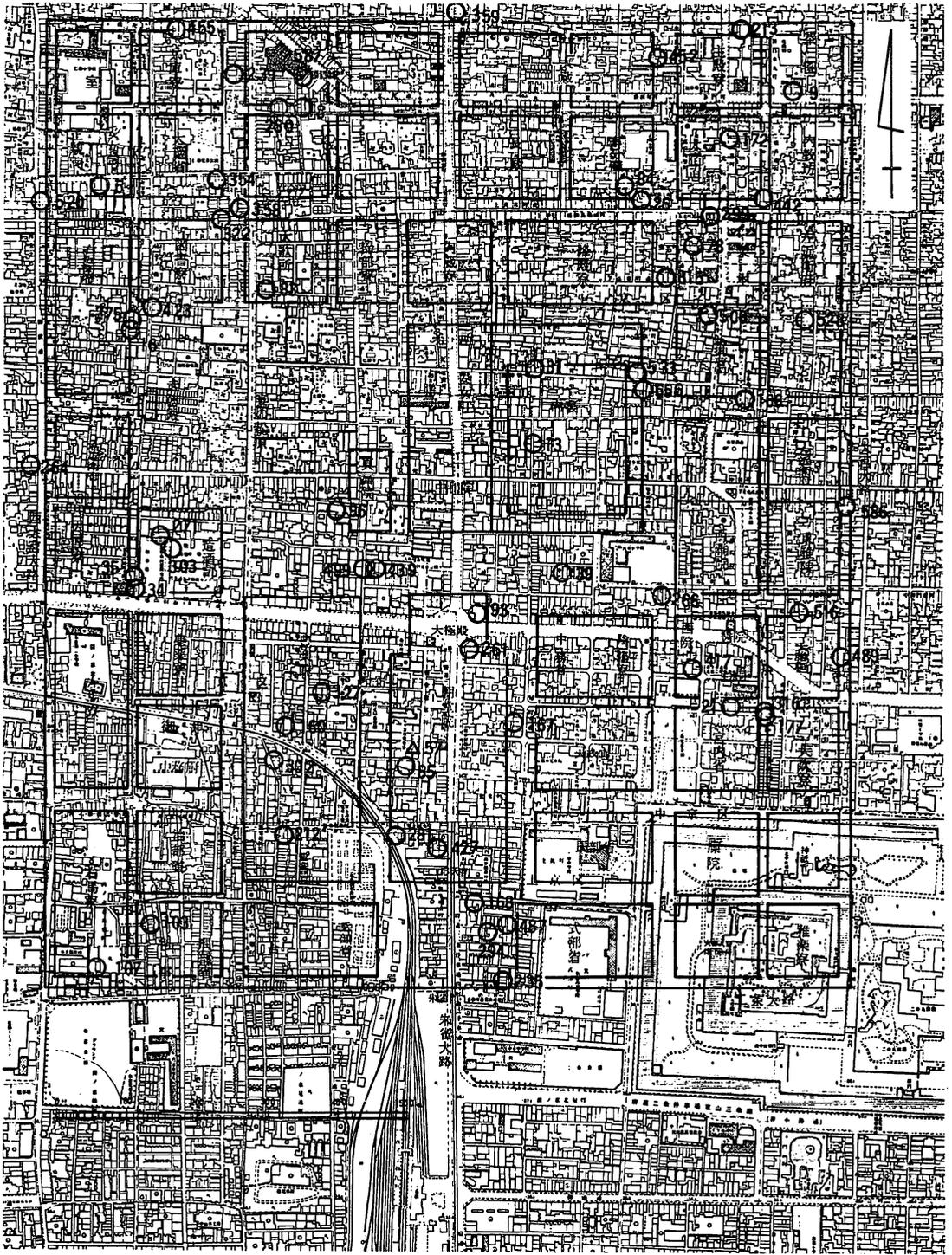


Fig 73 平安宮推定復元図及び調査位置図(△は試掘調査・○は立会調査を示す)

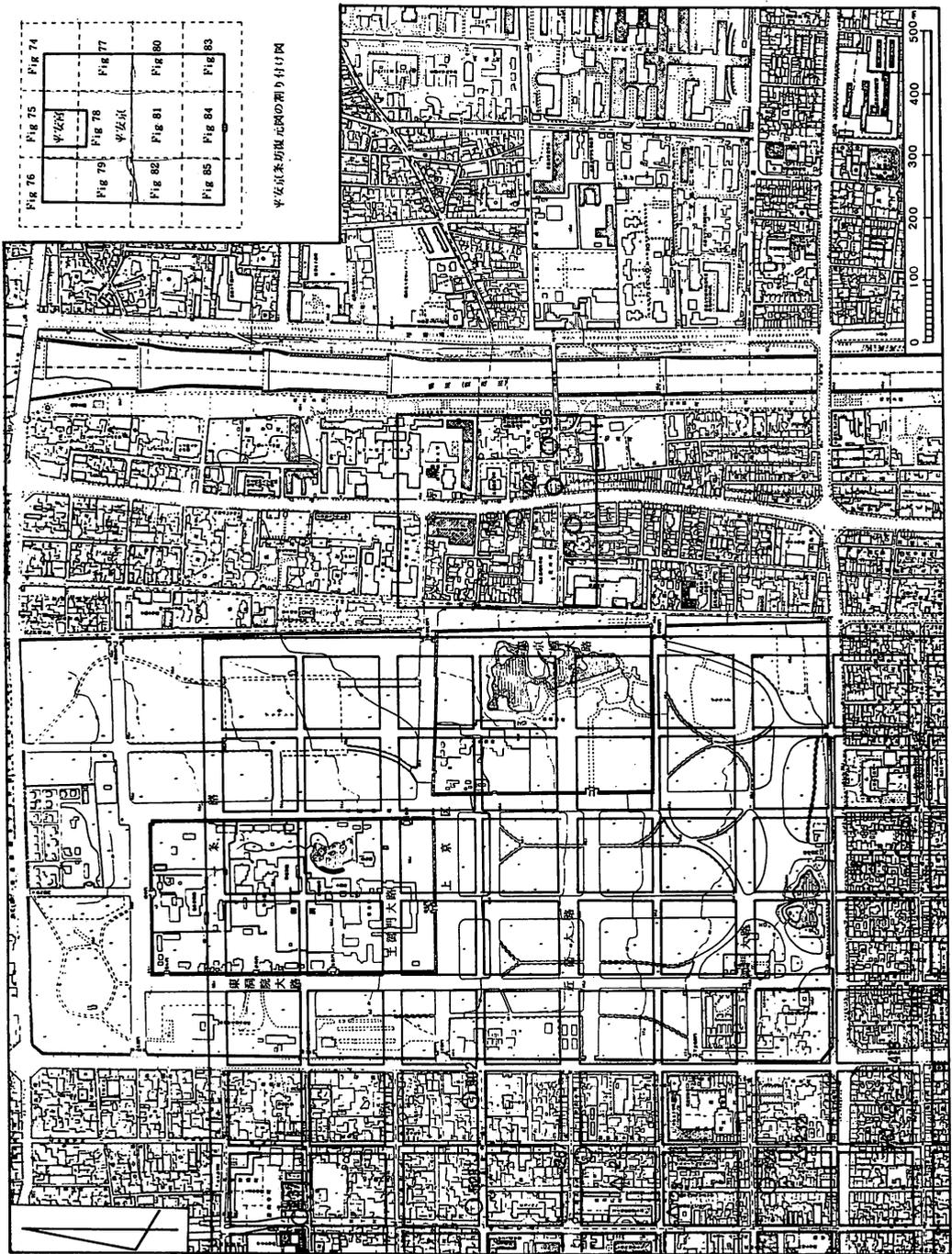


Fig 74 平安京条坊復元図及び調査位置図

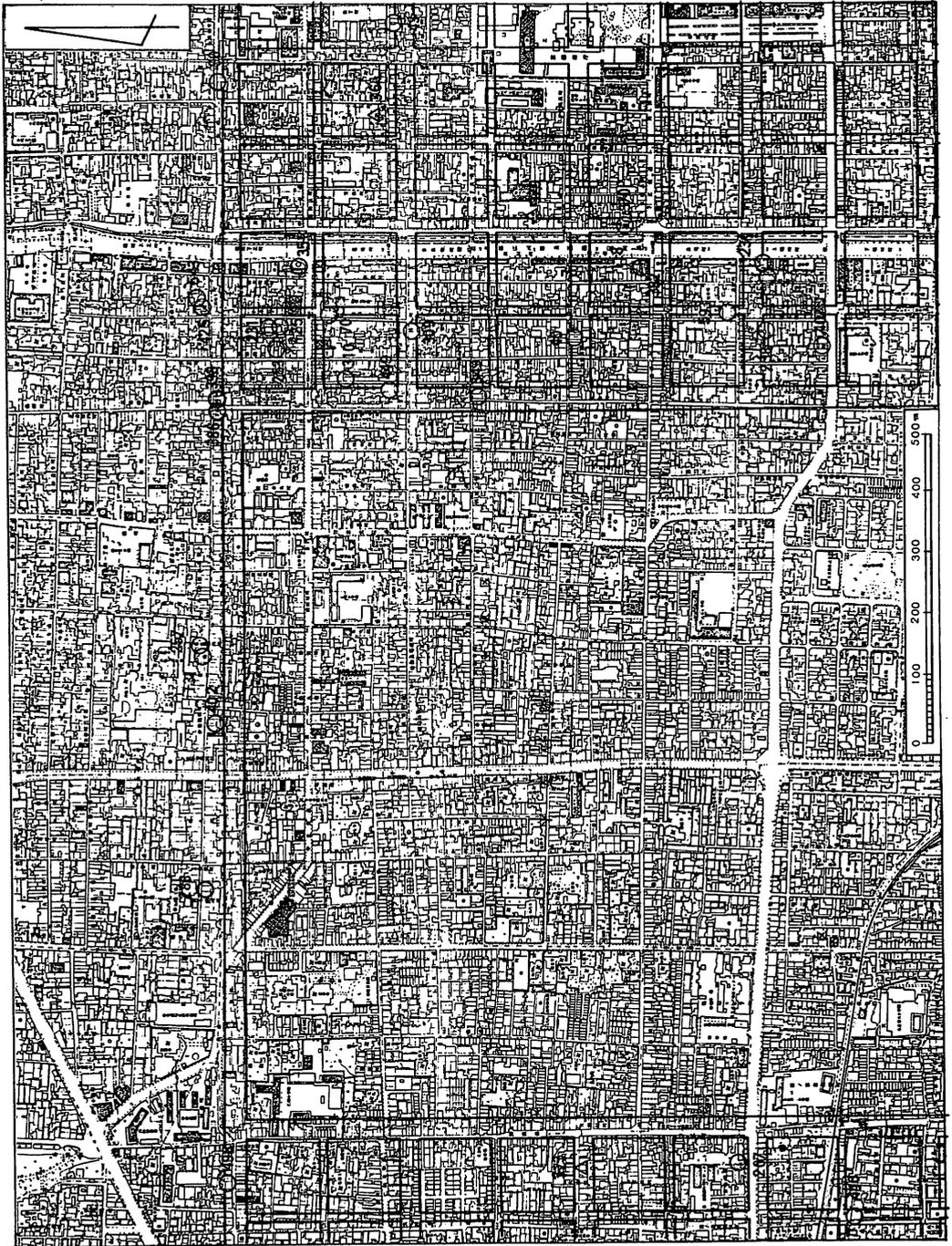


Fig 75 平安京条坊復元図及び調査位置図

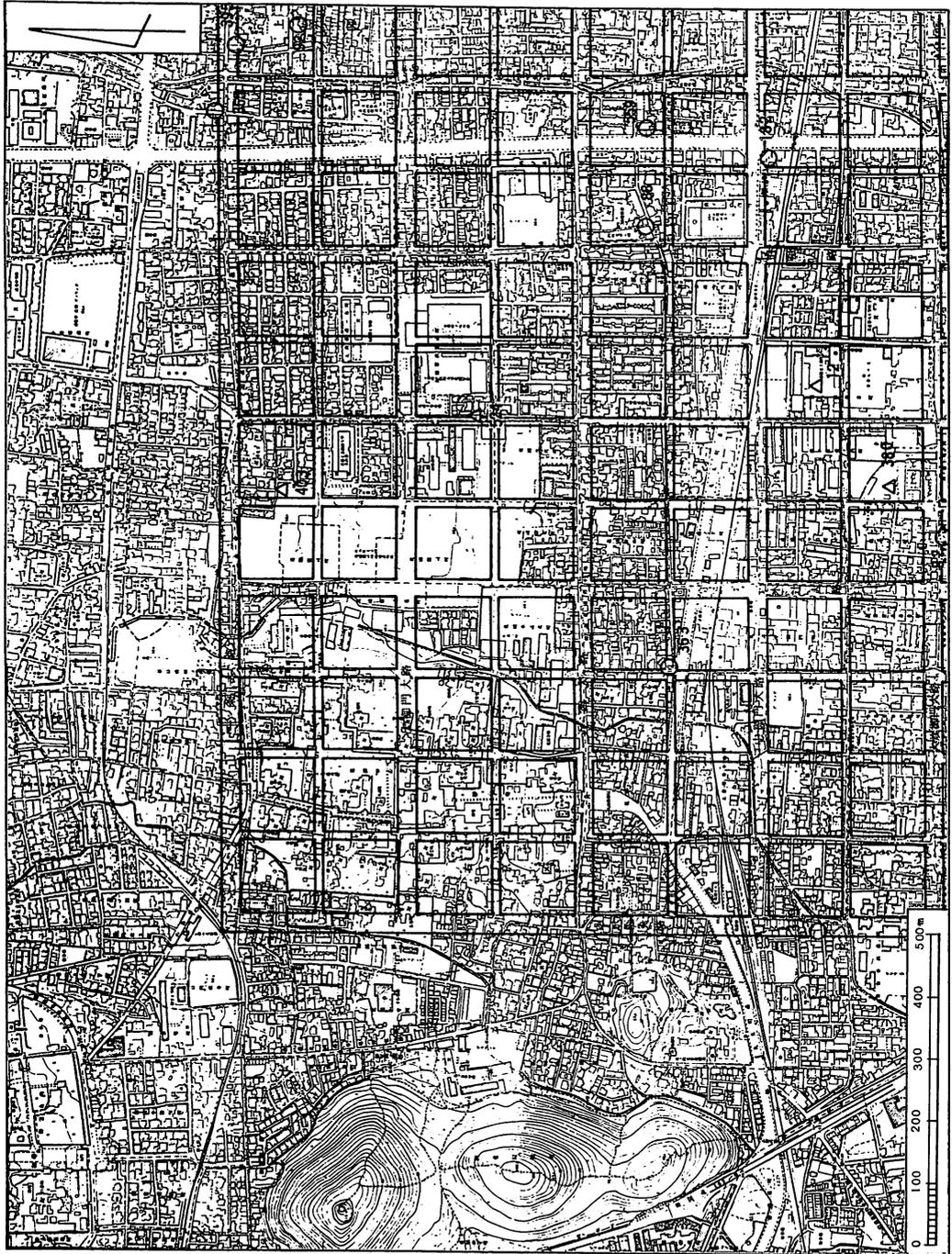


Fig 76 平安京条坊復元図及び調査位置図

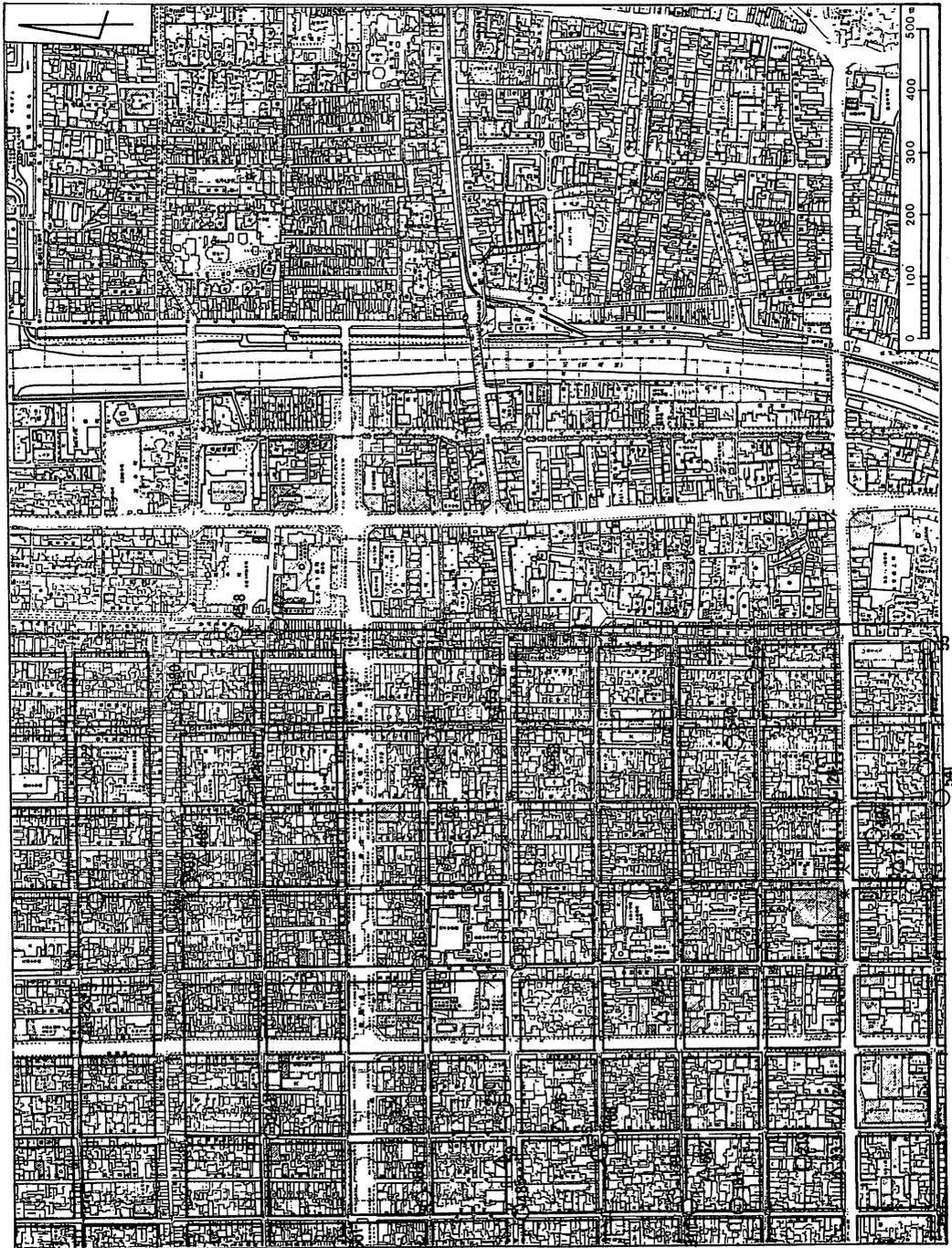


Fig 77 平安京条坊復元図及び調査位置図

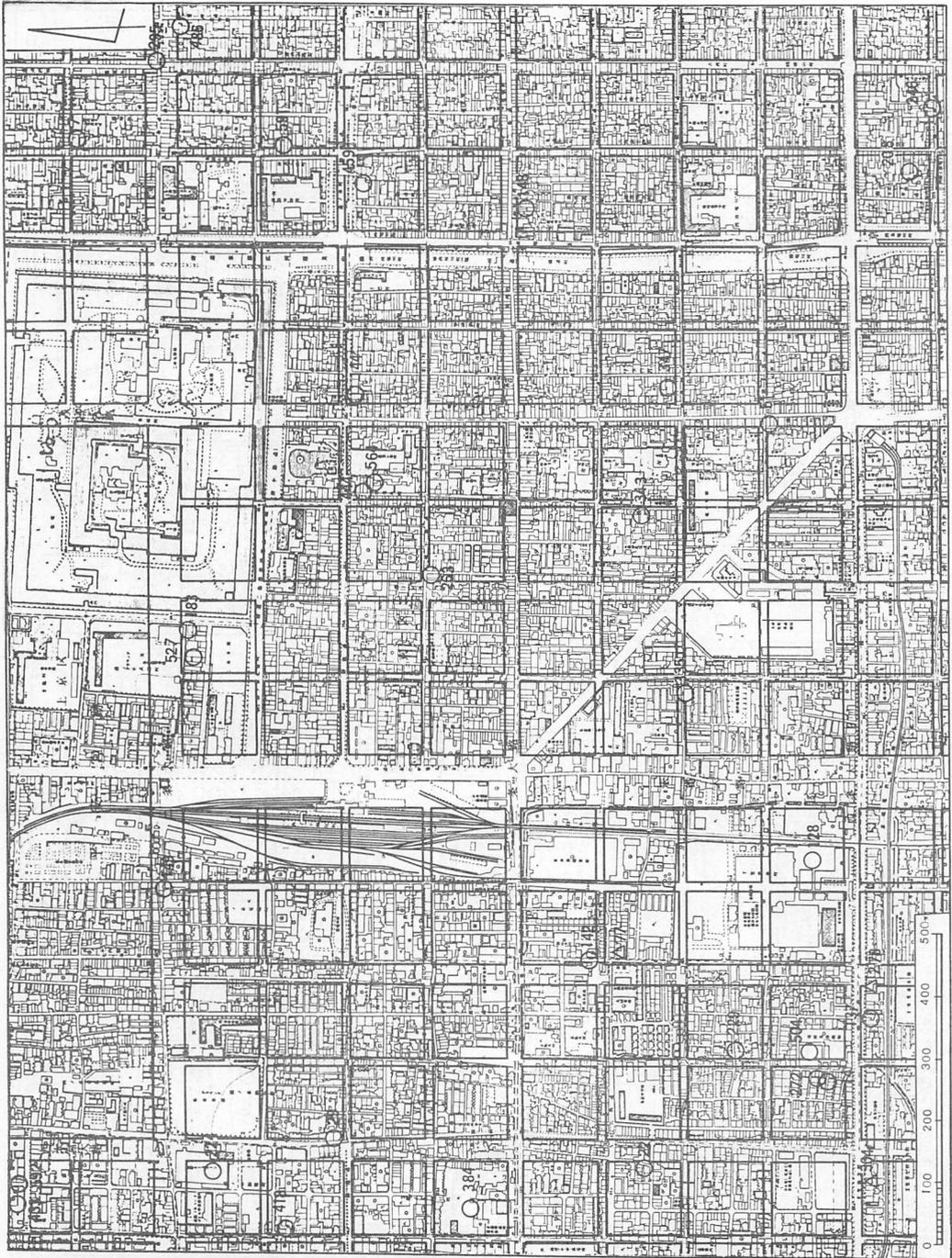


Fig 78 平安京条坊復元図及び調査位置図

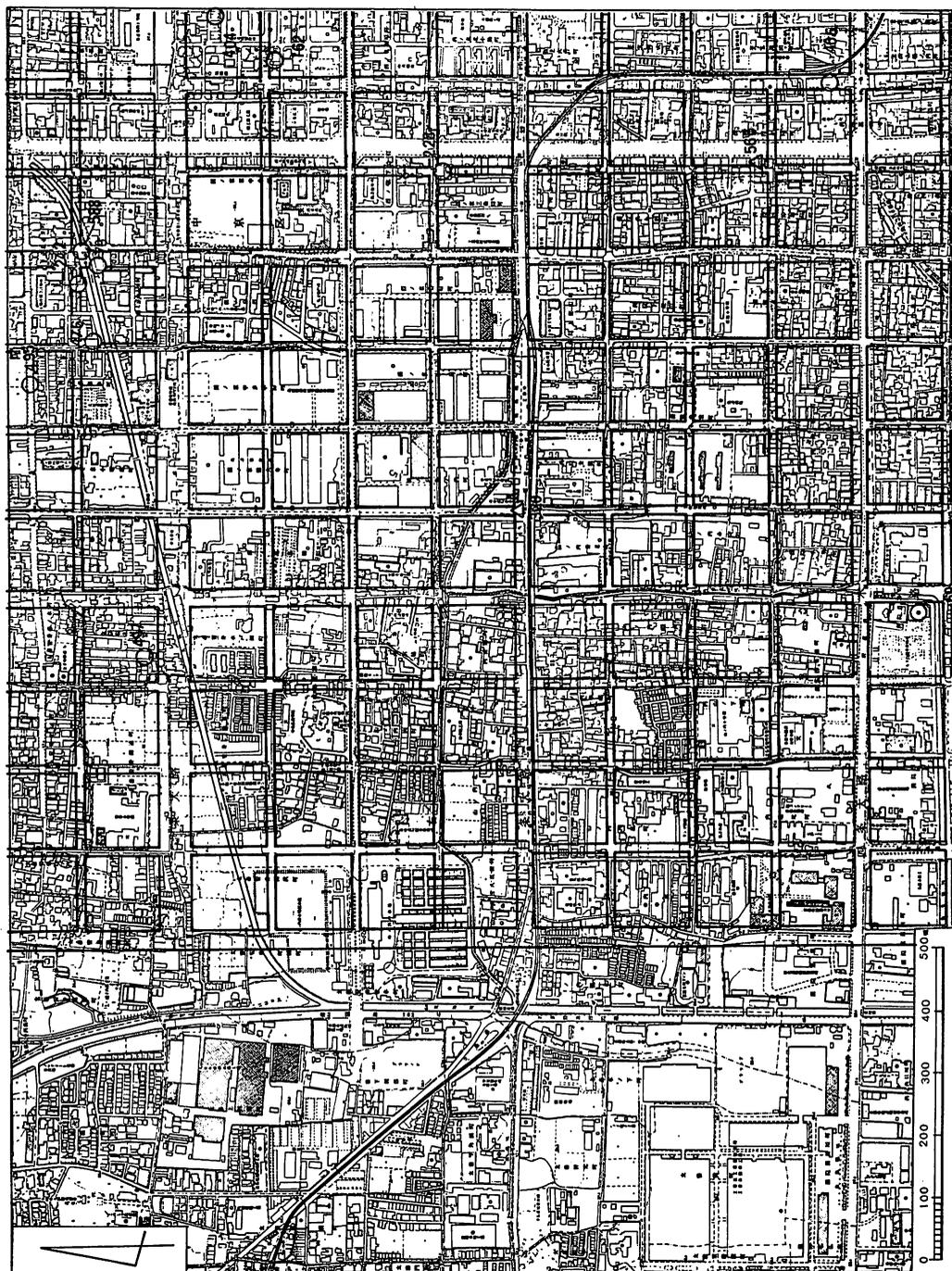


Fig 79 平安京条坊復元図及び調査位置図

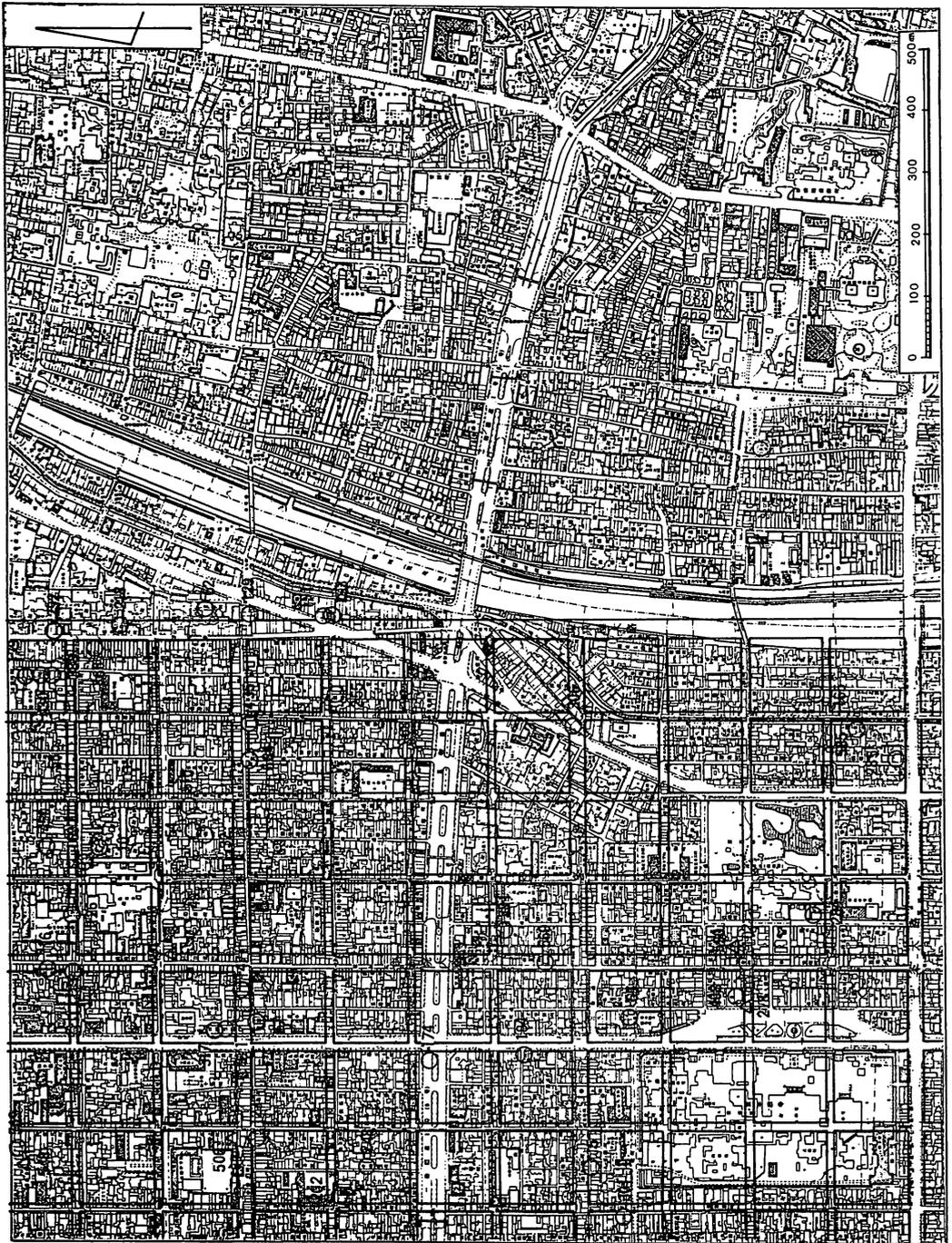


Fig 80 平安京条坊復元図及び調査位置図

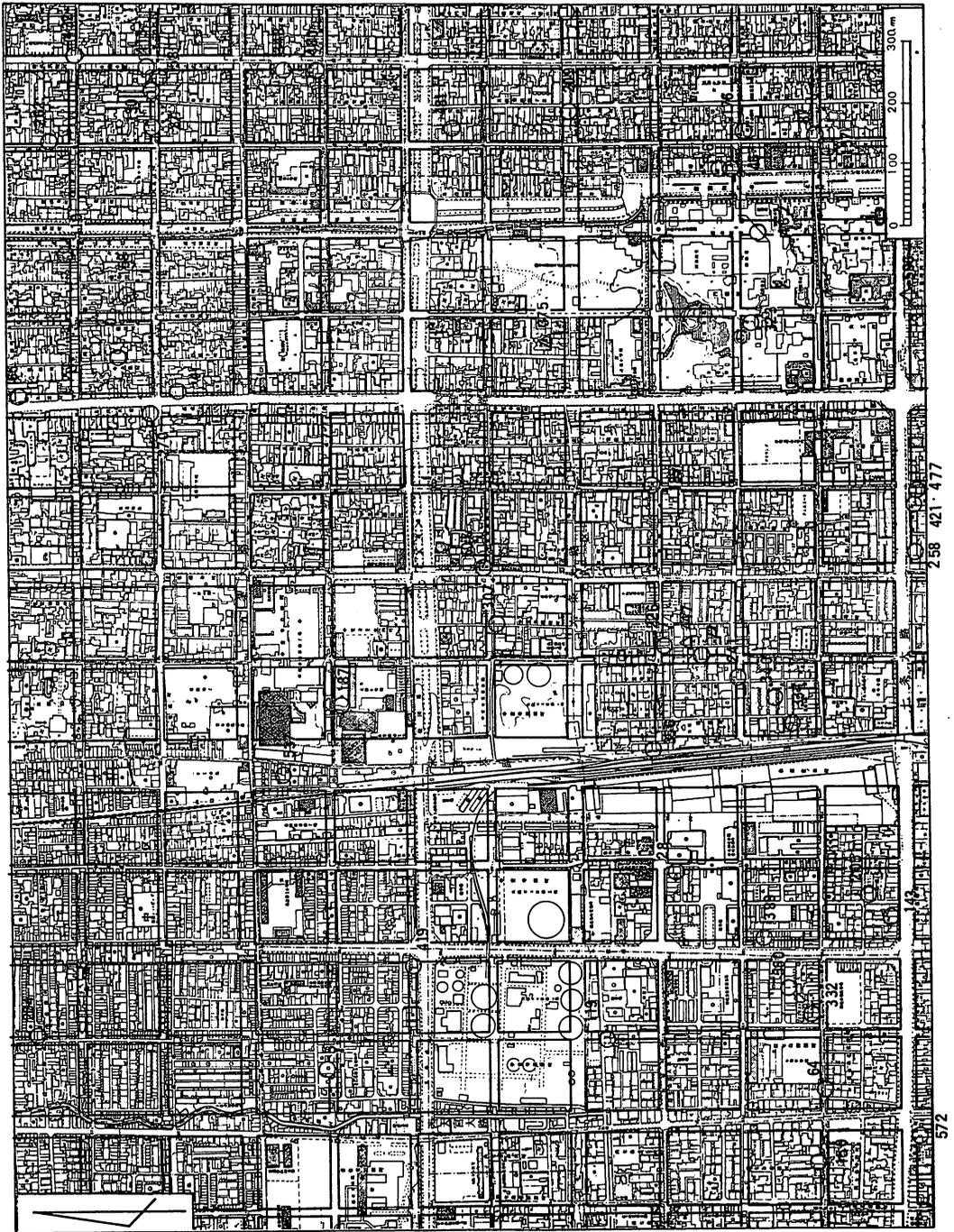


Fig 81 平安京条坊復元図及び調査位置図

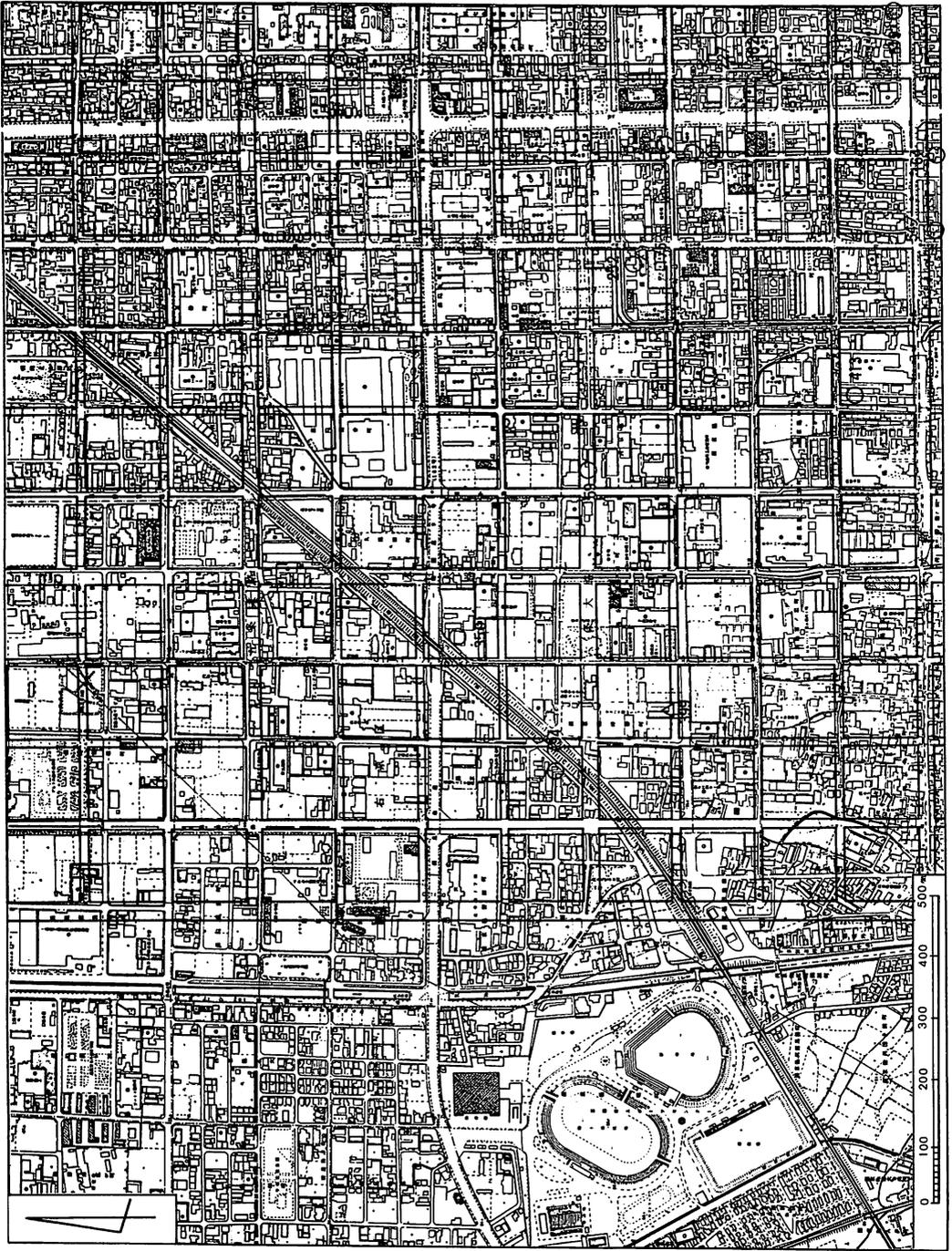


Fig 82 平安京条坊復元図及び調査位置図

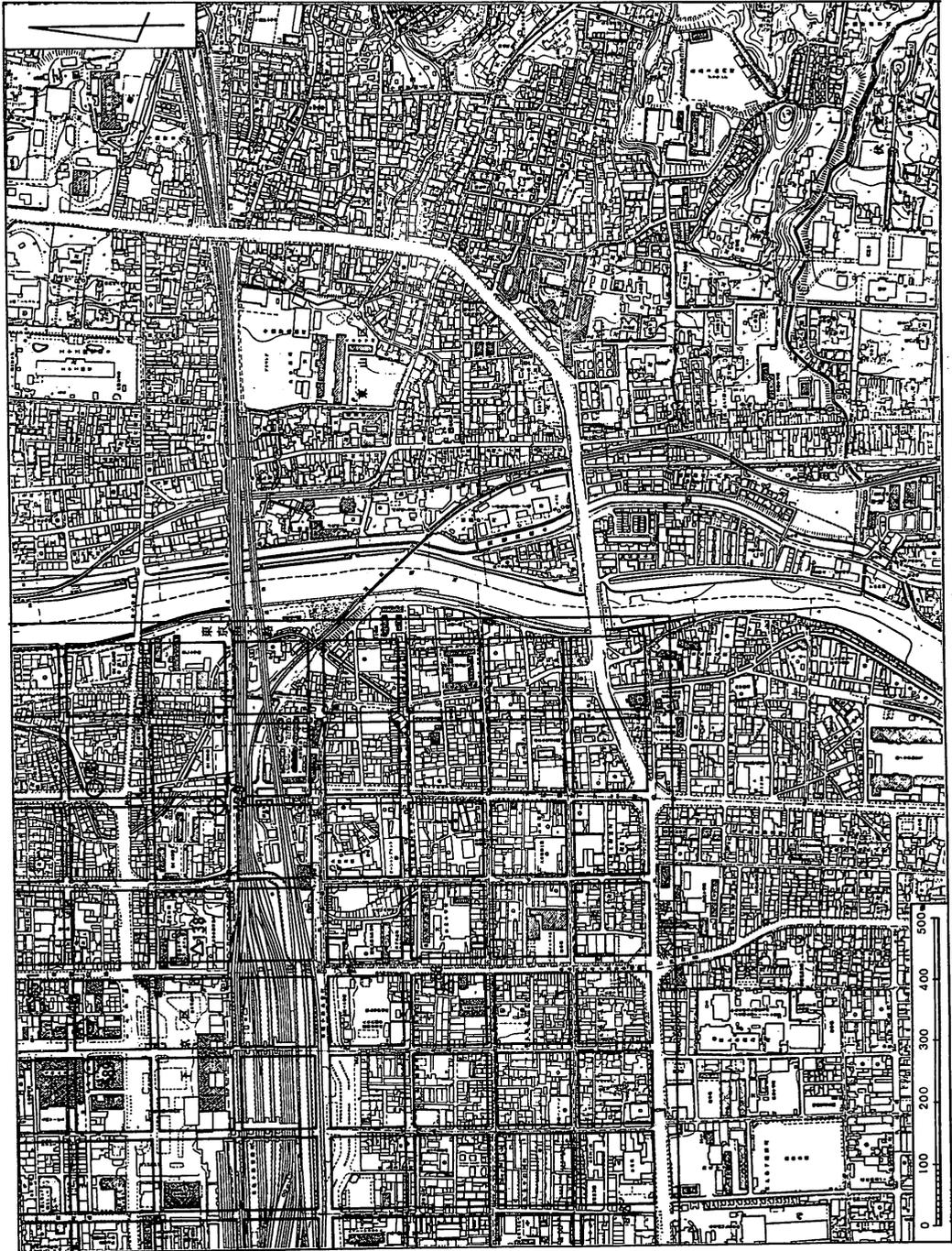


Fig 83 平安京条坊復元図及び調査位置図

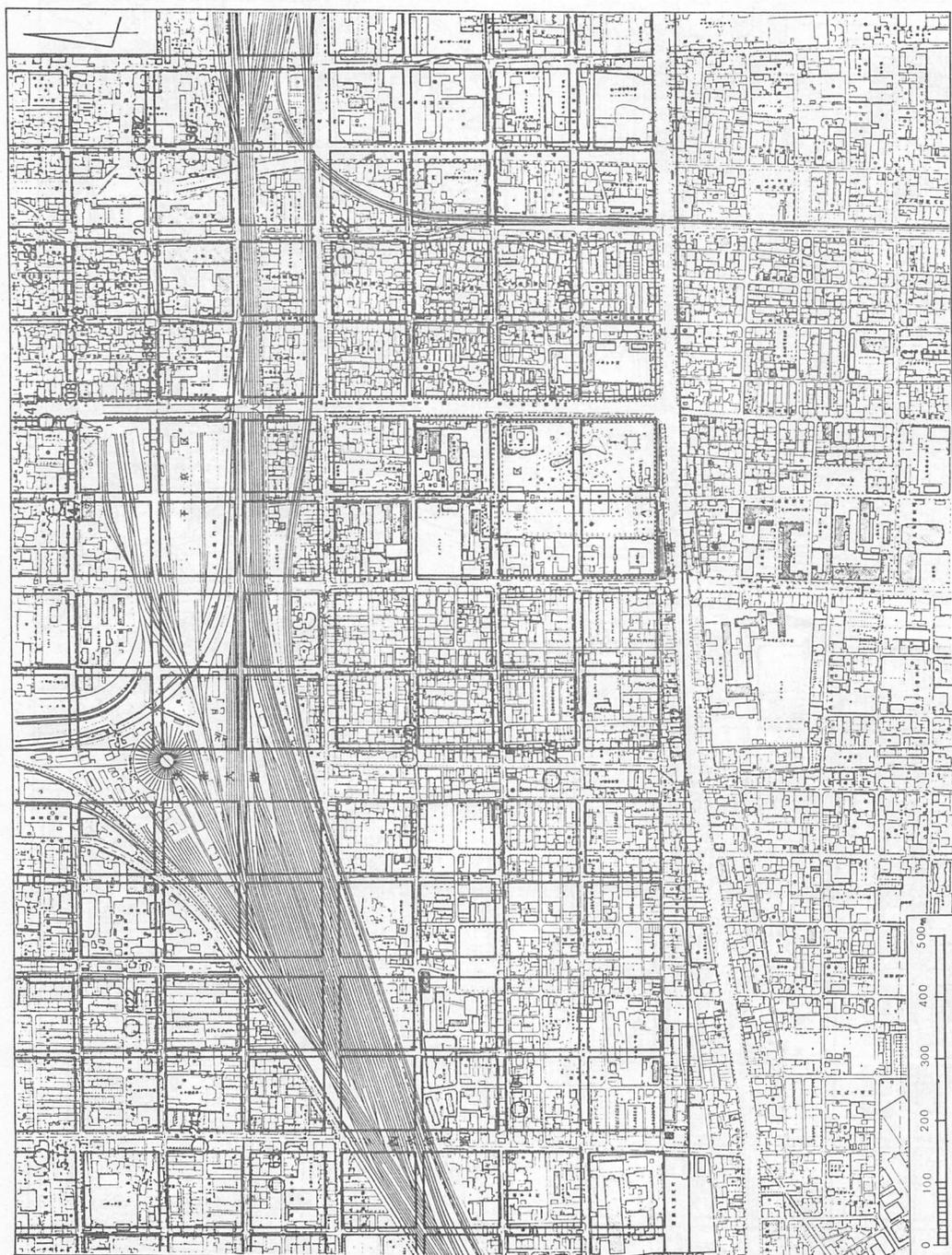


Fig 84 平安京条坊復元図及び調査位置図

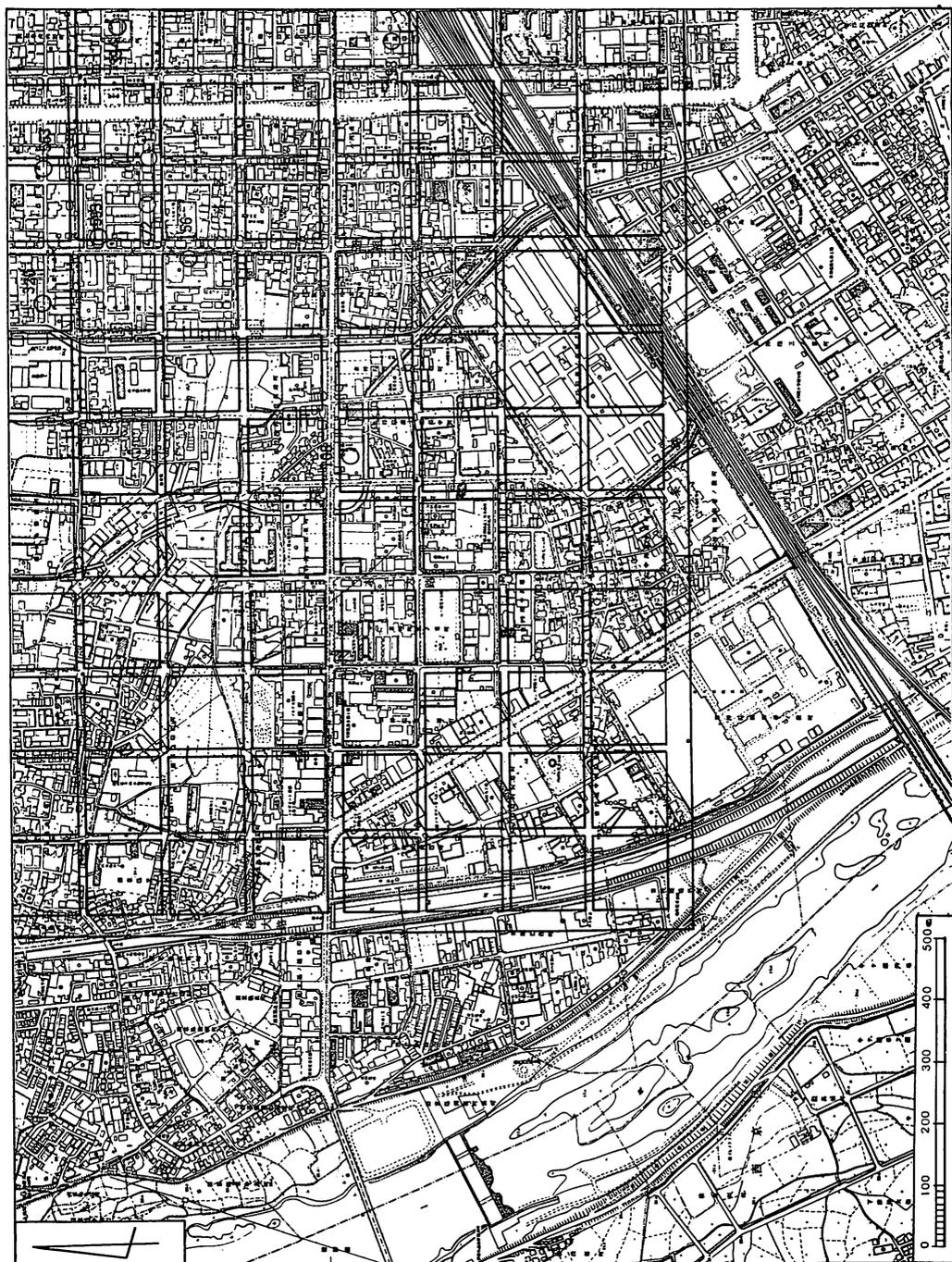


Fig 85 平安京条坊復元図及び調査位置図

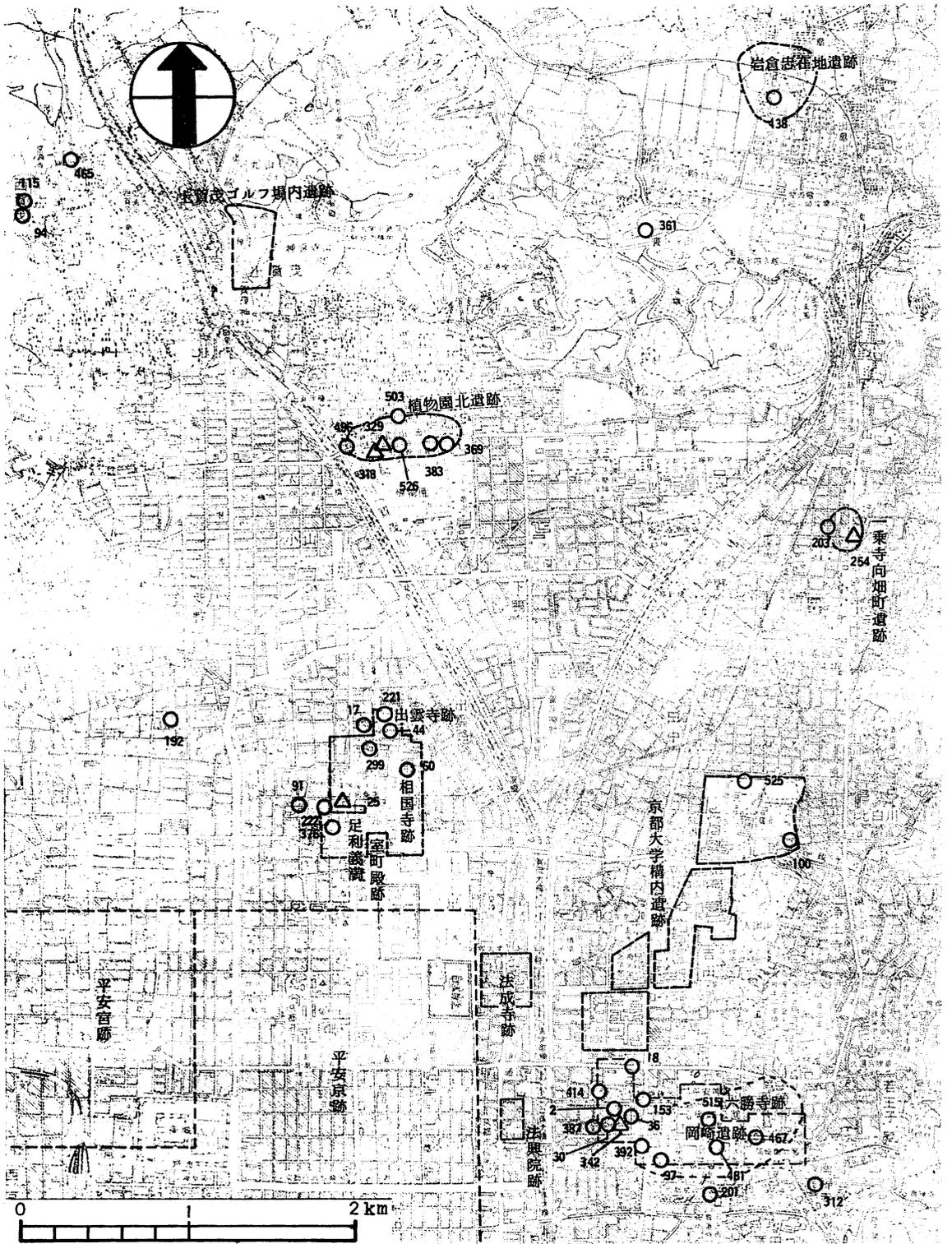


Fig 86 京都市北部調査位置図

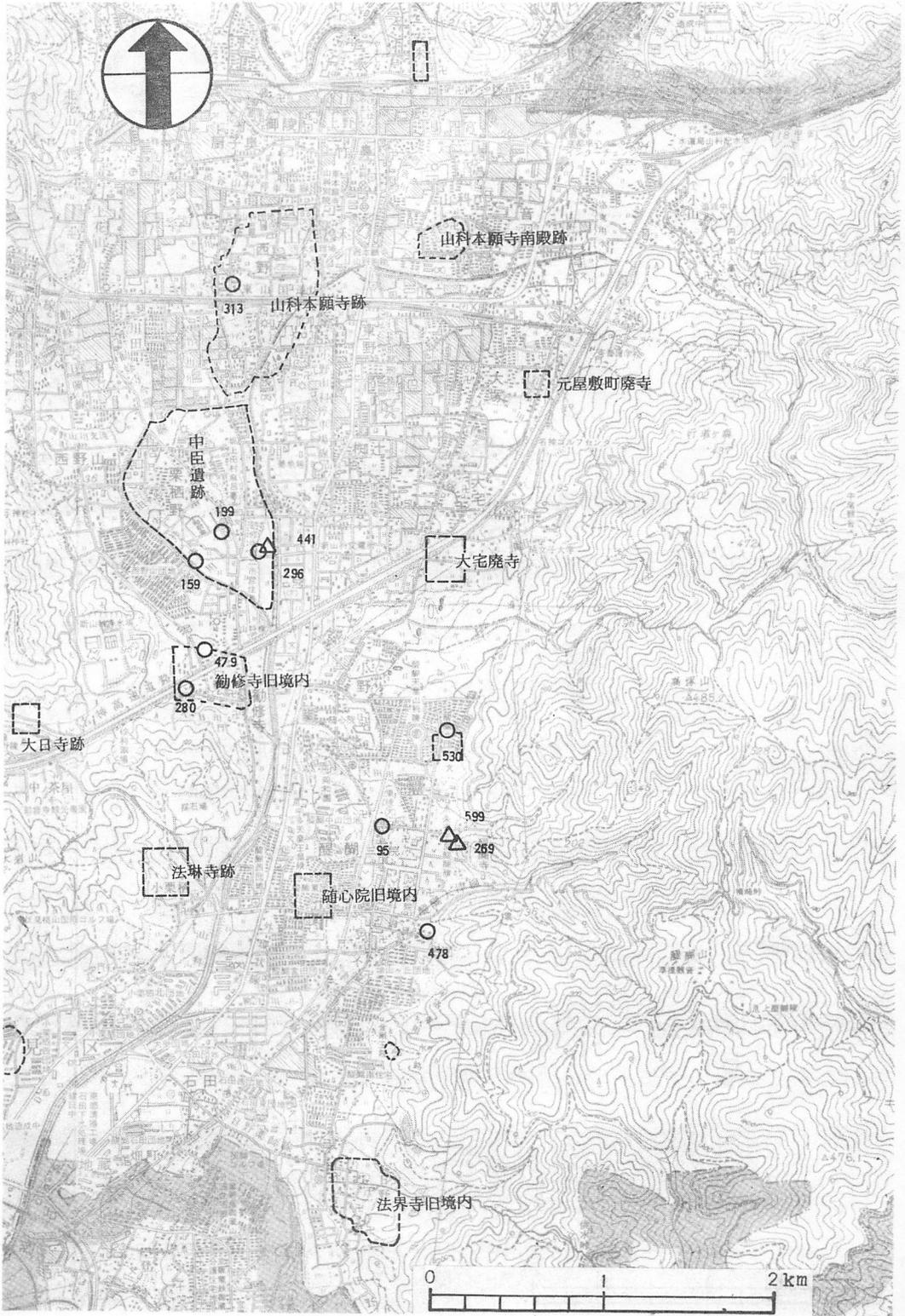


Fig 87 京都市東部調査位置図

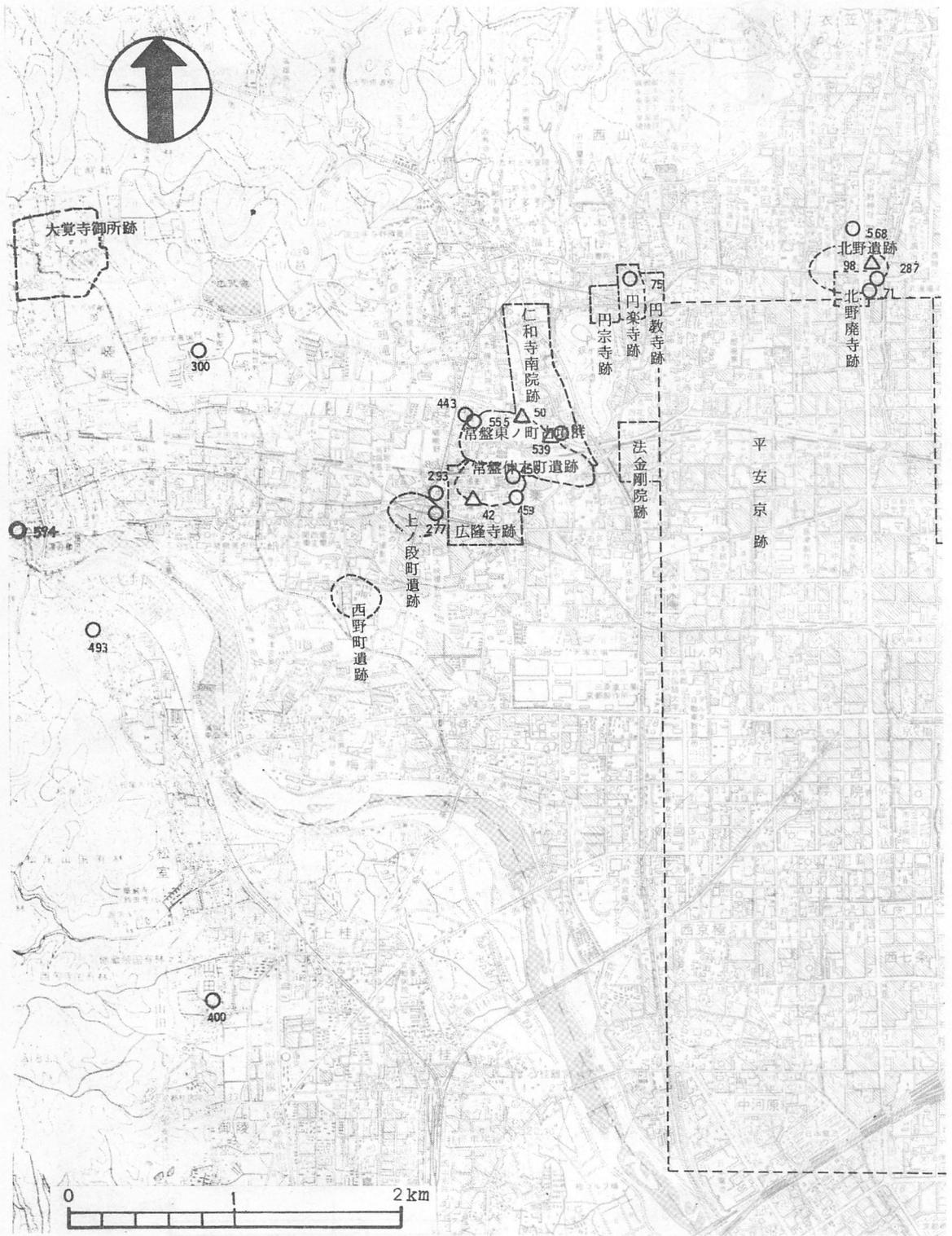


Fig 88 京都市西部調査位置図



Fig 89 京都市東南部調査位置図

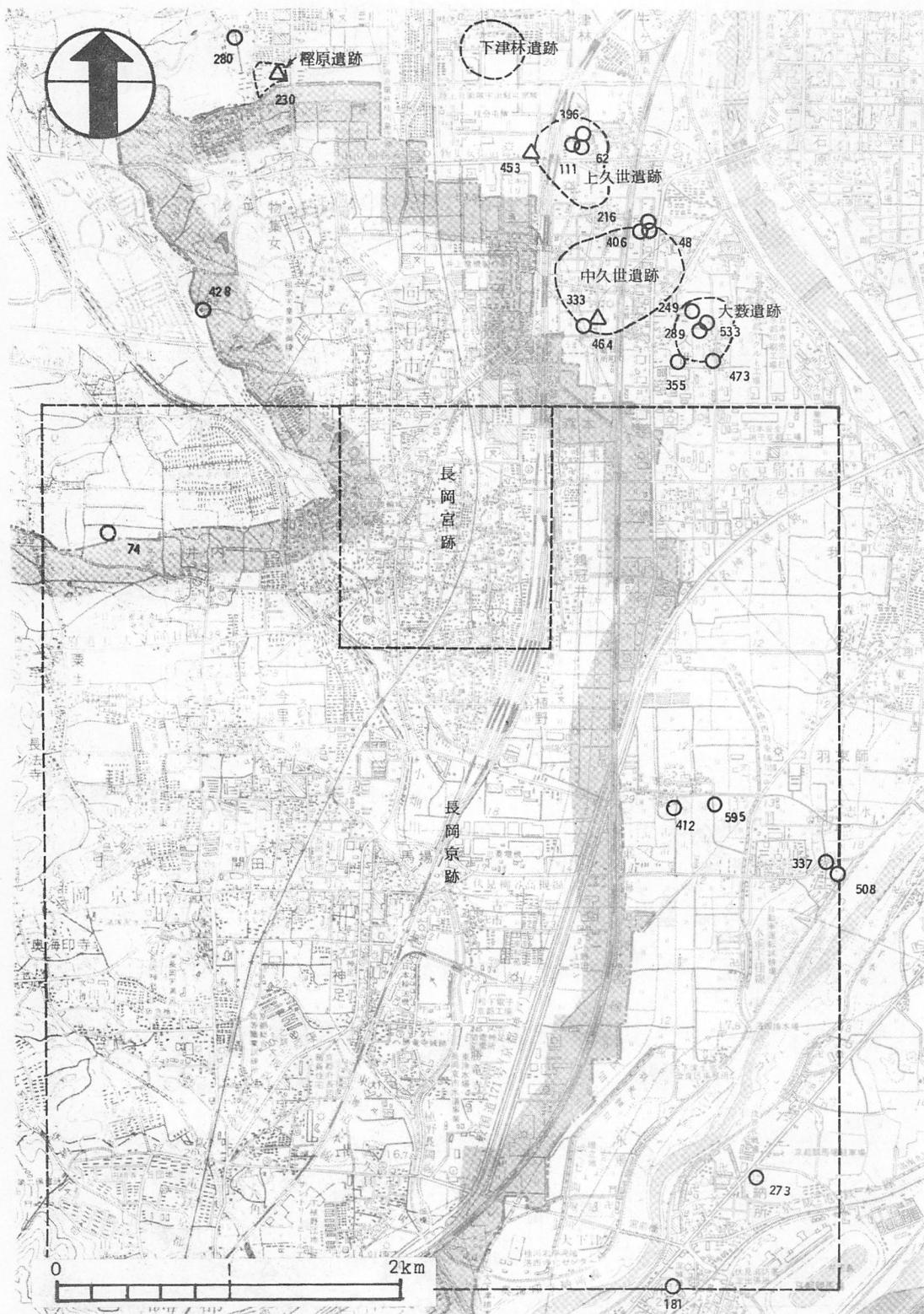


Fig 90 京都市西南部調査位置図



1. 平安京左京五条三坊跡
全景・東から (No. 506)



2. 平安京左京六条二坊跡
全景・北から (No. 375)



3. 平安京左京五条四坊跡 甕出土状況・西から (No. 178)



1. 平安京左京一条三坊跡 Dトレンチ全景・北から(No.233)



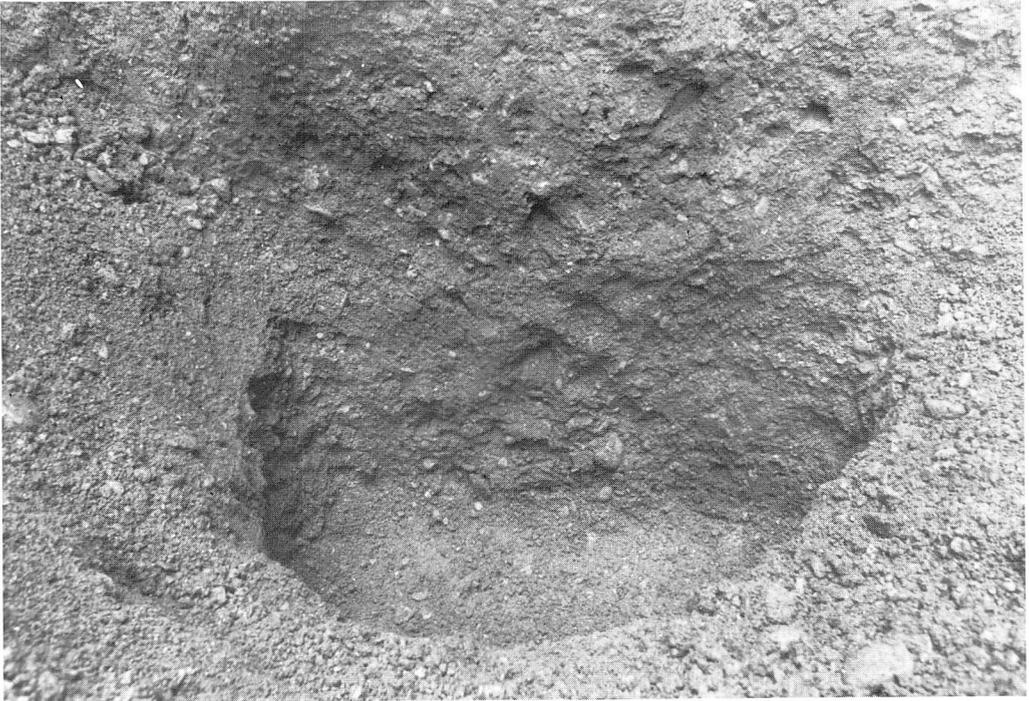
2. 平安京左京三条三坊跡 溝・SDI南壁東西断面・北から(No.171)



1. 平安京左京二条四坊跡 遺物出土状況・東から(No.251)



2. 平安京左京五条二坊跡 石組み遺構検出状況・西から(No.27)



1. 平安京左京五条三坊跡 井戸状遺構検出状況・東から (No. 317)



2. 平安京左京七条三坊跡 土壇墓検出状況・南から (No. 65)



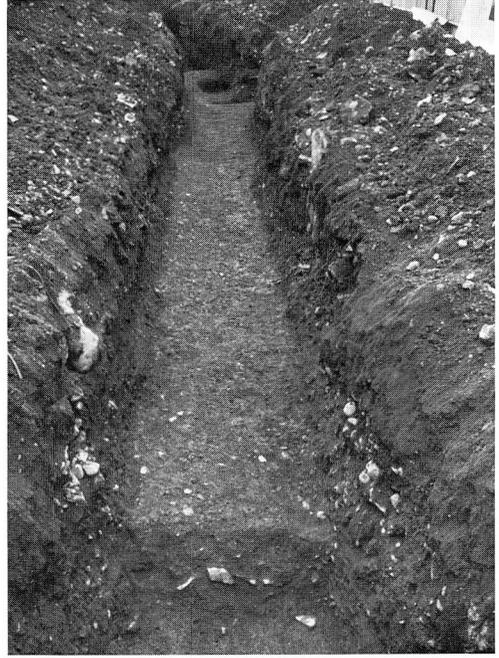
1. 平安京左京七条三坊跡 南壁東西断面・北から (No.301)



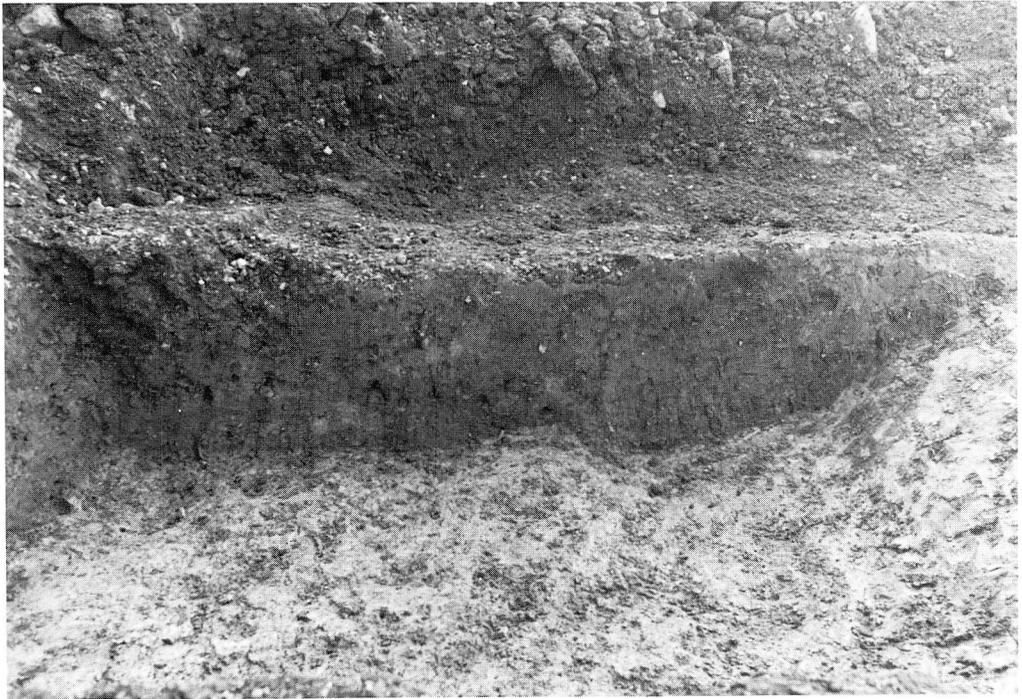
2. 平安京左京五条三坊跡 池・汀部分検出状況・南から (No.151)



1. 平安京左京七条三坊跡
七条坊門小路側溝検出状況（西から）



2. 同 左 （東から）
(No.408)



3. 平安京右京北辺三坊跡 溝断面・北から (No.403)



1. 平安京右京一条二坊跡 遺物出土状況・西から (No.559)



2. 平安京右京一条二坊跡 全景 (第一層)・北から (No.559)



1. 平安京右京一条二坊跡 溝断面（第三層）・南から（No.559）



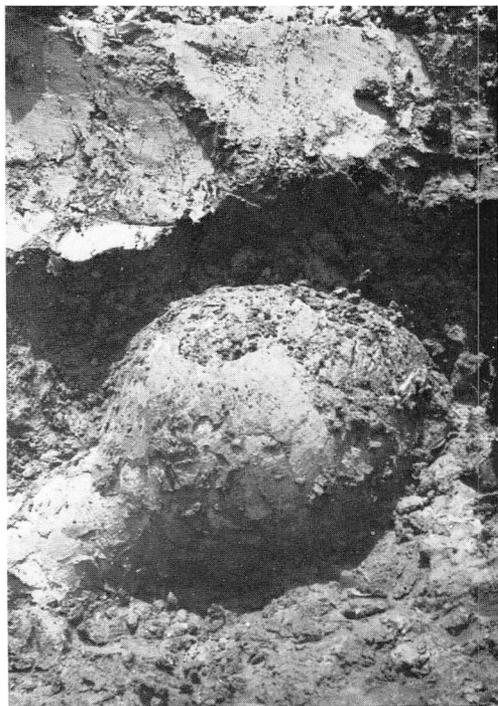
2. 平安京右京一条二坊跡 全景（第三層）・北から（No.559）



1. 平安京右京一条三坊跡 全景・南から (No.524)



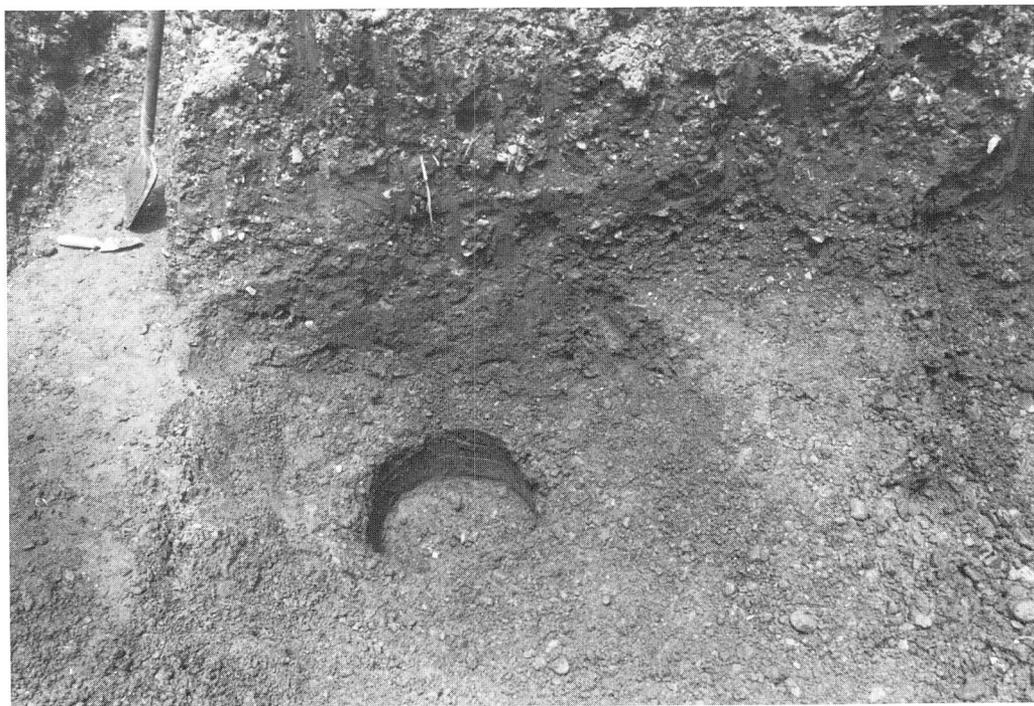
2. 平安京右京三条二坊跡 柱穴検出状況・南から (No.384)



1. 平安京右京六条四坊跡
弥生土器出土状況・北から (No.350)



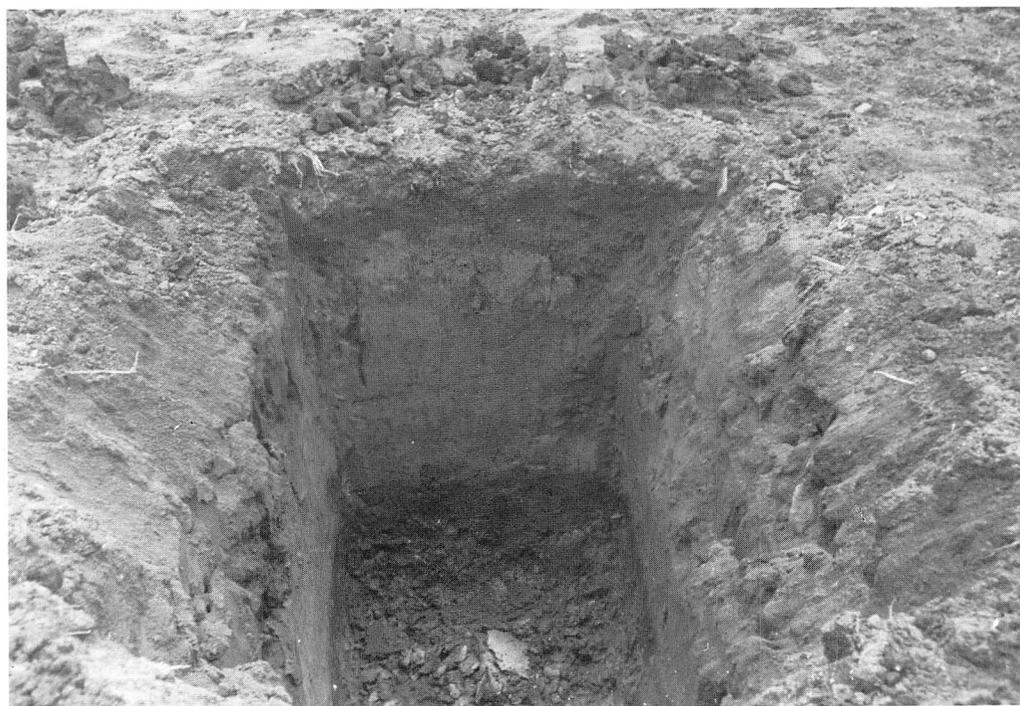
2. 平安京五条二坊跡
第2・第3トレンチ全景・南から (No.304)



3. 平安京右京八条二坊跡 井戸検出状況・南から (No.164)



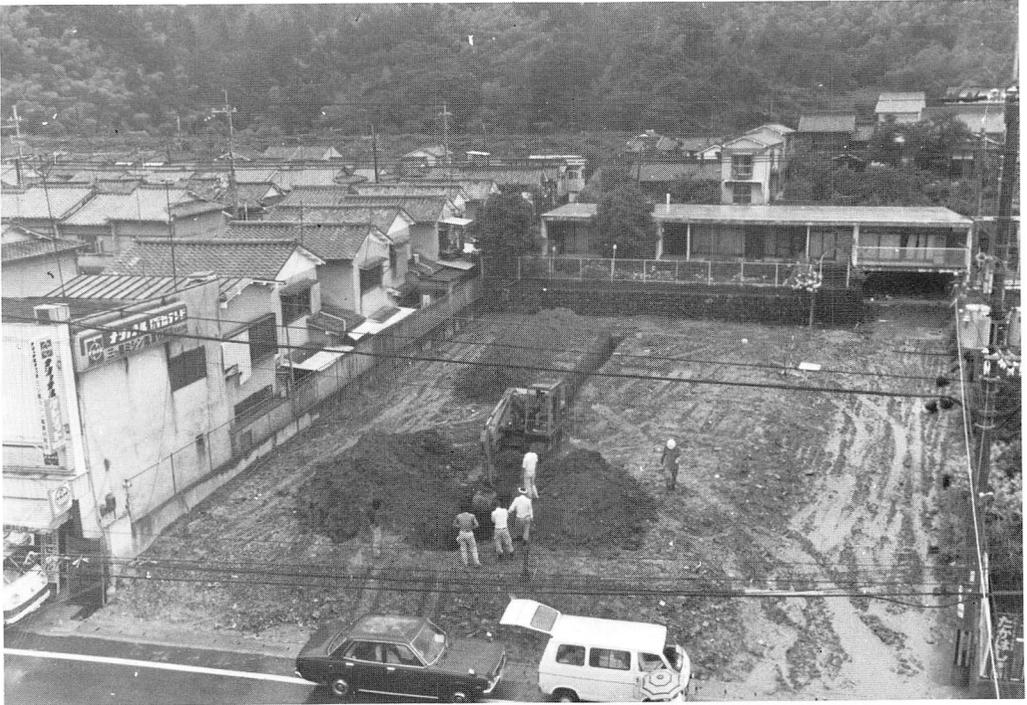
1. 鳥羽離宮跡 南壁東西断面・北から (No.133)



2. 上鳥羽遺跡, 南壁東西断面・北から (No.121)



1. 伏見城跡・西壁南北断面・東から (No.154)



2. 伏見城跡 全景・南から (No.154)



1. 伏見城跡 全景・北から(No.134)



2. 伏見城跡 石垣検出状況・南西から(No.134)



1. 植物園北遺跡 全景（第一層）・南から（No.329）



2. 植物園北遺跡 全景（第二層）・南から（No.329）



1. 醍醐寺旧境内 A 1区遺物出土状況・南西から (No.269)



2. 醍醐寺旧境内 C 3区土壇状遺構検出状況・南から (No.269)



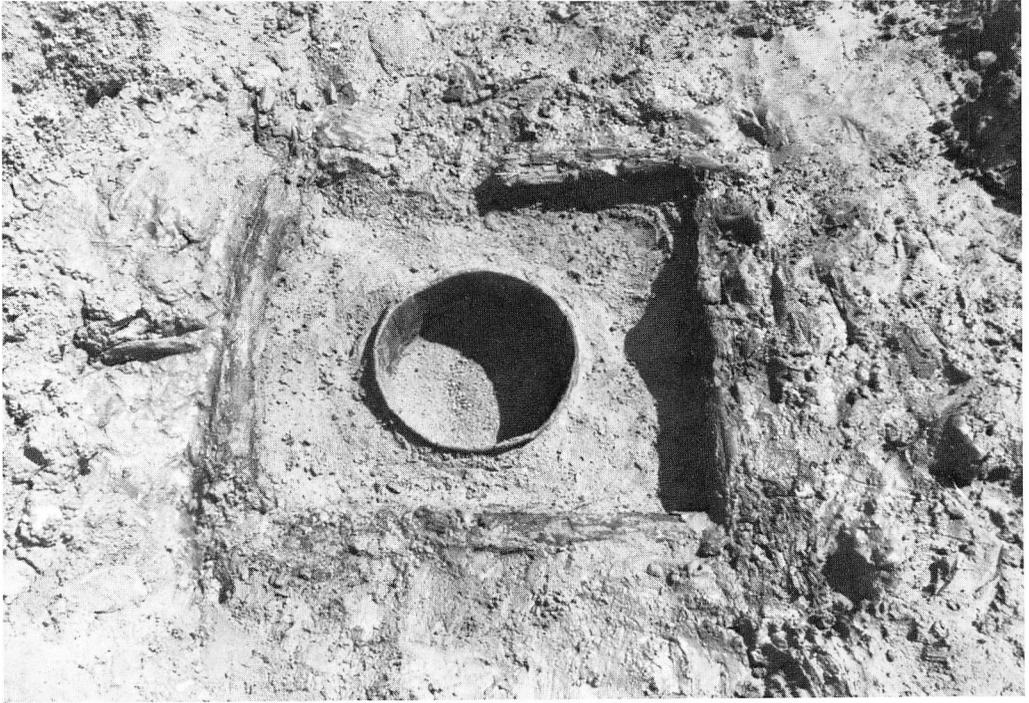
1. 中久世遺跡 全景南半分・北から
(No.333)



2. 西飯食町遺跡 調査区断面・東から
(No.446)



3. 西飯食町遺跡 全景・西から (No.446)



1. 西飯食町遺跡 井戸検出状況・南から (No.114)



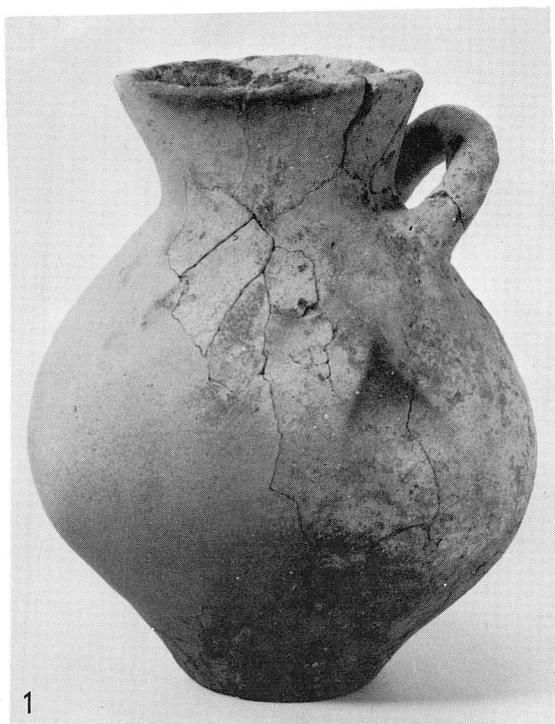
2. 西飯食町遺跡 東壁南北断面・西から (No.114)



1. 深草遺跡 瓦器碗出土状況・西から(No.390)

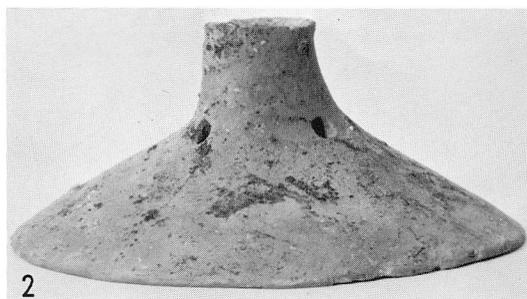
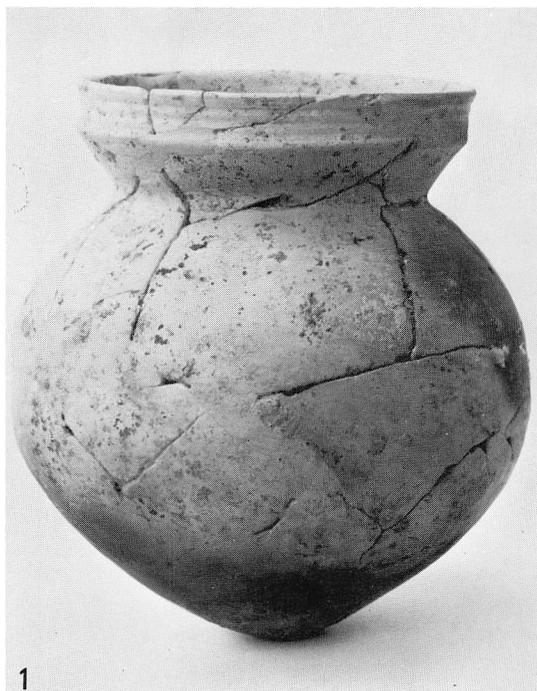


2. 法性寺跡 北壁東西断面・南西から(No.298)

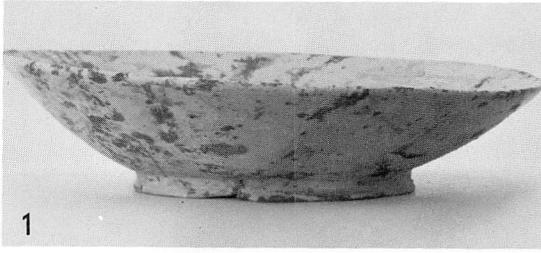


1・2・3 右京六条四坊(No.350)出土弥生土器

(1・水注 2・壺 3・線刻画のある甕)



1・2・3 左京五条三坊(No.353)出土土師器 4・右京一条二坊(No.559)出土
(1・壺 2・高杯脚部 3・壺) 灰釉陶器皿・墨書



- 1・左京八条二坊(No.472)出土 土師器杯
 2・3・4 右京二条二坊(No.440)出土
 5・6 左京六条二坊(No.375)出土 土師器鉢
 7・深草遺跡(No.390)出土 瓦器 碗
 8・左京八条三坊(No.328)出土 瓦器 釜
- $\left. \begin{array}{l} 2 \cdot \text{須恵器碗} \\ 3 \cdot \text{灰釉陶器碗} \\ 4 \end{array} \right\}$
 (遺物写真は京都市埋蔵文化財研究所の牛島 茂が担当した。)

京都市内遺跡試掘・立会調査報告

発行日 昭和55年3月31日

発行
編集 京都市文化観光局文化財保護課

住所 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都会館内
TEL (075)752-0205

印刷 京都市上京区下立売通り小川東入
中西印刷株式会社

